

杵原6号遺跡発掘調査報告書

—高屋町杵原住宅開発事業に係る発掘調査—

2019

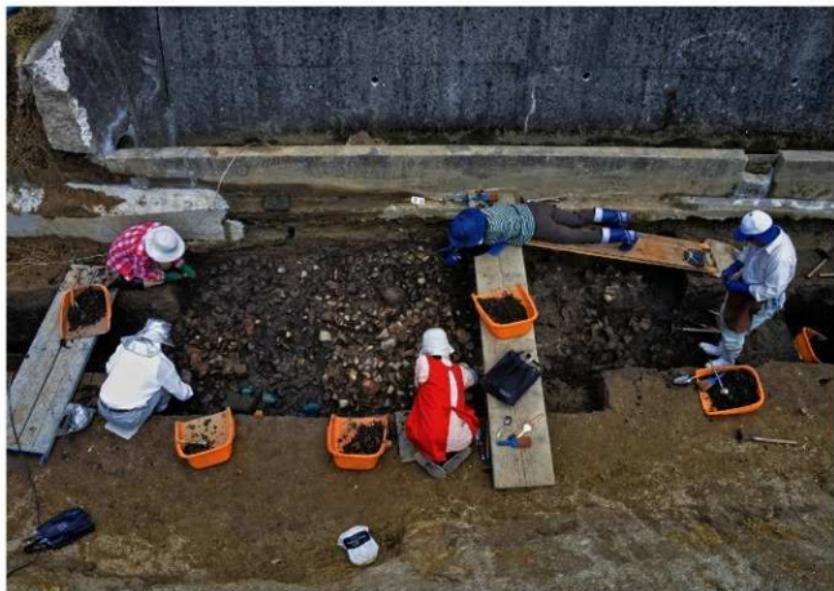
東広島市教育委員会

杵原 6 号遺跡発掘調査報告書

—高屋町杵原住宅開発事業に係る発掘調査—

2019

東広島市教育委員会



a. B-2区SW2土器片・礫集中部検出状況（南から）



b. SW2(SB4西側)遺物出土状況（312～319、南西から）

はしがき

広島県のほぼ中央に位置する東広島市は、県央の中核都市としての存在感が高まる中、「選ばれる都市、東広島」の実現に向けて、「仕事づくり」、「暮らしづくり」、「人づくり」、「活力づくり」、「安心づくり」の5つの施策の実現に取り組んでいます。

中でも、都市としての持続的な成長を維持しつつ、地域の活性化、生活の質的向上が実感でき、「仕事を暮らしもナンバーワン」と評価されるまちづくりを目指し、公共交通ネットワークの利便性向上や、交流・連携を支える交通基盤の整備などの重点施策を推進してきた結果、近郊周辺諸地域への通学、通勤の利便性から近年は人口もさらに増加しているところであります。

今回、発掘調査が実施された市東部に位置する高屋町は、弥生時代後期の大規模な集落跡が多数発見されるなど古い歴史をもつ地区で、東広島ニュータウンやあすかパーク等の開発整備事業の完了後、県立広島中高等学校、近畿大学等の学園都市整備などが進み、これに対応して、JR西高屋駅北側では宅地開発事業がさらに盛んになり、杵原6号遺跡も住宅開発事業に伴ってその一部が消滅することになりました。

本報告書は開発に先立って実施された発掘調査の成果を収録したものです。本書が当地域の歴史を解明する一助となり、埋蔵文化財の保護に対する理解を深めていただくための資料として広く活用されることを願っております。

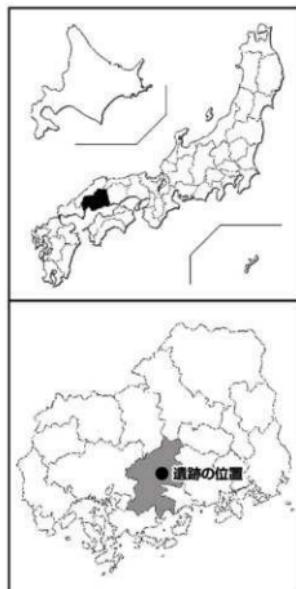
なお、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各機関、研究者の皆様及び地元の方々に対し、深く感謝いたします。

平成31年3月

東広島市教育委員会
教育長 津森毅

例 言

- 1 本書は、東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が発掘調査を実施した高屋町杵原住宅開発事業に係る杵原6号遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査はサンユーブランディング株式会社から委託を受けて、平成29（2016）年度に市教委が実施した。整理・報告書作成作業も同社から委託を受けて、平成29・30（2017・2018）年度に市教委が実施した。
- 3 発掘調査は、市教委の主査中山 学が担当し、市教委職員が協力した。
- 4 整理・報告書作成作業は中山と埋蔵文化財調査員日浦裕子、盛 菜つみが担当し、市教委職員が協力した。
- 5 遺構の実測は中山が行い、市教委職員が協力した。写真撮影は中山が行った。
- 6 遺物の実測は中山、日浦が行い、一部は株式会社四航コンサルタント広島営業所に委託した。
遺物の写真撮影は中山が行った。
- 7 基準杭の打設は、工事施工者である株式会社明成が行った。
- 8 本書の内容は調査関係者で検討し、I～Vを中山が執筆し、遺構・遺物実測図の製図、出土遺物観察表の作成を日浦が行い、中山が編集した。
- 10 遺物実測図と写真図版の番号は同一である。
- 11 第1図は国土交通省国土地理院発行の1：25,000 地形図『白市』を使用した。
第2図は東広島市発行の1：2,500 東広島市地形図（N-10）を使用した。
- 12 本書で使用した方位は、世界測地系座標北（国土座標第III系）である。
- 13 本書で使用した遺構の表示記号は、次のとおりである。
- 14 SB：段状遺構・住居跡、SD：溝状遺構、SK：土坑、SX：性格不明遺構、
P：ピット、SW：自然流路
- 15 遺構番号は整理・報告書作成作業中に遺構でないと判断したものは、欠番となっている。
- 16 調査で得られた資料については、東広島市教育委員会が保管している。



広島県東広島市の位置

杵原6号遺跡発掘調査報告書

目 次

I	はじめに	1
II	位置と環境	3
III	調査の概要	7
IV	遺構と遺物	9
	(1) 遺構	9
	(2) 遺物	42
V	まとめ	85
抄録・奥付		

挿 図 目 次

第1図	杵原6号遺跡の位置と周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)	6
第2図	杵原6号遺跡と周辺地形図 (1 : 2,500)	8
第3図	杵原6号遺跡遺構配置図 (1 : 300)	折 达
第4図	SB1、SB1aP1実測図 (SB1-1 : 60、SB1aP1-1 : 30)	10
第5図	SB2、SD23実測図 (1 : 40)	11
第6図	SB2P1実測図 (1 : 20)	12
第7図	SB3実測図 (1 : 40)	13
第8図	SB4実測図 (1 : 40)	14
第9図	SB4P3・4・6実測図 (1 : 20)	15
第10図	SB5実測図 (1 : 40)	16
第11図	SB5P1～6実測図 (1 : 20)	17
第12図	SB6・7実測図 (1 : 40)	折 达
第13図	SB7P3～5・7・8実測図 (1 : 20)	19
第14図	SB8、壁溝、炉跡実測図 (SB8-1 : 40、壁溝・炉跡-1 : 20)	折 达
第15図	SB8土層断面実測図 (1 : 40)	21
第16図	SB8P2～5・7・10実測図 (1 : 20)	22
第17図	SB8P8・14・15・17～19・21・22実測図 (1 : 20)	23
第18図	SD1～3実測図 (平面図1 : 80、断面図1 : 20)	24
第19図	SD4～7・18実測図 (平面図1 : 80、断面図1 : 20)	25
第20図	SD8・9・13～15実測図 (平面図1 : 80、断面図1 : 30)	26
第21図	SD10～12・16・17実測図 (平面図1 : 60、断面図1 : 20)	27
第22図	SD19実測図 (1 : 20)	28
第23図	SD20～22実測図 (平面図1 : 80、断面図1 : 20)	29
第24図	SD24～29実測図 (平面図1 : 80、断面図1 : 20)	30
第25図	SD31～34実測図 (平面図1 : 60、断面図1 : 20)	31
第26図	SK1～5実測図 (1 : 30)	32
第27図	SK6・7・11～13実測図 (1 : 30)	33
第28図	SX1・2実測図 (1 : 50)	34
第29図	SX1・2土層断面実測図 (A-A'断面1 : 40、B-B'断面1 : 30)	35
第30図	SX5・7～9実測図 (1 : 30)	36
第31図	ピット実測図 (1 : 20)	37
第32図	SW1実測図 (1 : 60)	折 达
第33図	SW2実測図 (1 : 100)	折 达
第34図	SW3実測図 (1 : 60)	折 达
第35図	SW2(SB4西側)遺物出土実測図 (1 : 40)	39
第36～62図	出土遺物出土実測図1～27 (1 : 3)	48～74

卷頭図版目次

卷頭図版a. B-2区SW2土器片・礫集中部検出状況（南から）
卷頭図版b. SW2(SB4西側)遺物出土状況（312～319、南西から）

表 目 次

第1表 杵原6号遺跡出土遺物観察表

第2表 弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年

図 版 目 次

- 扉 SB6・7作業状況（西から）
- 図版 1 a. 調査前遠景（南から）
b. SB1完掘状況（西から）
- 図版 2 a. SB2完掘状況（南西から）
b. SB3完掘状況（西から）
- 図版 3 a. SB4完掘状況（西から）
b. SB5完掘状況（南西から）
- 図版 4 a. SB6・7完掘状況（西から）
b. SB7遺物出土状況（西から）
c. SB7遺物出土状況（45）（北東から）
- 図版 5 a. SB8完掘状況（南から）
b. SB8遺物出土状況（58）（南から）
c. SB8遺物出土状況（66、70）（南から）
- 図版 6 a. SD1完掘状況（西から）
b. SD2完掘状況（北から）
c. SD3完掘状況（北から）
- 図版 7 a. SD8完掘状況（北西から）
b. SD19完掘状況（東から）
c. SD21土層設定状況（東から）
d. SD22土層設定状況（西から）
- 図版 8 a. SD24～30完掘状況（西から）
b. SD31～34完掘状況（西から）
- 図版 9 a. SK1・2土層断面（南から）
b. SK1・2完掘状況（南から）
c. SK4土層断面（南から）
d. SK4完掘状況（南から）
e. SK6・7土層断面（南西から）
f. SK6・7完掘状況（南西から）
- g. SK11土層断面（南から）
h. SK11完掘状況（南から）
- 図版10 a. SK12土層断面（南西から）
b. SK12完掘状況（南西から）
c. SK13土層断面（南西から）
d. SK13完掘状況（南西から）
e. SX1・2完掘状況（北西から）
f. SX5土層断面（南から）
g. SX7完掘状況（南から）
h. SX8土層断面（南東から）
- 図版11 a. SX8完掘状況（南西から）
b. SX9土層断面（東から）
c. SX9遺物出土状況（89）（南から）
d. SX9完掘状況（南から）
- e. B-2区SW1検出状況（東から）
f. B-2区SW1土層断面（東から）
- 図版12 a. B-2区SW2土器片・礫集中部検出状況（南から）
b. B-2区SW2土器片・礫集中部近接状況（南から）
- 図版13 a. B-2区SW2遺物出土状況（138）（南から）
b. B-2区SW2遺物出土状況（174）（南から）
c. B-2区SW2遺物出土状況（西から）
d. B-2区SW3遺物出土状況（253、279）（西から）
- 図版14 a. SW2（SB4西側）遺物出土状況（312～319）
b. SW2（SB4西側）遺物出土状況（312～319）
（西から）
（北西から）
- 図版15～42. 出土遺物 1～28

I はじめに

杵原6号遺跡は、東広島市高屋町杵原1371番ほか14箇に所在する。

本遺跡の発見と調査に至る経緯は、以下のとおりである。

平成26年10月30日付けで東亜ハウス株式会社から東広島市教育委員会教育長（以下「市教委」という。）へ高屋杵原戸建用地宅造工事の事業計画地内における、文化財等の有無及び取り扱いについて協議があった。これを受け、市教委は現地の分布調査を行い、計画地のすぐ北側に弥生時代の包含地である正原2号遺跡が存在することなどから、平成26年10月31日付で遺跡の有無及び範囲を確認するための試掘調査が必要な旨を回答した。

平成26年11月17日付けで東亜ハウス株式会社から試掘調査の依頼があり、市教委が試掘調査を実施した結果、計画地北側を中心に土坑や溝状遺構、弥生土器の包含層が検出されたため、平成26年12月19日付けで杵原6号遺跡を確認したことを回答したが、東亜ハウス株式会社はその後、事業計画を中止した。

平成27年7月23日付でサンユーブランニング株式会社（以下「サンユーブランニング」という。）が高屋町杵原住宅開発事業としてほぼ同じ計画範囲で文化財等の有無及び取り扱いについて協議を行ったため、前回の試掘成果をもとに杵原6号遺跡が存在する旨を平成27年8月7日付けで回答した。市教委とサンユーブランニングは遺跡の現状保存について協議を重ねたが、道路敷設部分や切土による宅盤造成を行う部分については現状保存が困難であるとの結論に達したため、発掘調査による遺跡の記録保存を図ることとなり、市教委が発掘調査を実施することになった。

これを受けてサンユーブランニング株式会社から平成28年1月13日付けで埋蔵文化財発掘の通知（土木工事の届出）が提出され、市教委は、事前の発掘調査が必要な旨を平成28年3月3日付けで通知した。その後、サンユーブランニングから平成28年3月29日に発掘調査の依頼が提出され、市教委は、平成28年4月6日に承諾する旨を回答した。

発掘調査は事業の進捗上2箇所の調査区に分け、南側のA区（750m²）について平成28年5月12日付で契約を締結し、平成28年5月17日から7月7日まで発掘調査を実施した。北側のB区（2,000m²）については平成28年7月11日付けで契約を締結し、平成28年7月19日から11月30日まで発掘調査を実施した。整理作業及び報告書作成作業は当初、平成29年9月15日から平成30年3月30日まで実施する予定であったが、遺物の出土量が多く、整理作業と遺物実測に日数を要したため平成31年3月29日まで期間を延長した。合わせて遺物及び図面・写真などの収蔵作業も実施した。

本書は、以上のような経緯を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当地の文化財資料として、また、文化・歴史探究の一助として広く活用していただければ幸いである。

事業者であるサンユーブランニング株式会社代表取締役 山下雅司氏から発掘調査、整理作業、報告書作成作業の便宜を図っていただいた。また、発掘調査にあたっては、工事施工者である株式会社明成 尾原睦明、宮川 伸氏には表土掘削や基準杭の打設などでご協力を得た。末筆ながら記して謝意を表したい。

調査体制

平成28年度

東広島市教育委員会

教育長：下川聖二（平成28年6月まで）

津森 翼（平成28年7月から）

生涯学習部長：天神山勝浩

文化課長：福光直美

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

調査 調査係主査：中山 学

埋蔵文化財調査員 吉田由弥、日浦裕子

事務 主査：萩原真史、事務職員：片山由紀子

平成29年度

東広島市教育委員会

教育長：津森 翼

生涯学習部長：下宮 茂

文化課長：岡田誠有

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

調査 調査係主査：中山 学

埋蔵文化財調査員 日浦裕子、盛 葉つみ

事務 主査：松仁 猛、事務職員：片山由紀子

平成30年度

東広島市教育委員会

教育長：津森 翼

生涯学習部長：國廣政和

文化課長：岡田誠有

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

調査 調査係主査：中山 学

埋蔵文化財調査員 日浦裕子、盛 葉つみ

事務 主査：松仁 猛、事務職員：片山由紀子

発掘調査ならびに整理作業に携わった方々は次のとおりである。記して謝意に代えたい。

【発掘調査】(50音順敬称略)

江角みゆき、大田修司、河原聖子、佐々木二三子、佐々木幸治、菅原健雄、鈴木豊美、高橋貞明、高橋律子、
田中知子、桧村直久、福山文子、二川哲利、向井都志枝、村上美千代、米川幹男

【整理作業】(50音順敬称略)

上村澄江、越本洋子、村上美千代

II 位置と環境

杵原6号遺跡⁽¹⁾の所在する東広島市高屋町は、広島県中部から南部に広がる賀茂台地の東側に位置する。高屋町は黒瀬川による大規模な沖積地がひろがる西条盆地中央部とは異なり、小河川によって樹枝状に開析された浸食谷が入り組む標高約220～260mのなだらかな低丘陵が南部を中心には広がっている。浸食谷は谷奥まで水田が形成されており、隠田的な景観を呈している。

低丘陵の周囲は標高約400～500mの丘陵が取り囲んでおり、そのひとつである大久保山(455.7m)南麓に源を発する杵原川は北西から南東へと南下し、JR西高屋駅東側で東西に流れる入野川と合流して低丘陵に囲まれた小規模な沖積地を形成している。遺跡はこの沖積地北側の丘陵先端部に位置しており、JR西高屋駅の北側約600mに所在する。

以下、高屋町周辺の主な遺跡について時代毎に概観する。

【旧石器・縄文時代】 旧石器時代の遺跡は、後述する森信第10号古墳の墳丘下でスクレイバー（削器）が1点、溝口2号遺跡⁽²⁾でナイフ形石器が数点出土しているが、遺構は確認されていない。縄文時代の遺構も確認されていないが、横ヶ坪3号遺跡⁽³⁾で後期の土器片が数点出土している。

【弥生時代】 弥生時代前期の遺跡も少なく、原の谷遺跡⁽⁴⁾で前期の土器片が採集されている。弥生時代中期になると遺跡数が増加はじめ、後期には低丘陵上の多くに集落が分布する。弥生時代中期の遺跡としては、宮領1号遺跡⁽⁵⁾から住居跡、浄福寺1号遺跡⁽⁶⁾から住居跡や貯蔵穴が検出されているが、これらはいずれも小規模な集落跡である。本遺跡と同じ杵原川流域では川の西側低丘陵上に位置する西本1号遺跡⁽⁷⁾、西本2号遺跡⁽⁸⁾、西本3・4号遺跡⁽⁹⁾や西本6号遺跡⁽¹⁰⁾が中期から後期にかけての大規模な集落跡や墳墓群である。本遺跡の北側の低丘陵上に立地する浄福寺2号遺跡⁽¹¹⁾でも、弥生時代後期を中心とした竪穴住居跡、貯蔵穴が多数検出されており、また住居群からやや離れた場所には、箱式石棺墓や土坑墓などで構成された墳墓群がある。高屋東3号遺跡⁽¹²⁾では、弥生時代後期後半を中心とした竪穴住居跡、土坑、土坑墓が検出されている。同一丘陵上に密集する墳墓群と住居跡群が近接して存在している状況は、本地域の弥生時代後期の特徴といえる。その他に、天神遺跡⁽¹³⁾、西8地点遺跡⁽¹⁴⁾、原の谷遺跡でも後期を中心とした住居跡、貯蔵穴などが検出されている。墳墓は、横ヶ坪2号遺跡⁽¹⁵⁾、横ヶ坪3号遺跡、高屋東2号遺跡⁽¹⁶⁾などでも確認されている。これらの墳墓は、箱式石棺墓や、石蓋土坑墓、土坑墓である。

【古墳時代】 前期の古墳としては、2基の竪穴式石室を内部主体とし4世紀初頭に位置づけられる才ガ迫第1号古墳⁽¹⁷⁾が高屋地域のみならず安芸中部域で最古の古墳である。4世紀後半に位置づけられる白鳥古墳⁽¹⁸⁾からは、三角縁神獣鏡や素面頭太刀が出土している。5世紀初めの仙人塚第1号古墳⁽¹⁹⁾は、箱型石棺を内部主体を持ち、珠文鏡や碧玉製石釧が出土している。5世紀以降は箱型石棺を内部主体とする直径10m前後の円墳が多くみられ、仙人塚2・3号古墳⁽²⁰⁾、福岡山古墳群⁽²¹⁾などがある。古墳群としては、約20基あまりで構成される森信古墳群が知られている。森信第1号古墳⁽²²⁾は6世紀前半に築造された全長約10mの前方後円墳である。森信第10号古墳⁽²³⁾は径11mの円墳で、竪穴式石室を内部主体とし6世紀前半に位置づけられる。古墳時代後半の6世紀中葉から7世紀後半には主体部に横穴式石室をもつ円墳が盛んに造られる。6世紀後半には原田岡山古墳群⁽²⁴⁾、大谷古墳群⁽²⁵⁾が造営され、7世紀後半以降（終末期）には、墳丘を持たない胡麻第4号古墳⁽²⁶⁾が築造される。集落跡では、前期の住居跡が杵原1号遺跡⁽²⁷⁾で確認されており、中期で

は原の谷遺跡などで集落跡が確認されているが、弥生時代と異なり小規模な集落である。西7地点遺跡⁽²⁹⁾では6世紀後半の水田跡が検出されている。また、胡麻2号遺跡⁽³⁰⁾からは多くのミニチュア土器、石製模造品が出土しており、祭祀遺跡と考えられる。

【古代】奈良・平安時代になると、律令体制が敷かれ、賀茂台地の大半は安芸国賀茂郡に属し、『和名類聚抄』に記載された賀茂郡9郷のうちの高屋郷が当地域にある。また、『西条町誌』は古代山陽道が高屋を経由して西条、八本松へと通過していたと想定し、駅家の「鹿附駅」を高屋地域に求めている。この時期の遺跡としては、西本6号遺跡から、飛鳥時代の棟持柱を持つ大規模な掘立柱建物跡が見つかっており、出土した墨書き土器の「解口(除か?)」の文字などから天武朝の大祓に伴う神殿跡と推定されている。その他に、奈良時代末から平安時代初めの住居跡が確認された淨福寺2号遺跡、西1地点遺跡⁽³¹⁾、西4地点遺跡⁽³²⁾、西5地点遺跡⁽³³⁾、銅製鎧帶(巡方)や須恵質の陶馬が出土した高屋うめの辺1号遺跡⁽³⁴⁾、平安時代の建物や土坑が検出された淨福寺1号遺跡などがある。のちにこの地域は国衙領をへて平安時代末期には大炊寮の便補保として莊園高屋保が形成される。

【中世】高屋保の地頭職である平賀氏に関しての遺跡が多く確認されているが、周辺では堀切や曲輪などが確認された古慈喜城跡⁽³⁵⁾がある。また、古墓としては土豪層の墓と考えられる別所古墓群⁽³⁶⁾がある。

参考文献

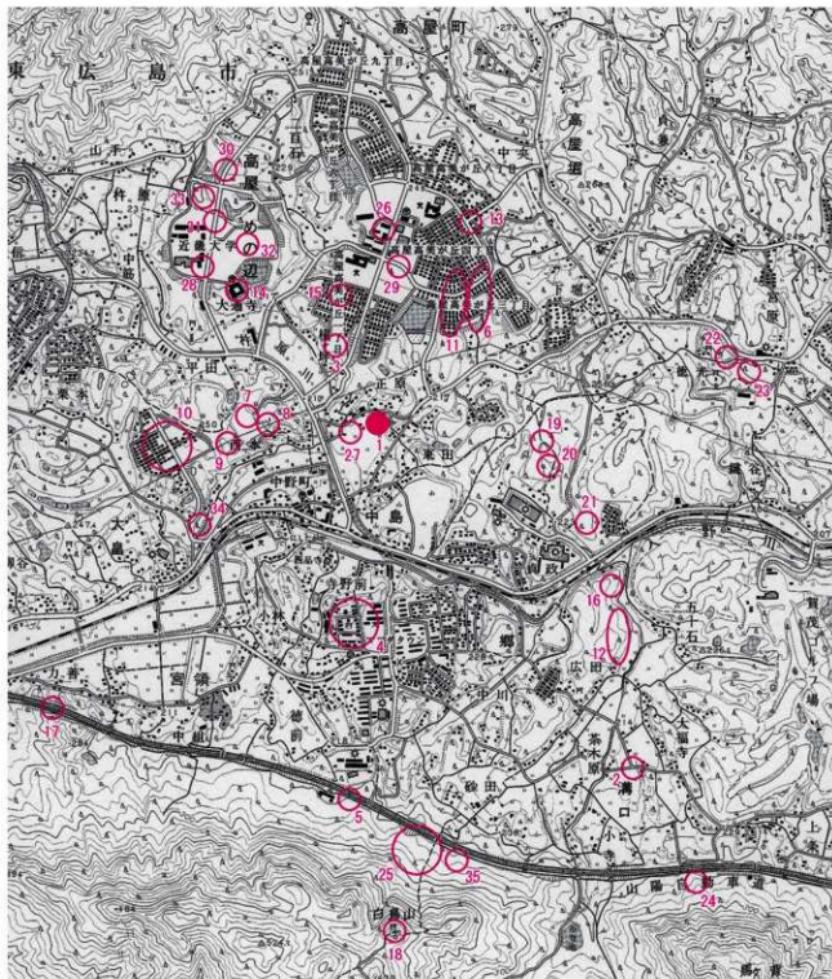
『広島県遺跡地図Ⅱ』呉市・東広島市・安芸郡・賀茂郡』広島県教育委員会 1994年

『西条町誌』賀茂郡西条町 1971年

註(番号は第1図の遺跡番号に対応)

- (1) 本報告書
- (2)『瀬口2号遺跡発掘調査報告書』財團法人東広島市教育文化振興事業団 2005年
- (3)『櫛ヶ坪3号道路(A地区)』『東広島ニュータウン遺跡群Ⅰ』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1990年
- (4)『原の谷遺跡発掘調査報告』『埋蔵文化財調査報告書』東広島市教育委員会 1985年
『原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書』財團法人東広島市教育文化振興事業団 2003年
- (5)『宮領1号道路』『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IV)』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1994年
- (6)『淨福寺1号道路』『東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (7)『西本遺跡群-A・B・C地点-』広島県教育委員会 1976年
- (8)『西本遺跡群-D・E・F地点-』『図録編』東広島市教育委員会 1976年
- (9)『西本2・3・4・7号道路発掘調査報告書』財團法人東広島市教育文化振興事業団 1999年
『西本3・4号遺跡』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1999年
- (10)『西本6号遺跡発掘調査報告書』淡沖文化財協会 1995年
『西本6号道路』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1997年
- (11)『西本6号道路』『東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (12)『高屋東2号・3号道路発掘調査報告書』財團法人東広島市教育文化振興事業団 2008年
- (13)『天神道路』『東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (14)『西8地点』『東広島ニュータウン遺跡群V』財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年

- (15)「楓ヶ坪2号遺跡」『東広島ニュータウン遺跡群I』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1990年
- (16) (12) と同じ
- (17)「才が追遺跡」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IX)』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (18) 古瀬清秀「白鳥古墳」『広島県大百科辞典 上巻』中国新聞社 1982年
- (19) 石井隆博「仙人塚古墳」『探訪・広島の古墳』芸術友の会 1991年
- (20) (19) 同じ
- (21) 東広島市教育委員会埋蔵文化財包蔵地調査カード高屋町9 高屋東
- (22) (23) 同じ
- (23)『森信第10号古墳発掘調査報告書』東広島市教育委員会 1990年
- (24)『原田岡山古墳』『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1994年
- (25) 東広島市教育委員会埋蔵文化財包蔵地調査カード高屋町6郷
- (26)「胡麻1号遺跡」『東広島ニュータウン遺跡群I』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1990年
- (27)『杵原1号遺跡発掘調査報告書』東広島市教育委員会 2007年
- (28)「西7地点」『東広島ニュータウン遺跡群V』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (29)「胡麻2号遺跡」『東広島ニュータウン遺跡群I』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1990年
- (30)『新住西1・4地点遺跡』近畿大学 1992年
- (31) (30) 同じ
- (32)「西5地点」『東広島ニュータウン遺跡群V』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (33)『高屋うめの辺1号・2号遺跡発掘調査報告書』財団法人東広島市教育文化振興事業団 2012年
- (34)『古慈喜城跡発掘調査報告書』財団法人東広島市教育文化振興事業団 1992年
- (35)「別所古墓群」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1994年



- | | | | |
|------------------|---------------|----------------|------------------|
| 1. 桟原 6 号遺跡 | 2. 溝口 2 号遺跡 | 3. 梶ヶ坪 3 号遺跡 | 4. 原の谷遺跡 |
| 5. 宮領 1 号遺跡 | 6. 净福寺 1 号遺跡 | 7. 西本 1 号遺跡 | 8. 西本 2 号遺跡 |
| 9. 西本 3・4 号遺跡 | 10. 西本 6 号遺跡 | 11. 净福寺 2 号遺跡 | 12. 高屋東 3 号遺跡 |
| 13. 天神遺跡 | 14. 西 8 地点遺跡 | 15. 梶ヶ坪 2 号遺跡 | 16. 高屋東 2 号遺跡 |
| 17. オガ追第 1 号古墳 | 18. 白鳥古墳 | 19. 仙人塚第 1 号古墳 | 20. 仙人塚第 2・3 号古墳 |
| 21. 福岡山古墳群 | 22. 森信第 1 号古墳 | 23. 森信第 10 号古墳 | 24. 原田岡山古墳群 |
| 25. 大谷古墳群 | 26. 胡麻第 4 号古墳 | 27. 桟原 1 号遺跡 | 28. 西 7 地点遺跡 |
| 29. 胡麻 2 号遺跡 | 30. 西 1 地点遺跡 | 31. 西 4 地点遺跡 | 32. 西 5 地点遺跡 |
| 33. 高屋うめの辺 1 号遺跡 | 34. 古慈喜城跡 | 35. 別所古墓群 | |

第1図 桟原 6 号遺跡の位置と周辺遺跡分布図(1:25,000)

III 調査の概要

発掘作業の概要

杵原6号遺跡は東広島市高屋町高屋堀から杵原に広がる低丘陵最南端の南向きの緩斜面に立地する。この場所は賀茂学園都市開発整備事業に伴って発掘調査が実施された、通称 東広島ニュータウン遺跡群に含まれる胡麻5号遺跡や横ヶ坪4号遺跡が立地していた標高250m前後の丘陵群から一段下がった標高220m前後の丘陵先端部にあたり、調査前の遺跡の標高は214～218mを測る。

遺跡の立地は南に向かって右手に杵原川、正面にその支流である正原川を望み眼下にはこれらの河川で形成された小規模な沖積地が広がっている。

すぐ北側の丘陵部には弥生時代の包含地である正原2号遺跡が立地しており、両者は市道杵原30号線で便宜的に分けられているが、本来は一体のものと考えられる。また、南西に約100mの平野部には古墳時代前期の集落跡である杵原1号遺跡が立地している。

発掘調査は、道路敷設や切土による宅盤造成が行われ、遺跡の現状保存が図れない箇所が対象であり、その他の部分については盛土を行い遺跡の現状保存が図られている。現地では遺跡確認のための試掘調査によって得られた遺構面までの深度、堆積土・遺物包含層・遺物の出土状況などのデータを基に、重機を使用して遺構や遺物がみられない堆積土を掘削した。その結果、中世の土師質土器鍋等も出土していたが、堆積土中からは当該期の遺構は確認されず、地山面（基盤層）からのみ後述する弥生時代から中世までの遺構面が検出されたため、その精査を人力で行った。

調査は住宅開発事業の工区に分けてA区から着手し、順次B-1区からB-4区の順に進めた。したがって調査区は時代や遺構の種別で分けている訳ではないが、便宜的に区毎に遺構の内容を略述すると、A区ではピットを伴う住居跡とみられる段状遺構や溝状遺構、土坑、性格不明遺構、自然流路が検出され、B区では弥生時代の円形竪穴住居跡、古墳時代の方形竪穴住居跡、溝状遺構、土坑、性格不明遺構、自然流路が検出された。自然流路はA・B両区を貫いて北から南に流れており、調査区の大半を占めていた。

調査で検出された遺構はA区で住居跡1棟、溝状遺構3条、土坑4基、性格不明遺構2基、自然流路2条、ピット数個、B区は住居跡7棟、溝状遺構31条、土坑6基、性格不明遺構4基、自然流路3条、ピット多数であった。

出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、陶磁器、砥石、敲打石、鉄製品、鉄滓等であった。特に自然流路からの弥生土器の出土量は多く、土師器を含めてコンテナ（340mm×540mm×100mm）で約130箱分が出土した。

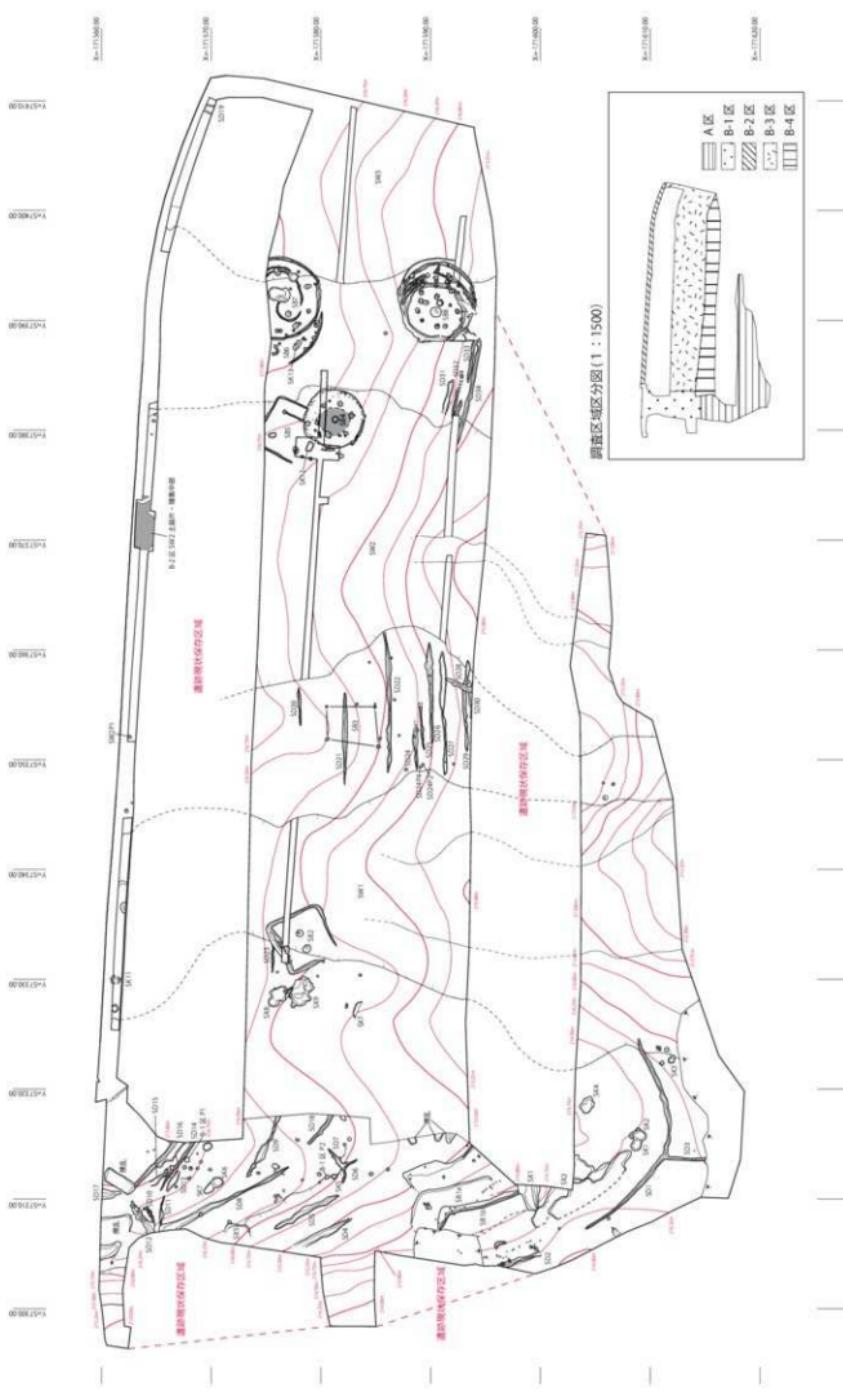
整理作業の概要

出土した遺物は、水洗と注記を実施した後、接合・復元作業、実測・写真撮影などを行った。整理・報告書作成作業と並行して、保管のための分類・収蔵作業も実施した。

なお、自然流路を中心に多量の遺物が出土するなど、予想を超える状況となつたため、整理作業の一部である遺物実測を外部委託により実施した。



第2図 片原6号遺跡と周辺地形図 (1 : 2,500)



第3圖 斜原6號遺跡遺物 (1 : 300)

IV 遺構と遺物

(1) 遺構

A区（第3図 図版1）

A区は計画地南側の丘陵先端部で西側が丘陵、東側は自然流路（SW1）である。調査区内の比高差は丘陵と自然流路で約1.75～2.0mである。調査区の基本層序は厚さ0.2～0.3mの水田肥土（黒褐色土）と厚さ0.1～0.2mの水田床土（明黄褐色土）の下に約0.1mの灰黄色土の堆積土が広がっており、その直下が地山面（遺構面）あるいは自然流路検出面となっている。これはB区でも共通している。

遺構はすべて地山面から検出された。

B区（第3図 図版1）

B区は計画地の東西約125mの範囲に及び、西側が丘陵、東側は3条の自然流路（SW1～3）が北から南に貫き、流路間は幅約15mの微高地である。調査区内の比高差はA区同様2m前後である。

A・B両調査区からの出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、近世陶磁器、砥石、敲打石、鉄斧、鉄鎌、鉄滓などである。

遺構番号は検出された順番に付与しているが、SK10、SX6は現地で擾乱と判断し、SK8、SK9、SX3、SX4は調査後に遺構でないと判断したためいずれも報告は行わない。

SB1（第4図、図版1）

A区北側で検出された段状遺構である。平面形は長方形を呈するとみられるが、斜面に位置するためほとんど削平され、特に南側は流失して、形状が不明瞭である。平坦面は二段になっており、上段のSB1aから柱穴とみられる根石を伴う浅いピットが1個検出された。下段のSB1bは壁溝とみられる浅い溝を伴っていた。規模は、東西約2.0m、南北約8.0mである。住居跡の可能性がある。

遺物は、土師器小片、須恵器杯・甕、土師質土器皿が出土した。

SB2（第5、6図、図版2）

B-3区西側で検出された方形の堅穴住居跡で、自然流路SW1西岸に位置し、東側は黒褐色の堆積土中に掘り込まれて構築されている。SW1下流側にあたる南西隅は流失している。規模は、東西約5.0m、南北約5.5m、壁の高さは約0.2mである。

床面から深さ約0.1～0.15mの壁溝が巡っている。床面の中央部には一対になる柱穴が2個（P2・3）みられ、直径は約0.6～0.7m、深さは約0.5～0.55mである。北側にややいびつな長方形のピット（P1）がみられ、2層から内面が赤色塗彩された土師器高杯が出土している。

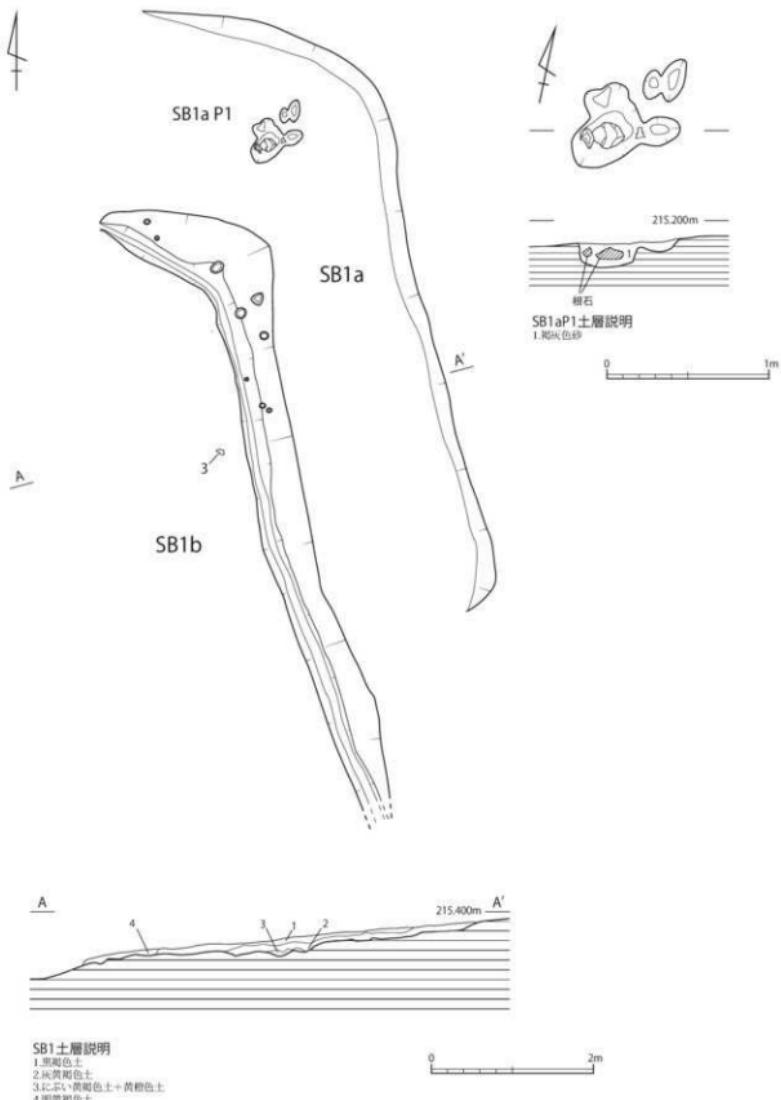
遺物は、埋土内から弥生土器壺・甕、土師器壺・甕・高杯、小型丸底壺、鼓形器台が出土した。

SB3（第7図、図版2）

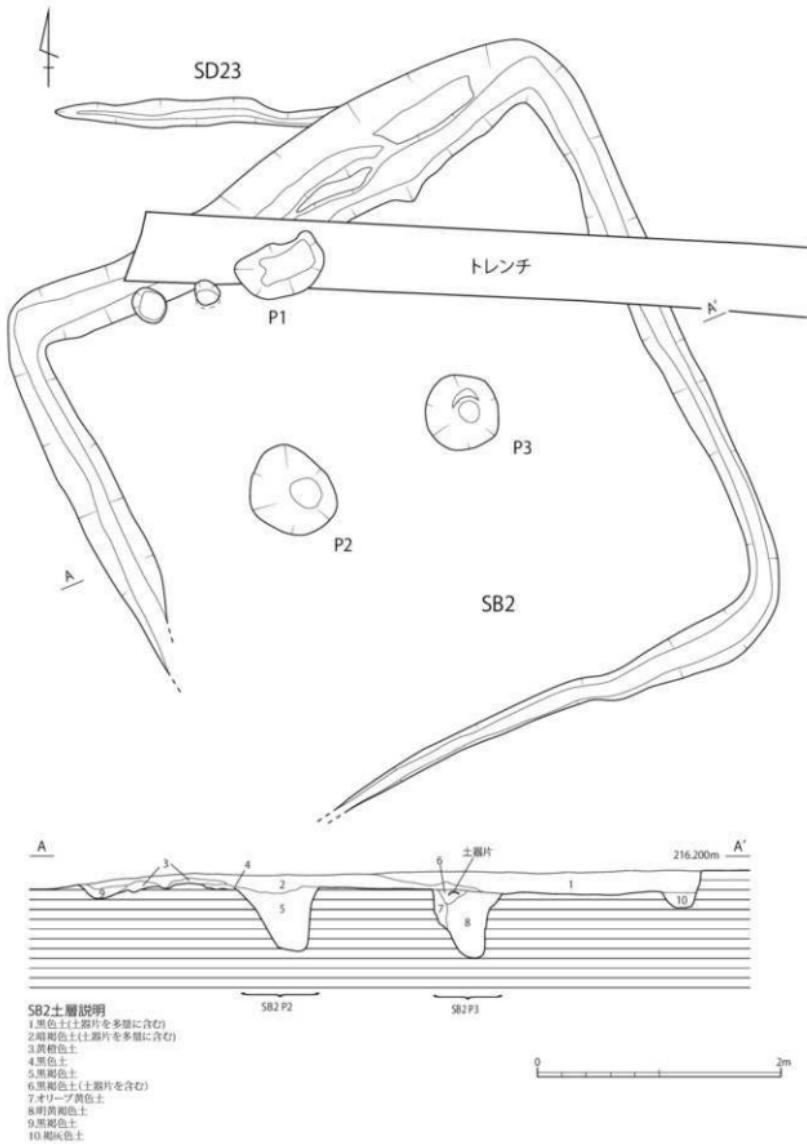
B-3区中央で検出された1間×1間の掘立柱建物跡で、自然流路SW1とSW2の間の微高地に位置している。規模は、東西約3.0～3.6m、南北約4.3～4.7mで南西側の柱穴P4がやや張り出している。

柱穴は直径約0.2～0.3m、深さ約0.15～0.3mである。

遺物は、出土しなかった。



第4図 SB1、SB1aP1実測図 (SB1-1:60, SB1aP1-1:30)



第5図 SB2、SD23実測図 (1 : 40)

SB4（第8、9、35図、図版3）

B-3区東側で検出された円形の堅穴住居跡で、自然流路SW2の黒褐色の堆積土中に掘り込まれて構築されていたため検出が困難であった。北側は後述するSB5に切られており、これに先行する。

規模は、直径約5.3～5.5m、壁の高さは約0.4mである。南側に壁溝の一部が残存しており、壁から若干離れて壁板を固定したとみられる杭列が巡っている。

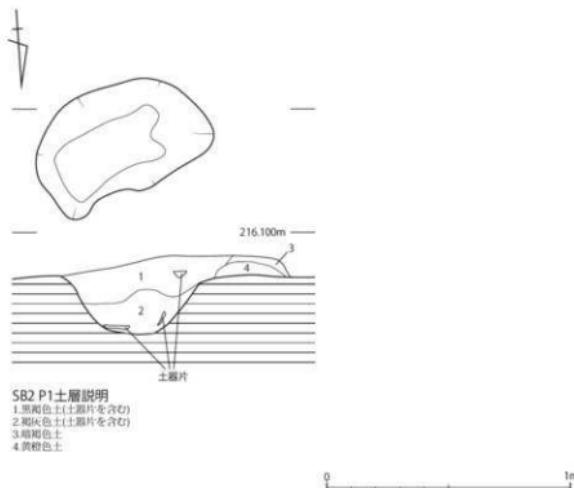
床面のほぼ中央に直径約0.6mの炉跡がみられ、それを囲むように6本の柱穴（P1～6）が約1.5mの間隔で巡っている。柱穴の直径は約0.3～0.6m、深さは約0.4～0.55mである。柱穴列の内側は黄橙色土の張床がみられた。

検出時には内部に炭化物が広がり、炭化した木片もみられたことから、焼失住居とみられる。

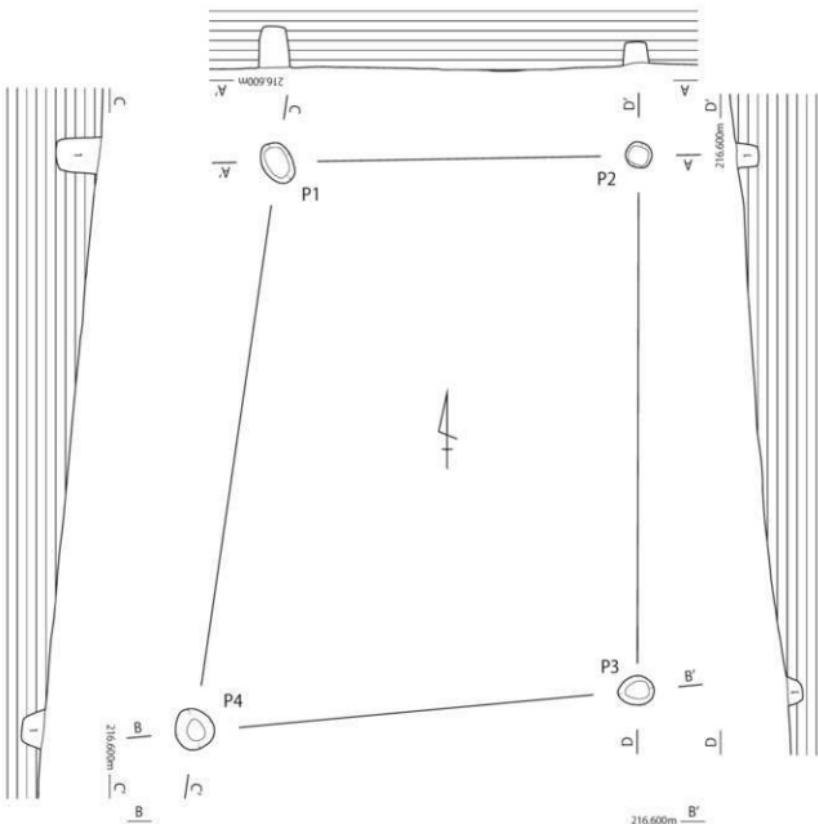
遺物は、検出面や埋土内から弥生土器壺・甕・底部が出土した。

SB5（第10、11図、図版3）

SB4北側で検出された方形の堅穴住居跡で、自然流路SW2の堆積土中に掘り込まれている。南側がSB4を切るとともに流出している。北西隅は調査区外に位置する。規模は、東西約5.0m、南北約4.3mである。



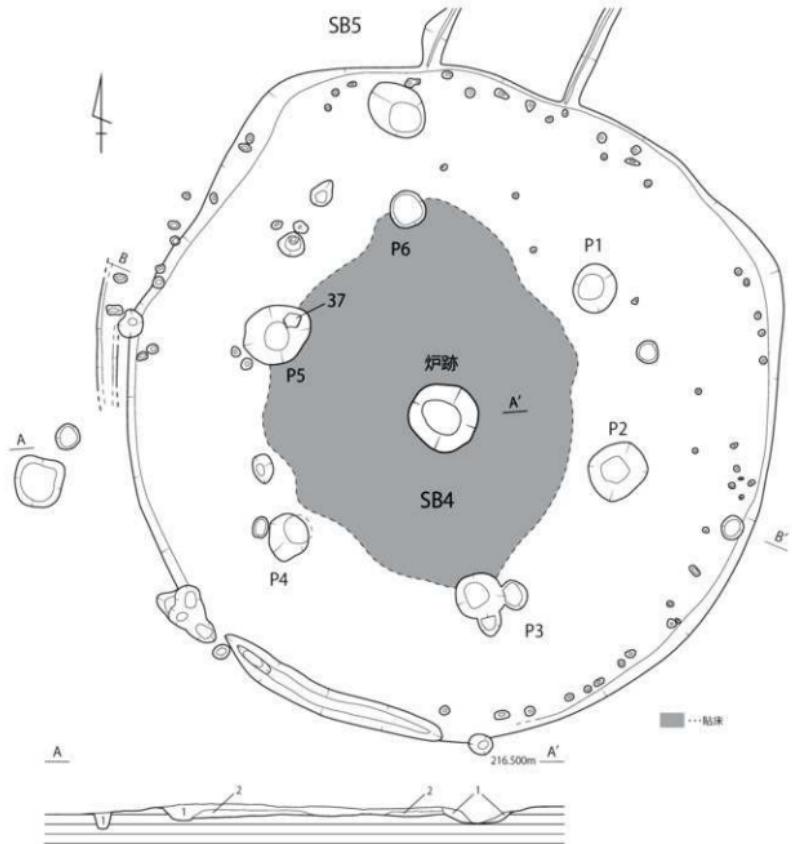
第6図 SB2P1実測図 (1 : 20)



P1～4土層説明
I.黒褐色土



第7図 SB3実測図 (1 : 40)



SB4土層説明
1.黒色土(灰褐色)
2.黒色土+黄褐色土

SB4 炉跡土層説明
1.黒褐色土

SB4-B'-土層説明
1.黒色土

SB4P5土層説明
1.褐灰色土
2.黒色土(黄褐色土粒を含む)
3.明黄褐色土

SB4炉跡土層説明
1.黒褐色土

SB4P2土層説明
1.黒褐色土
2.黒色土
3.明黄色土

第8図 SB4実測図 (1 : 40)

0 2m

土層断面の観察で壁の高さは約0.6mである。床面からの深さ約0.1mの壁溝が巡っている。床面にはほぼ正方形に配置された柱穴が4個(P1～4)みられ、柱穴の間隔は約2.4～2.7mで、直径は約0.3～0.7m、深さは約0.5～0.6mである。南側に規模の小さなビット(P5・6)がみられる。遺物は、埋土内から土師器片が出土した。

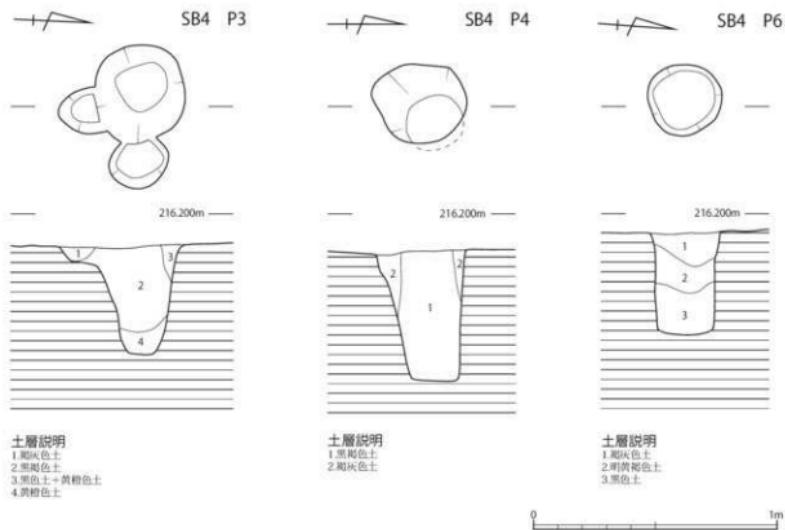
SB6(第12図、図版4)

B-3区東側で検出された円形の竪穴住居跡で、自然流路SW2とSW3の間の微高地に位置している。ほとんど削平されており、壁溝を一部残すのみであった。後述するSB7の建て替え前の住居の可能性もあるが、判然としない。壁溝に沿ってビットがみられ、壁板を固定したとみられる杭列の可能性もある。規模は、壁溝の曲線状況から直径7～8mと推測できる。

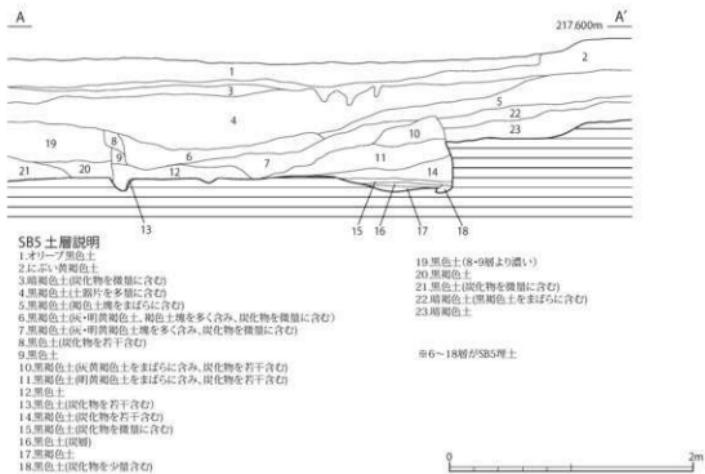
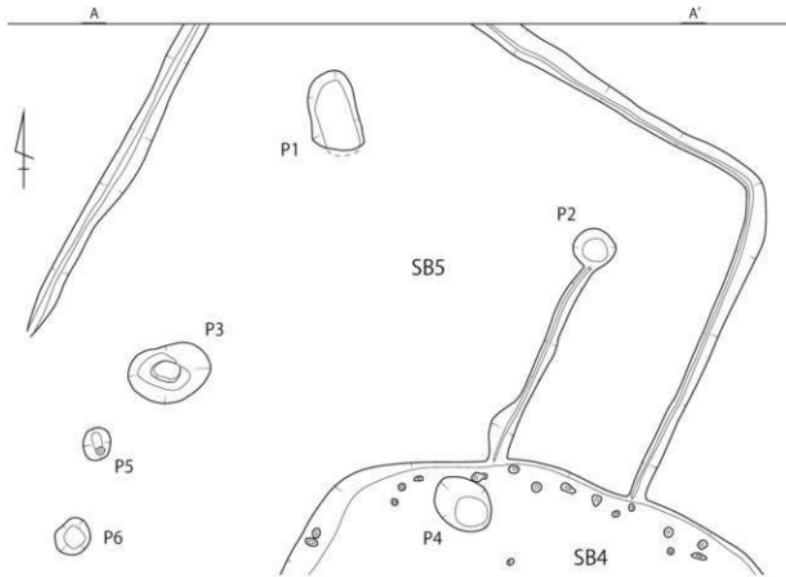
遺物は、埋土内から弥生土器鉢・器台が出土した。

SB7(第12、13図、図版4)

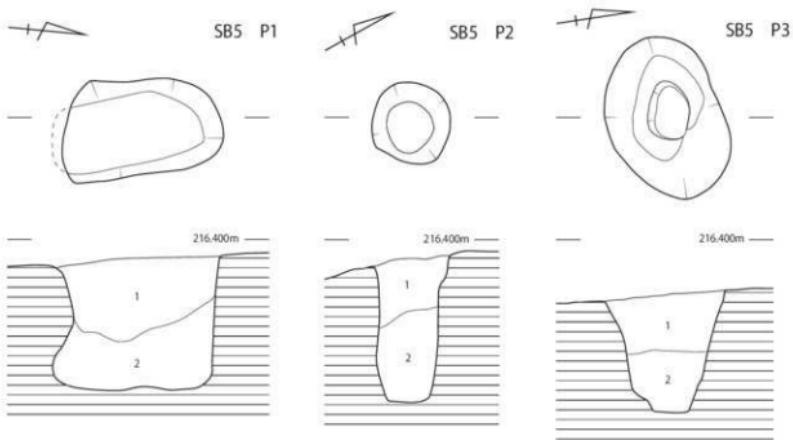
SB6東側に位置する円形の竪穴住居跡で、東側の一部が自然流路SW3の暗褐色の堆積土中に掘り込まれている。削平を受けているが、壁溝は全周する。北側の1/3は調査区外に位置する。規模は、直径約7.5mである。



第9図 SB4 P3・4・6実測図 (1 : 20)



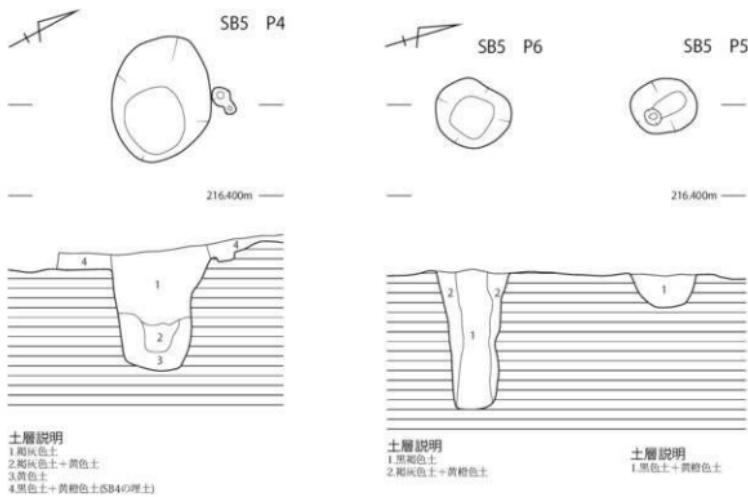
第10図 SB5実測図 (1 : 40)



土層説明
1.黒色土(炭化物を横断に含む)
2.黄褐色砂質土

土層説明
1.黒灰色土
2.黄褐色土

土層説明
1.黒褐色粘質土
2.湖色砂質土



土層説明
1.黒色土
2.黒褐色土+黃色土
3.黃色土
4.黒色土+黃褐色土(SB4の埋土)

土層説明
1.黒褐色土
2.湖灰色土+黄褐色土

土層説明
1.黒色土+黄褐色土



第11図 SB5P1 ~ 6実測図 (1 : 20)

床面からの深さ約0.05mの壁溝が巡っており、東側を中心に壁板を固定したとみられる杭列が壁溝内に点在している。

床面のほぼ中央に南北約2.0m、東西約1.3mの大きな炉跡がみられ、炉跡の西側から螺旋状の溝が回っている。それを囲むように7本の柱穴（P1～7）が約1.5～2.1mの間隔で巡っている。柱穴の直径は約0.3～0.8mとばらつきが大きく、深さも約0.15～0.75mと開きが大きいため、曲線状にならぶP1～P5以外は時期や性格が異なる可能性がある。

遺物は、床面や埋土内から弥生土器壺・甕・高杯・底部、土師器壺・甕・高杯が出土した。

SB8（第14～17図、図版5）

B-3・4区東側で検出された円形の堅穴住居跡で、自然流路SW2とSW3の間の微高地に位置しているが、SB7同様に東側の一部が自然流路SW3の黒褐色の堆積土中に掘り込まれている。東側に壁溝が3条みられ住居の拡張を繰り返した様子がうかがえる。東側を中心に壁板を固定したとみられる杭列が壁溝内に多く点在している。

当初の住居であるSB8-1の規模は、南北約5.8m、東西約5.3m、壁の高さは約0.5mである。

床面のほぼ中央に直径約1.0m、深さ約0.25mの炉跡がみられ、炭化物を含む黒色土が堆積していた。それを囲むように柱穴が点在しているが、柱穴の直径は約0.3～0.6mとばらつきが大きく、深さも約0.15～0.65mと開きが大きいため、曲線状にならぶSB8-1のP2、4、7、9以外は対応関係が不明である。

遺物は、床面や埋土内から弥生土器壺・甕・高杯・鉢・器台・手捏ね土器・底部・砥石・敲打石・鉄斧・鉄鎌が出土した。

SD1・2（第18図、図版6）

SD1はA区西側で検出された曲線を描く溝状遺構で、規模は、長さ約21.6m、幅約0.2～0.5m、深さ約0.1～0.3mを測る。底面は梢円形で、中央部から南側に向かってSD3が延びている。

SD2はSD1の北西側に延びる直線的な溝状遺構で、規模は、長さ約4m、幅約0.3～0.55m、深さ約0.3mを測る。底面は梢円形で、SD1の一部とみられる。

遺物は、いずれの埋土内からも土師器、須恵器の小片が出土した。

SD3（第18図、図版6）

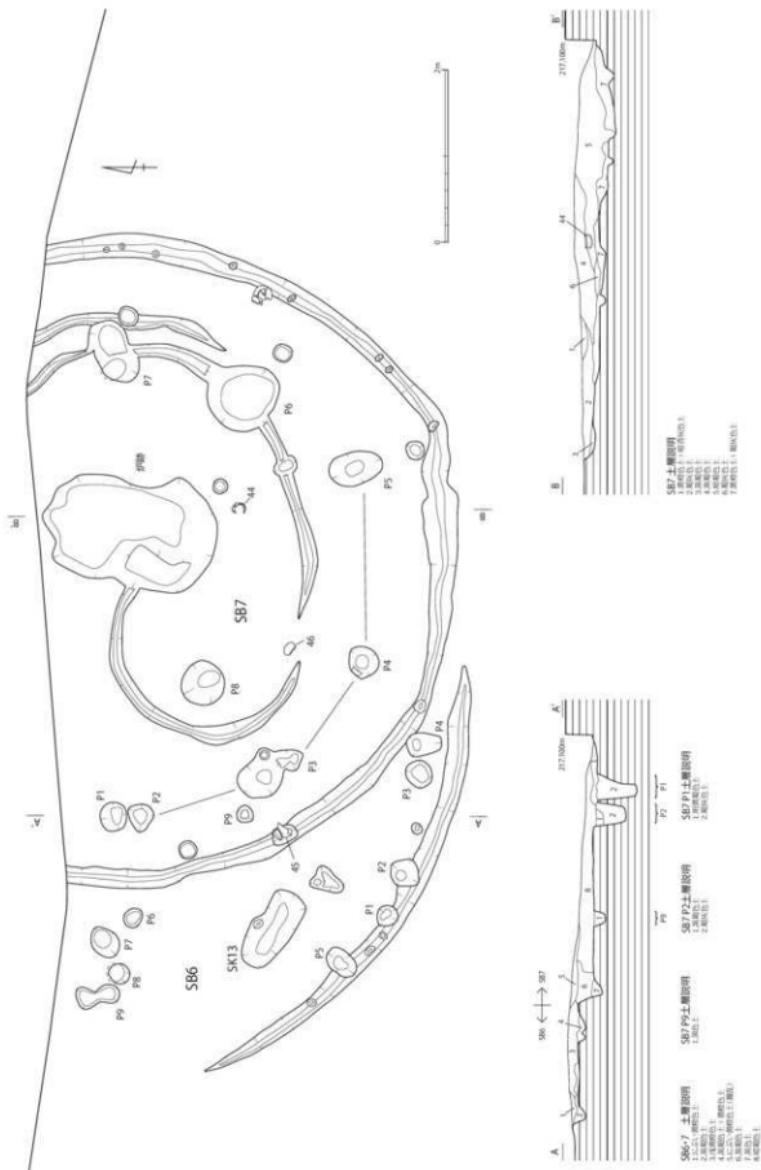
SD1の中央部から南側に延びる直線的な溝状遺構で、規模は、長さ約3.8m、最大幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。底面は梢円形で、SD1との切り合いは不明である。遺物は、出土しなかった。

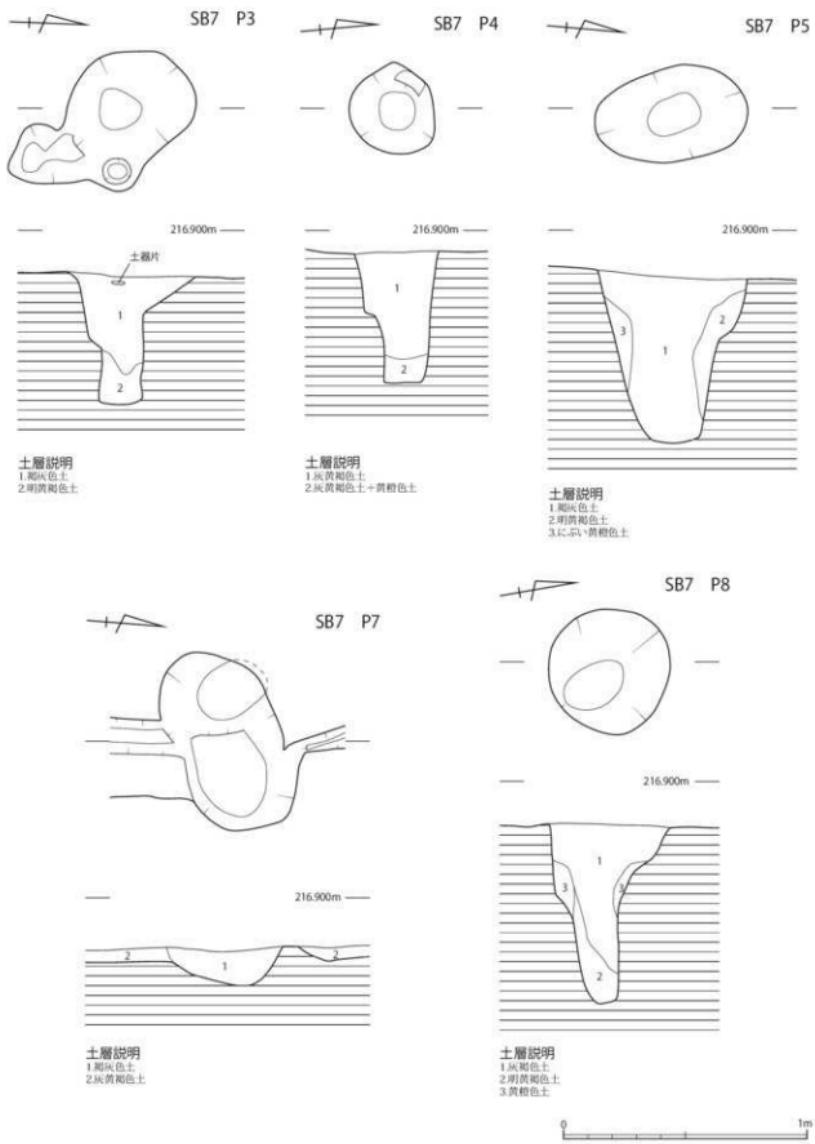
SD4・5（第19図）

いずれもB-1区西側に位置し、直線的に並行する溝状遺構で、規模は、SD4が長さ約5.6m、最大幅約0.8m、深さ約0.2mを測る。底面はやや平坦である。

SD5は長さ約6.6m、最大幅約0.7m、深さ約0.1mを測る。底面は平坦である。

遺物は、いずれの埋土内からも土器小片が出土した。





第13図 SB7 P3～5・7・8実測図 (1 : 20)

SD6・7（第19図）

B-1区南側に位置する交差してY字形を呈する溝状遺構で、規模は、SD6が長さ約2.8m、幅約0.2m、深さ約0.2mを測る。底面は楕円形である。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SD7は長さ約2.2m、最大幅約0.8m、深さ約0.25mを測る。底面はいびつな楕円形である。

遺物は、埋土内から土師質土器片が出土した。

SD8・9（第20図、図版7）

B-1区中央部に位置する溝状遺構で、規模は、SD8が検出長約13.2m、最大幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。底面は浅い楕円形である。

SD9は検出長約6.4m、最大幅約0.8m、深さ約0.05mを測る。底面は楕円形である。

遺物は、いずれの埋土内からも土師器、須恵器の小片が出土した。

SD10・11・12（第21図）

B-1区北側に位置する溝状遺構で、SD10はSD12にSD11はSD8に接続している。

規模は、SD10が長さ約1.7m、最大幅約0.3m、深さ約0.3mを測る。底面は起伏が激しい。

遺物は、埋土内から土師器、須恵器の小片、鉄滓が出土した。

SD11は長さ約2.8m、最大幅約0.4m、深さ約0.05mを測る。底面は平坦である。

遺物は、埋土内から土師器、須恵器の小片が出土した。

SD12は検出長約3.4m、最大幅約0.7m、深さ約0.2mを測る。底面は起伏が激しい。

遺物は、埋土内から土師器、須恵器の小片、土師器杯片が出土した。

SD13・14・15（第20図）

B-1区北側に位置する溝状遺構で、いずれも削平が著しい。規模は、SD13が長さ約2.2m、最大幅約0.6m、深さ約0.1mを測る。底面は平坦である。

遺物は、埋土内から土器小片、須恵器の小片が出土した。

SD14は検出長約5.4m、最大幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。底面は平坦である。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SD15は長さ約2.2m、最大幅約0.6m、深さ約0.05mを測る。底面は平坦である。

遺物は、埋土内から土師器、須恵器の小片が出土した。

SD16（第21図）

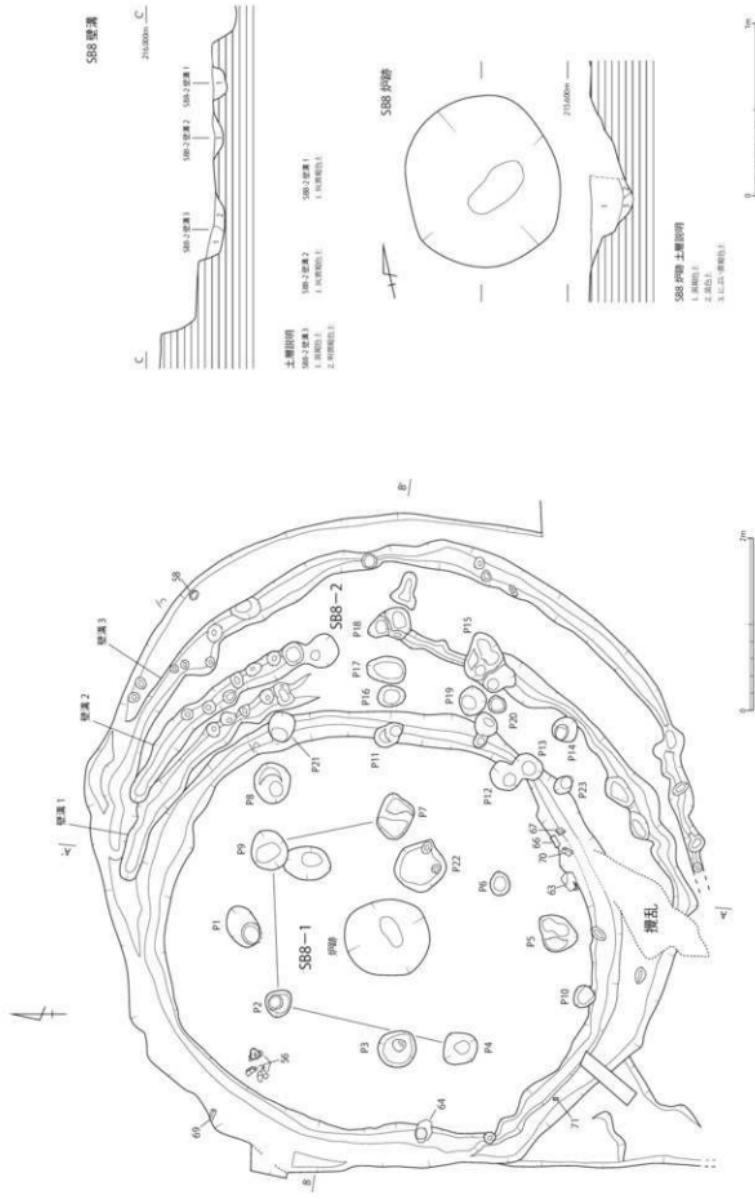
B-1区北側に位置する溝状遺構で、北西側は攪乱で切られており、南東側は幅が広がり二段になっている。規模は、検出長約5.7m、最大幅約1.0m、深さ約0.1mを測る。底面は楕円形である。

遺物は、埋土内から弥生土器、須恵器、土師質土器皿の小片、鉄滓が出土した。

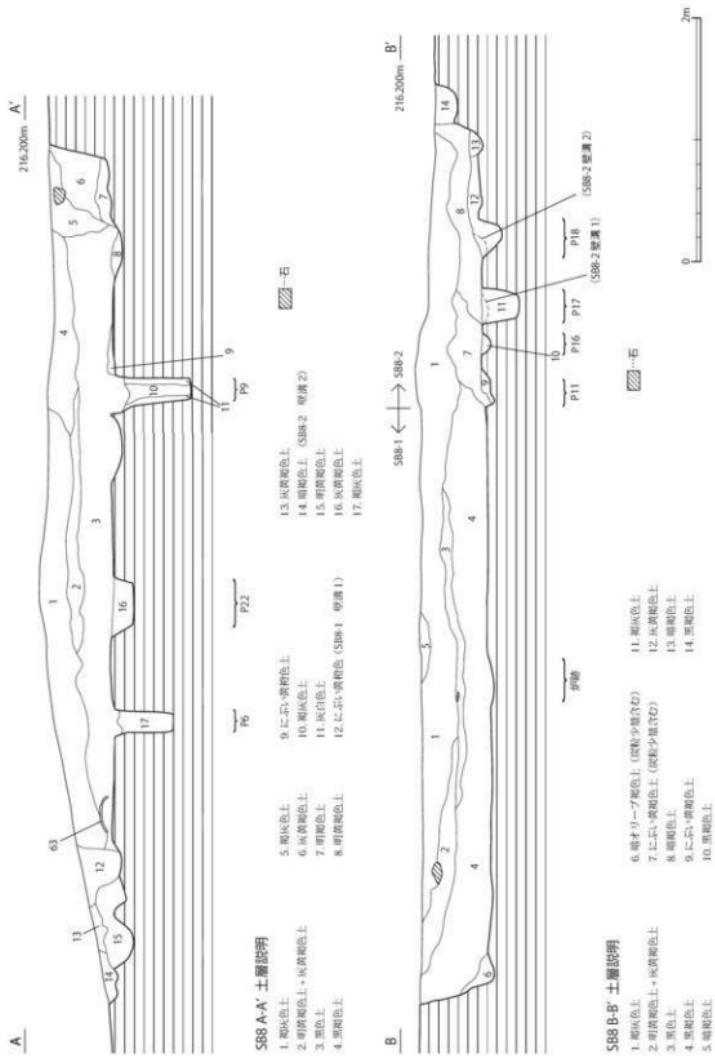
SD17（第21図）

B-1区北端に位置する溝状遺構で、規模は、検出長約1.8m、最大幅約1.0m、深さ約0.25mを測る。底面は楕円形である。

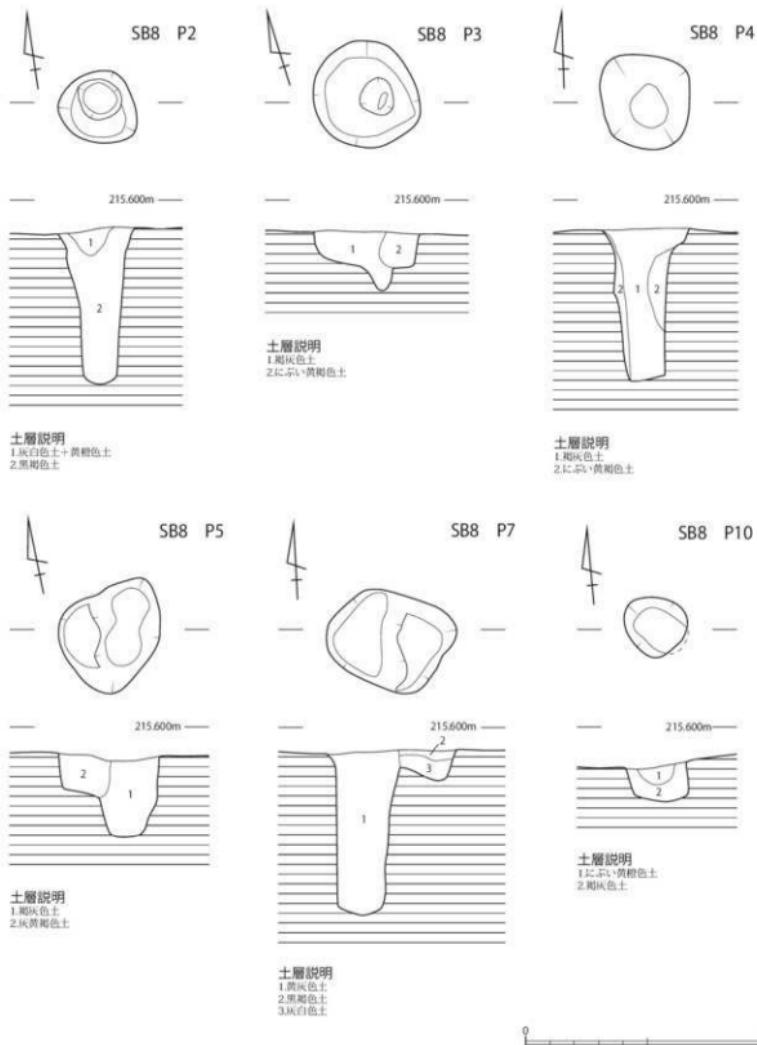
遺物は、埋土内から弥生土器、須恵器、土師質土器皿の小片、鉄滓が出土した。



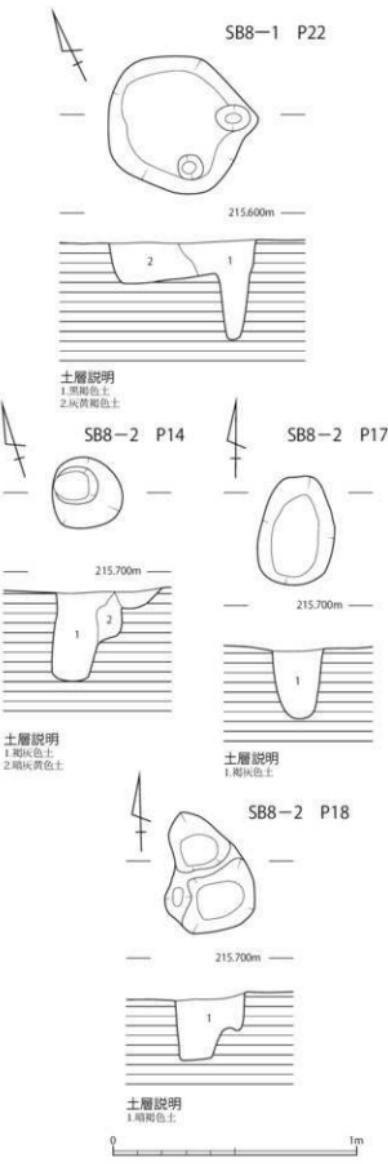
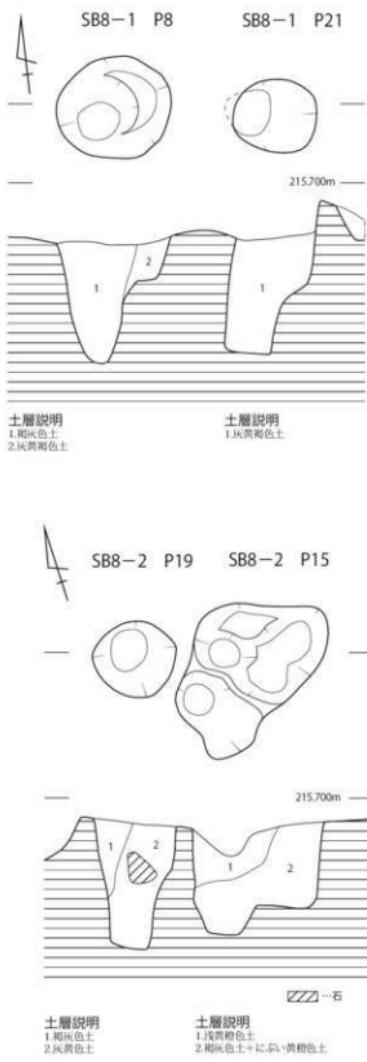
卷之三



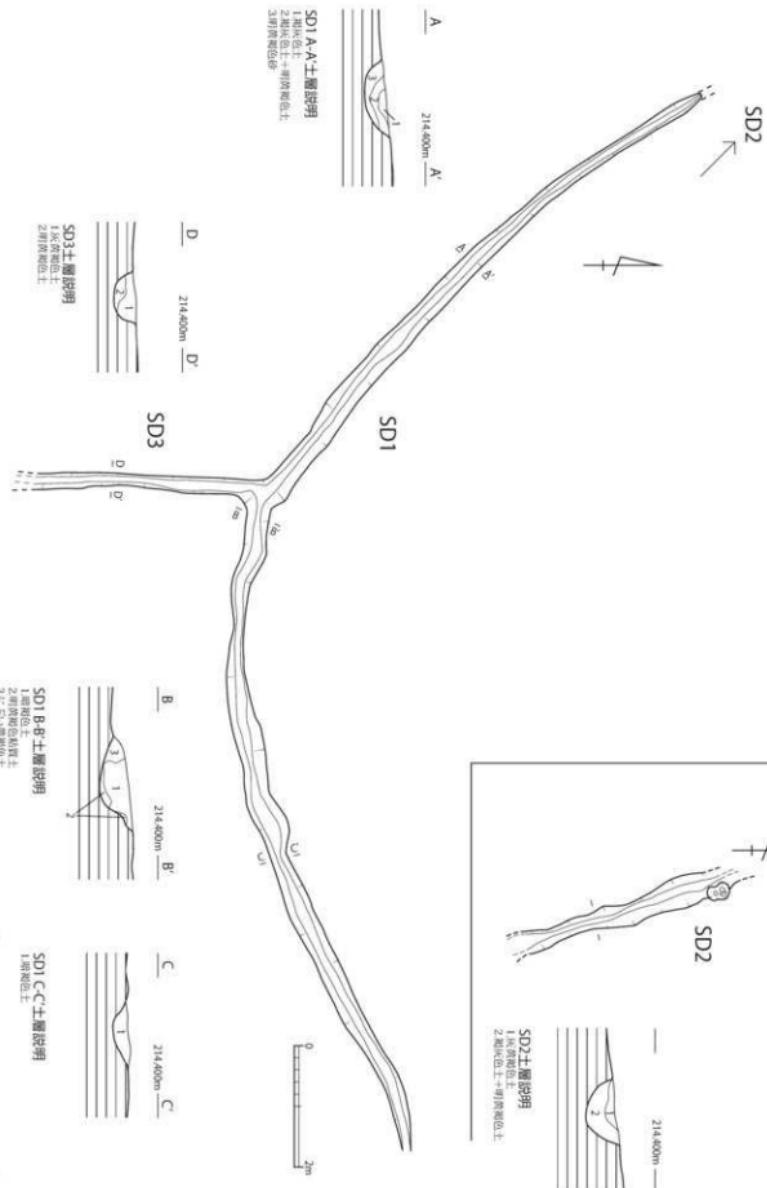
第15图 SB8土壤断面剖面图 (1 : 40)

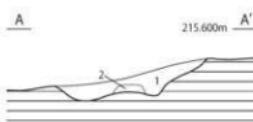
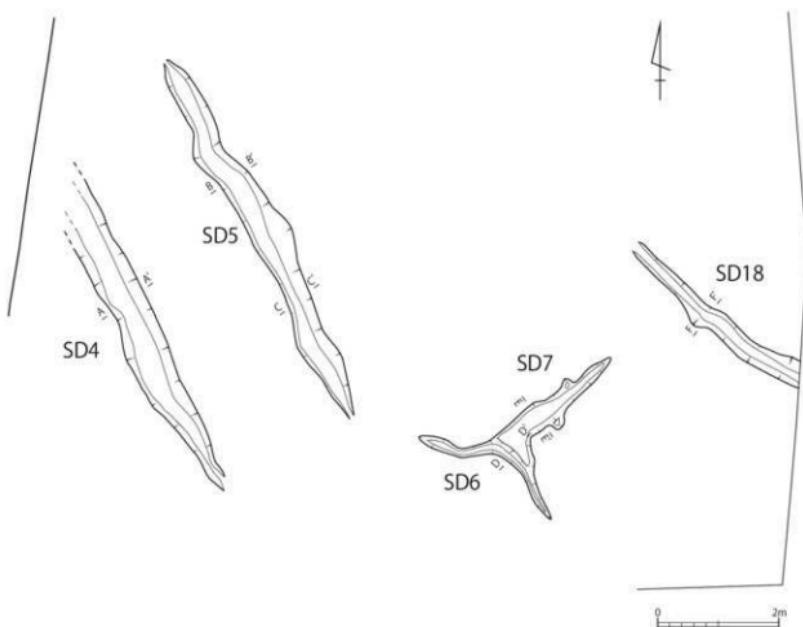


第16図 SB8P2 ~ 5・7・10実測図 (1 : 20)

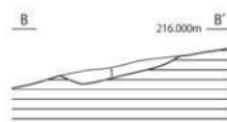


第17図 SB8P8・14・15、17～19・21・22実測図（1：20）

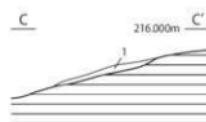




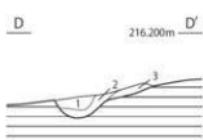
SD4土層説明
1.褐灰色土
2.黄褐色土



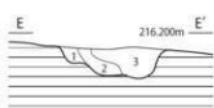
SD5B-B'土層説明
1.褐灰色土



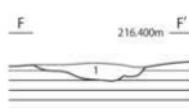
SD5C-C'土層説明
1.褐灰色土



SD6土層説明
1.灰黃褐色土
2.褐灰色土
3.にほい黄褐色土(SD7埋土)



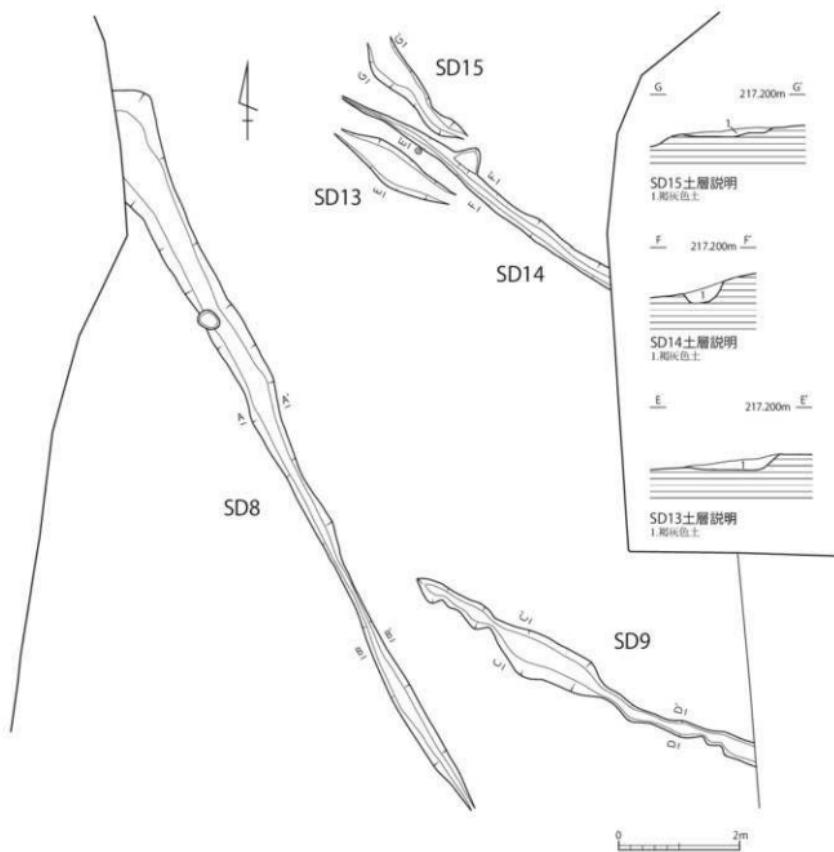
SD7土層説明
1.明黃褐色土
2.灰白色土
3.灰黃褐色土



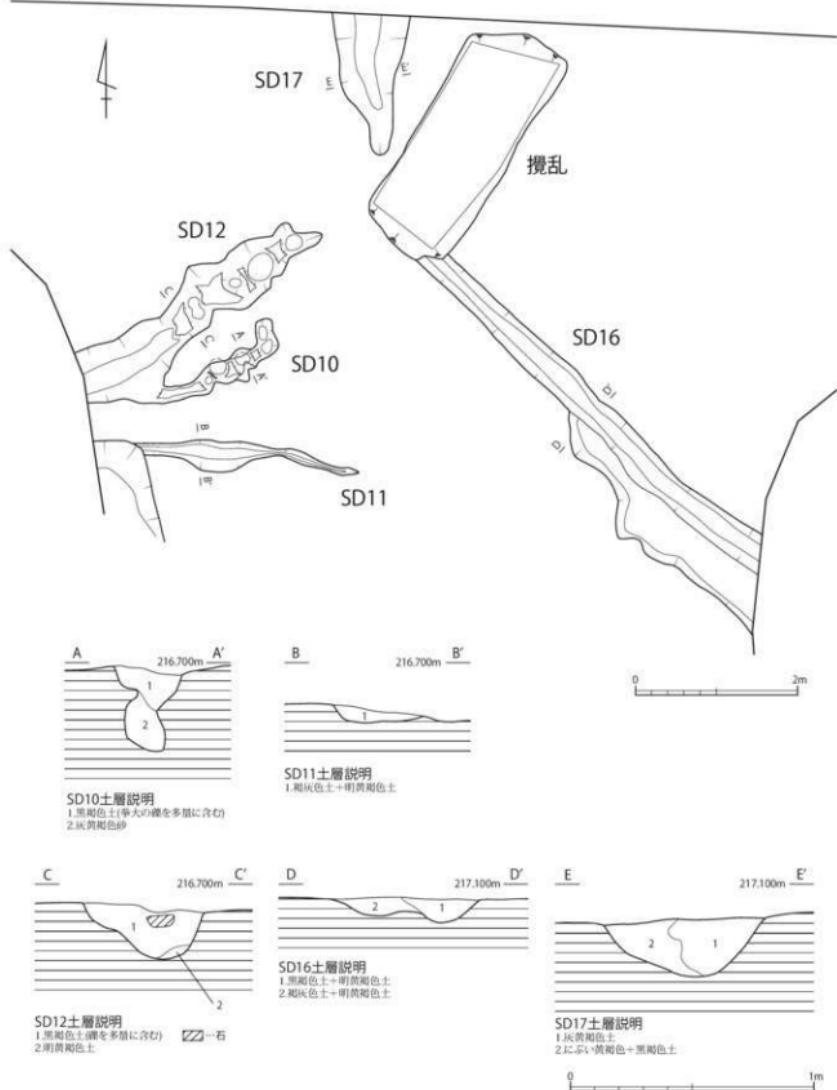
SD18土層説明
1.褐灰色土



第19図 SD4 ~ 7・18実測図 (平面図 1 : 80、断面図 1 : 20)



第20図 SD8・9・13～15実測図（平面図1：80、断面図1：30）



第21図 SD10～12・16・17実測図（平面図1:60、断面図1:20）

SD18（第19図）

B-1区東側に位置する溝状遺構で、規模は、検出長約3.6m、最大幅約0.4m、深さ約0.05mを測る。底面は平坦である。

遺物は、出土しなかった。

SD19（第22、34図、図版7）

B-2区東端に位置する溝状遺構で、自然流路SW3の堆積土に掘り込まれている。規模は、検出長約0.8m、最大幅約0.8m、深さ約0.7mを測る。底面はやや平坦である。

遺物は、弥生土器、須恵器、土師器の小片、土師質土器杯が出土した。

SD20・21・22（第23図、図版7）

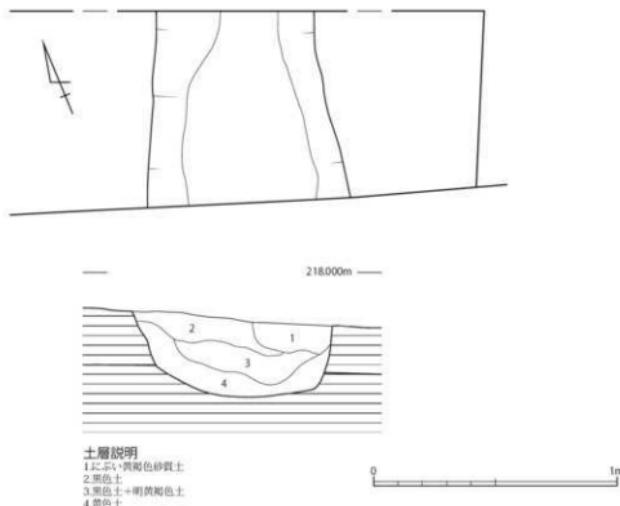
いずれもB-3区中央部に位置し、直線的に並行する溝状遺構で、規模は、SD20が長さ約3.4m、最大幅約0.25m、深さ約0.15mを測る。底面はやや平坦である。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SD21は長さ約8.4m、最大幅約0.4m、深さ約0.2mを測る。底面はやや楕円形である。

SD22は長さ約12.8m、最大幅約0.5m、深さ約0.05mを測る。底面は平坦である。

遺物は、SD21・22ともに埋土内から土器小片、弥生土器片が出土した。

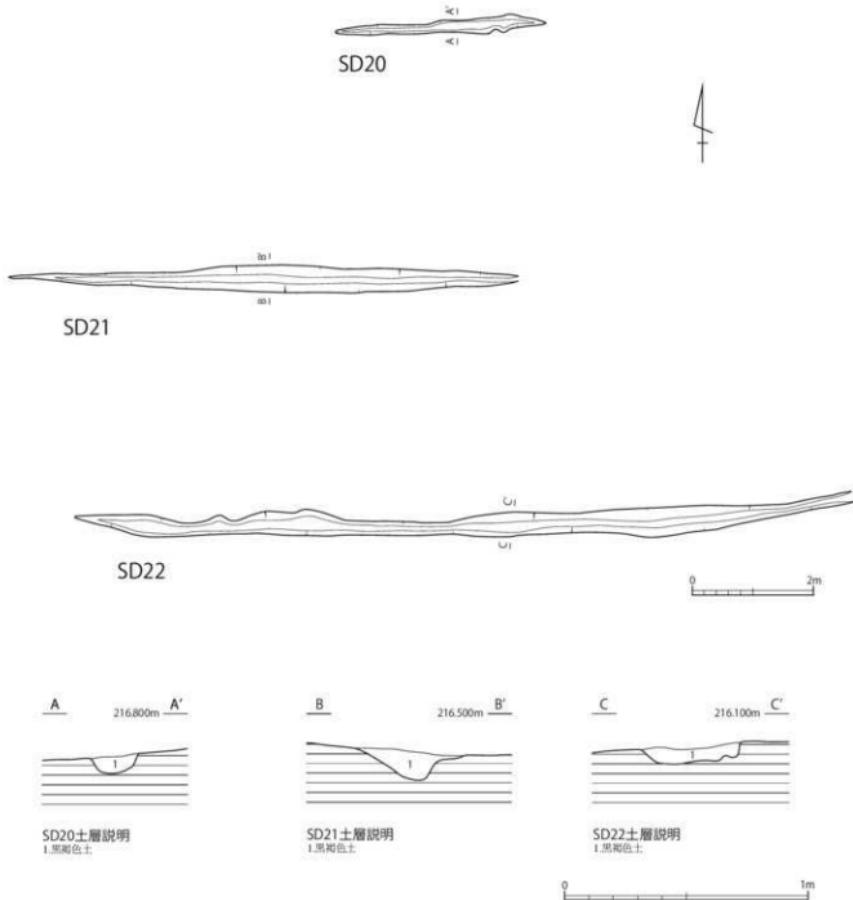


第22図 SD19実測図（1:20）

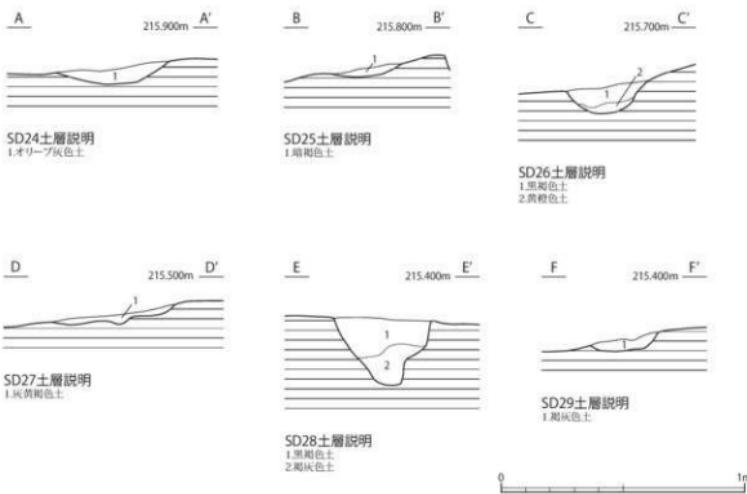
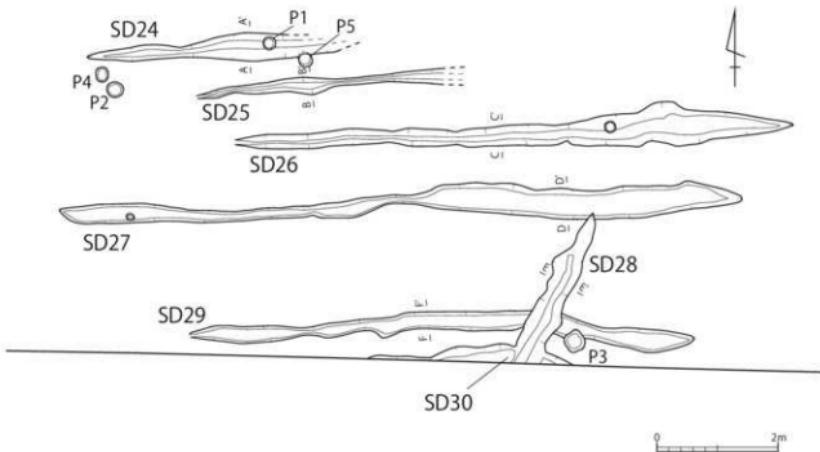
SD23（第5図、図版2）

SB2北側に位置する溝状遺構で、SB2北壁に接続しているが、切り合は不明である。規模は、長さ約2.3m、最大幅約0.2m、深さ約0.2mを測る。底面はいびつな梢円形である。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。



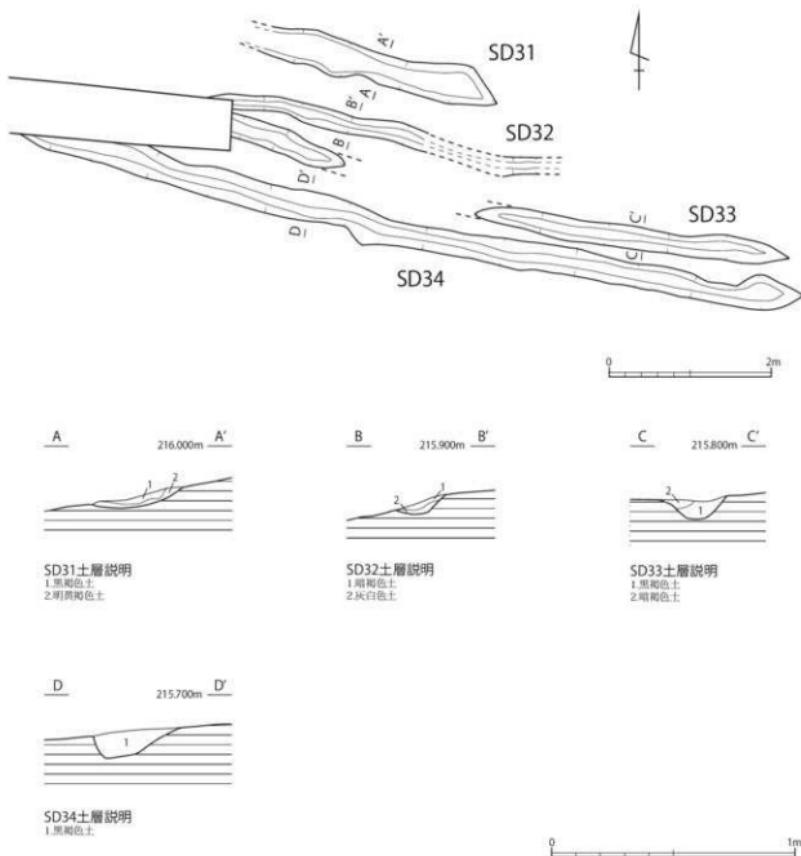
第23図 SD20～22実測図（平面図1：80、断面図1：20）



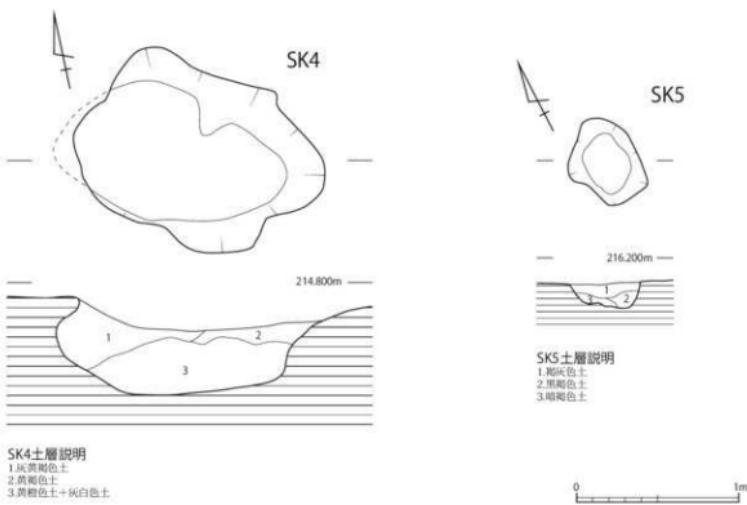
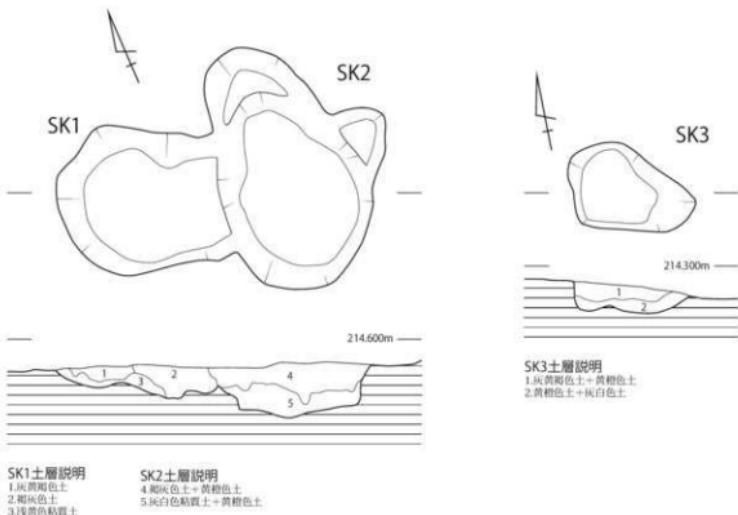
第24図 SD24～29実測図（平面図1：80、断面図1：20）

SD24～30（第24図、図版8）

いずれもB-3区中央部南側に位置し、直線的に並行する溝状遺構で、前述のSD20～22とも並行している。規模は、SD24・25がいずれも長さ約4.0m、最大幅約0.2～0.4m、深さ約0.05～0.1mを測る。底面はやや平坦である。SD24近辺にはピット（P1・2・4・5）が点在している。



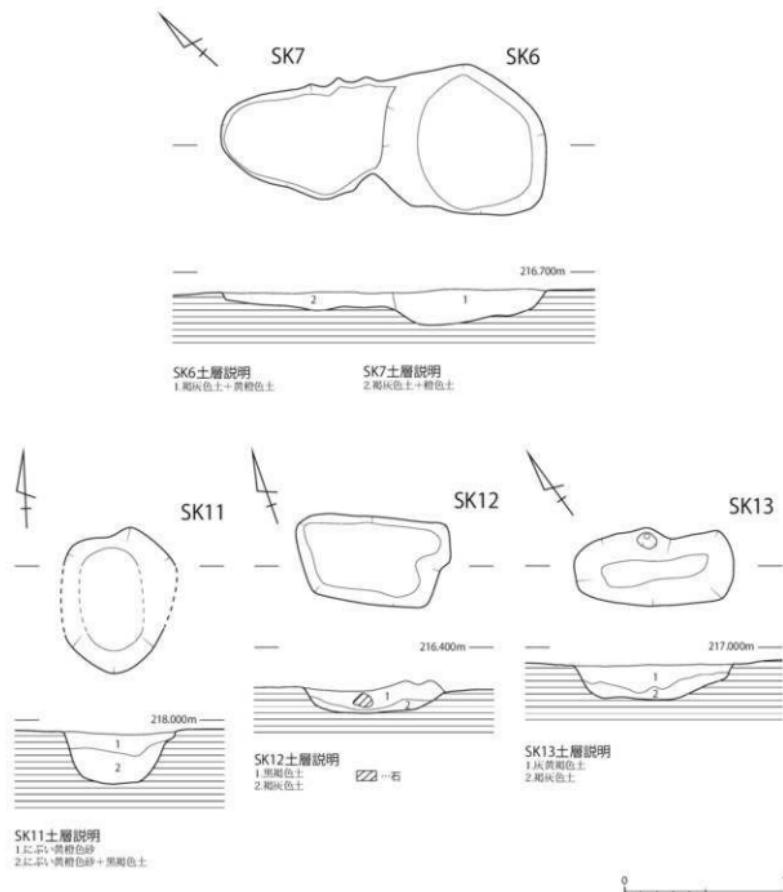
第25図 SD31～34実測図（平面図1:60、断面図1:20）



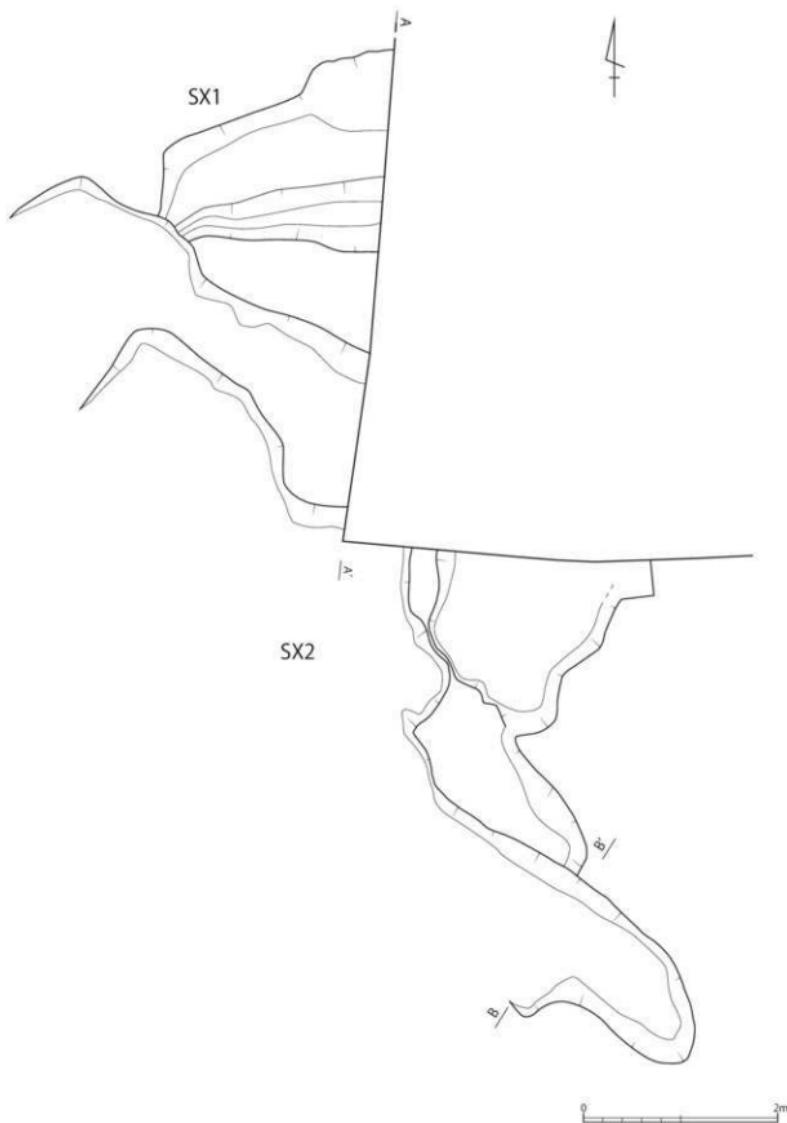
第26図 SK1 ~ 5実測図 (1 : 30)

SD26・27・29は長さ約8.2～11.2m、幅約0.2～0.6m、深さはSD27・29が約0.05m、SD26は約0.1mを測る。底面はSD27・29が平坦で、SD26がやや梢円形である。SD29はピット(P3)で切られている。

SD28はSD29に直交する溝状遺構で、SD27・29を切っている。検出長約2.6m、最大幅約0.6m、深さ約0.25mを測る。底面は逆三角形である。



第27図 SK6・7・11～13実測図 (1 : 30)



第28図 SX1・2実測図 (1 : 50)

SD30はSD28と接続する東西方向の溝状遺構であるが、大半が調査区外のため詳細は不明である。遺物は、SD24・25・27・29が埋土内から土器小片が出土した。また、SD26は埋土内から土器小片、土師質土器鍋・皿片が出土した。SD28は埋土内から土器小片、須恵器杯身、土師質土器杯、瓦器楕が出土した。

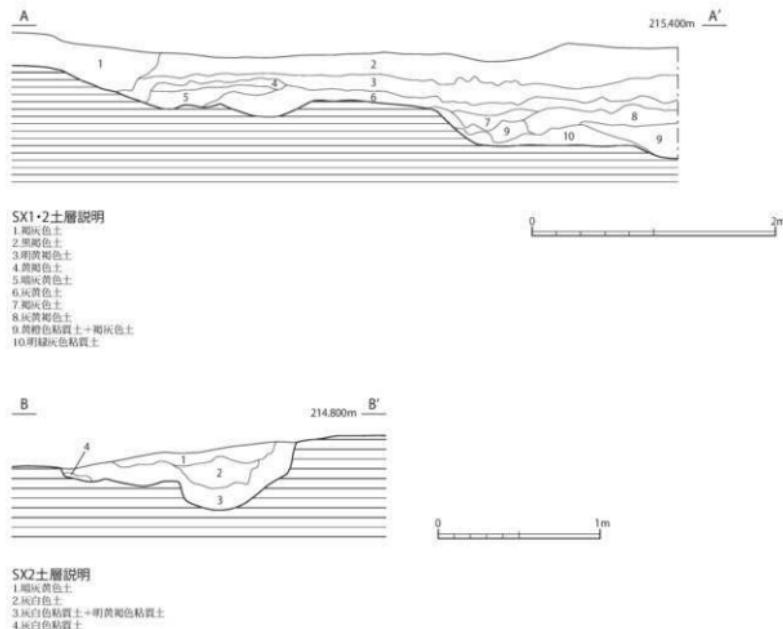
SD31～34（第25図、図版8）

いずれもB-4区東側に位置し、直線的に並行する溝状遺構である。規模は、SD31・32が長さ約3.0～4.1m、最大幅約0.2～0.45m、深さ約0.05mを測る。底面はSD31がやや平坦で、SD32は梢円形である。SD33・34は長さ約7.0～9.8m、最大幅約0.3m、深さは約0.1mである。底面はいずれもやや梢円形である。

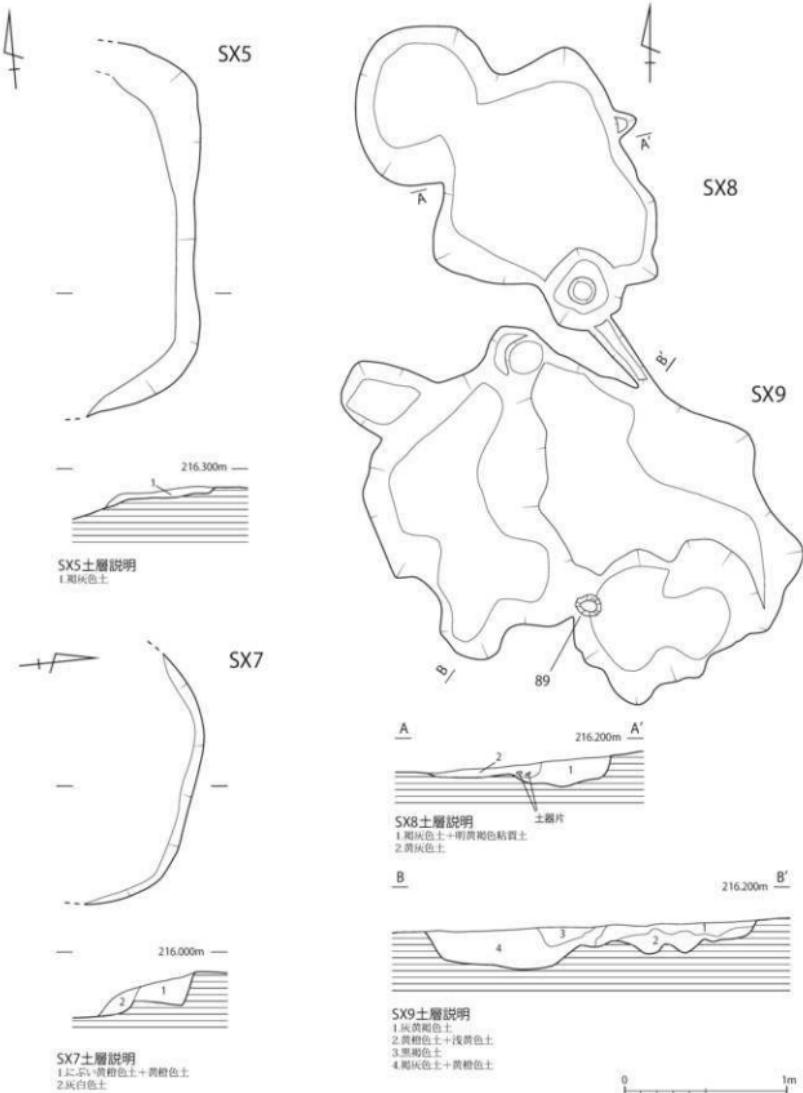
遺物は、SD31・33が埋土内から土器小片が出土した。また、SD34からは土器小片、須恵器の小片が出土した。SD32から遺物は、出土しなかった。

SK1・2（第26図、図版9）

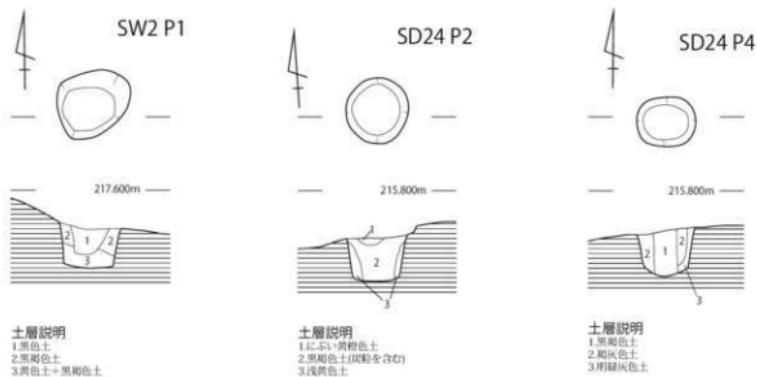
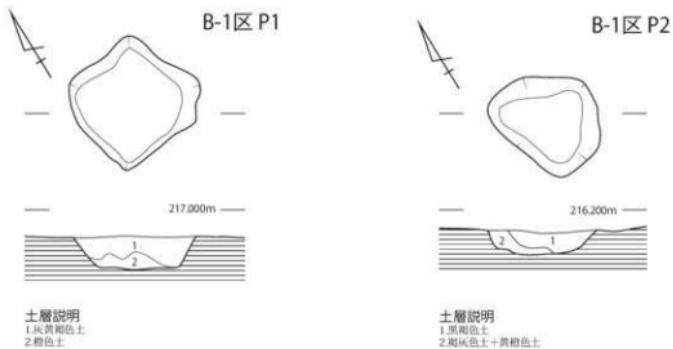
いずれもA区西側に位置するやや梢円形の土坑で、SK1がSK2に切られている。規模は、SK1が長



第29図 SX1・2土層断面実測図 (A-A' 断面1:40、B-B' 断面1:30)



第30図 SX5・7～9実測図 (1 : 30)



第31図 ピット実測図 (1 : 20)

軸約1.0m、短軸約0.9m、深さ0.2mを測る。SK2は長軸約1.6m、短軸約1.0m、深さ約0.35mを測る。SK1の底面は起伏がある。

遺物は、SK1の1、2層から土師器、須恵器の小片が出土した。SK2からは遺物は出土しなかった。
SK3（第26図）

A区中央部に位置する楕円形の土坑である。規模は、長軸約0.8m、短軸約0.5m、深さ約0.15mを測る。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SK4（第26図、図版9）

A区中央部に位置するやや楕円形の土坑である。規模は、長軸約1.5m、短軸約1.1m、深さ約0.6mを測る。

遺物は1層から土器小片が出土した。

SK5（第26図）

B-1区南側に位置する楕円形の土坑である。規模は、直径約0.5m、深さ約0.15mを測る。

遺物は、出土しなかった。

SK6・7（第27図、図版9）

いざれもB-1区中央部に位置するやや楕円形の土坑で、SK7がSK6に切られている。規模は、SK6が長軸約1.0m、短軸約0.9m、深さ0.2mを測る。SK7は長軸約1.0m、短軸約0.7m、深さ約0.1mを測る。

遺物は、SK6の1層から弥生土器底部が出土した。

SK11（第27図、図版9）

B-2区西端に位置する楕円形の土坑である。自然流路SW1の調査トレンチで中央部が失われたが、規模は、長軸約0.9m、短軸約0.7mと推測される。深さは約0.3mを測る。

遺物は1層から土器小片が出土した。

SK12（第27図、図版10）

B-3区東側に位置する長方形の土坑で、SB4の北西壁に近直している。規模は、長軸約1.0m、短軸約0.55m、深さ約0.15mを測る。

遺物は、1層から土師器壺が出土した。

SK13（第27図、図版10）

SB6内に位置する長方形の土坑である。規模は、長軸約1.0m、短軸約0.5m、深さ0.2mを測る。

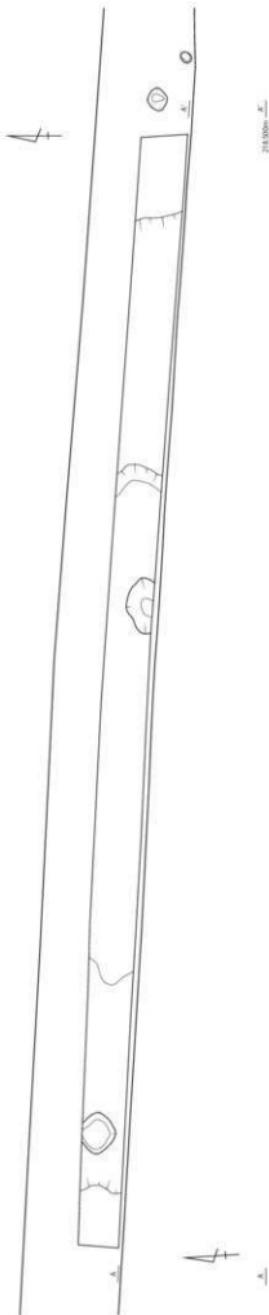
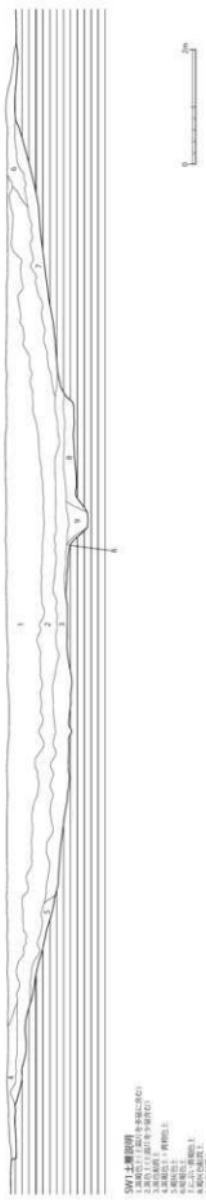
遺物は、出土しなかった。

SX1・2（第28、29図、図版10）

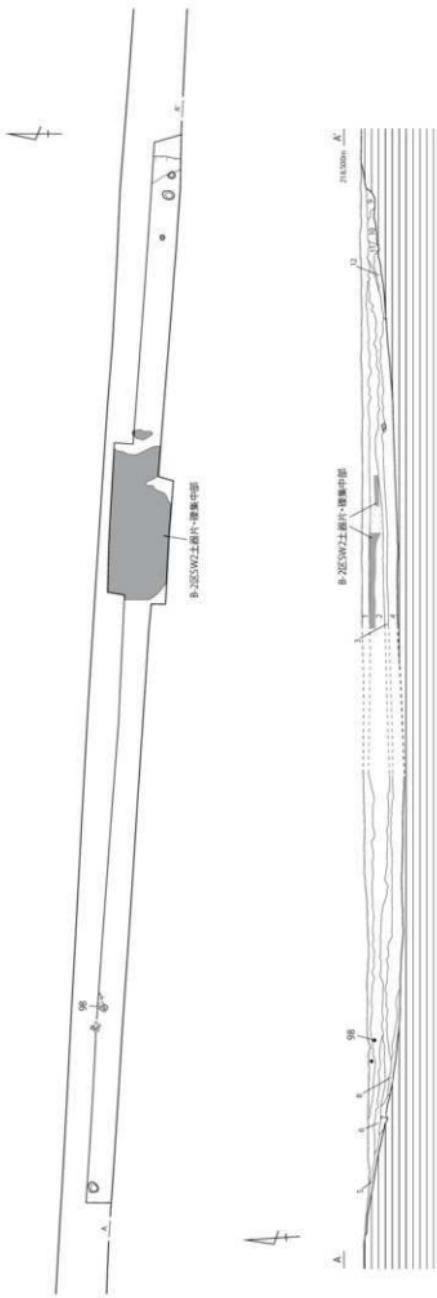
A区西側に位置する不定形の落ち込みで一部は段状になっている。規模は、SX1は検出長が東西約4.0m、南北約4.7m、深さ0.3mを測る。SX2は検出長が東西約9.4m、南北約3.5m、深さ0.3～0.4mを測る。遺構の性格は不明だが、土取り穴などが想定できる。

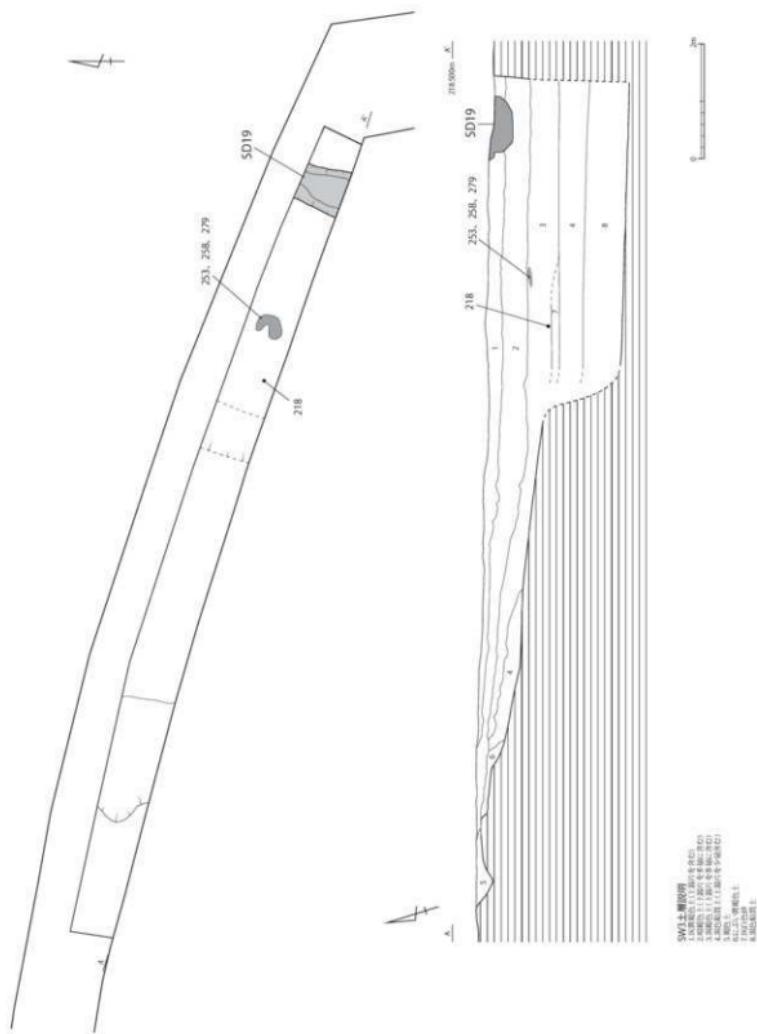
遺物は、出土しなかった。

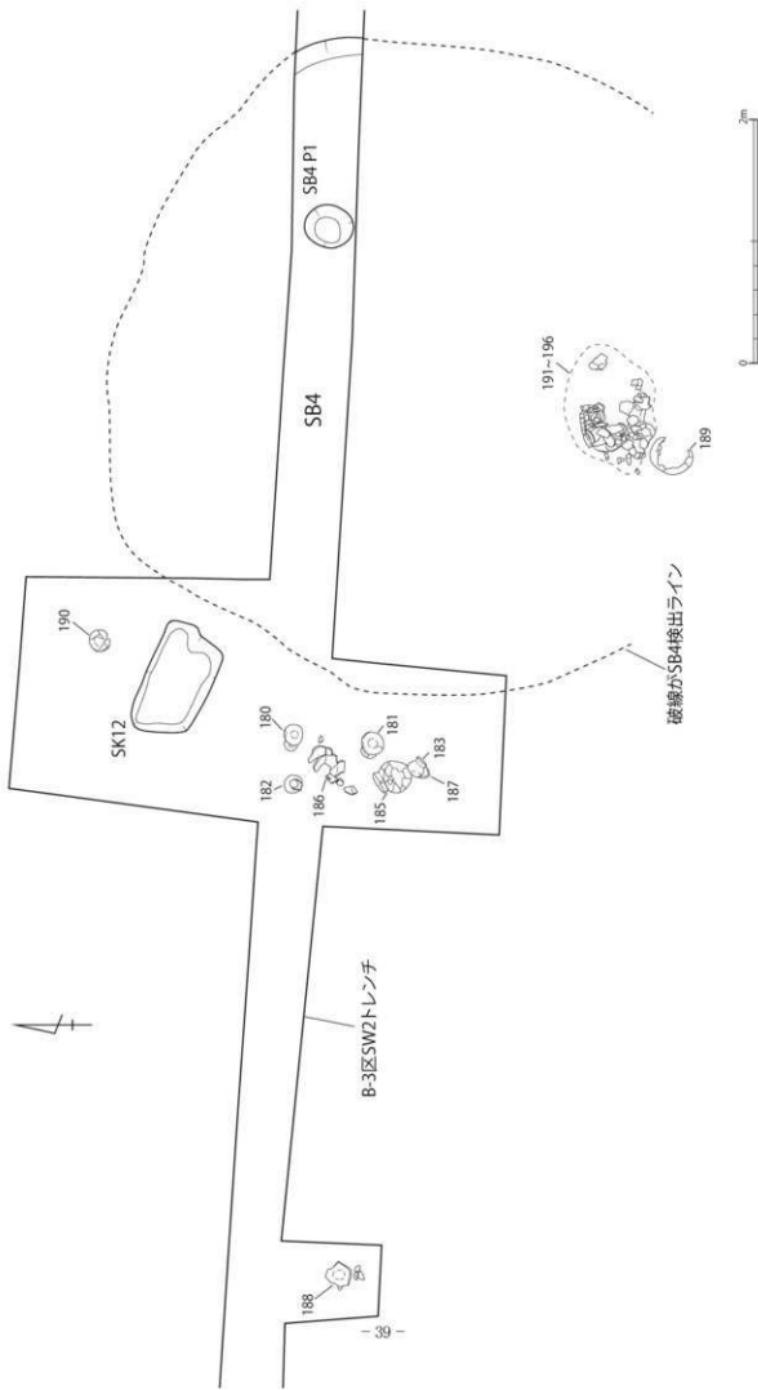
圖22 SW1光面圖 (1 : 60)



第32圖 SW1土壤剖面 (1 : 100)







第35図 SW2 (SB4西側) 遺物出土実測図 (1 : 40)

SX5（第30図、図版10）

B-1区西側に位置する隅丸方形の落ち込みである。規模は、検出長が東西約0.6m、南北約2.3m、深さ約0.1mを測る。遺構の性格は不明である。

遺物は、出土しなかった。

SX7（第30図、図版10）

B-3区西側に位置する隅丸方形の落ち込みである。規模は、検出長が東西約0.5m、南北約1.6m、深さ約0.2mを測る。遺構の性格は不明である。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SX8・9（第30図、図版10、11）

いずれもB-3区西側に位置する不定形の落ち込みである。SX8の南側はSX9と接続しており、SX9はSB2の西壁に近直している。規模は、SX8は長さが東西約1.6m、南北約2.2m、深さ約0.2mを測る。

遺物は、埋土内から土器小片、弥生土器底部、土師器壺や小片が出土した。

SX9は長さが東西約3.0m、南北約2.2m、深さ約0.25mを測る。いずれも遺構の性格は不明である。

遺物は、埋土内から弥生土器壺、土師器甕が出土した。

B-1区P1・2（第31図）

いずれもB-1区で検出されたピットであるが、規模からは土坑とみられる。ここでは検出時の名称のまま報告する。形状はいずれも不定形で、規模はP1が一辺約0.5m、深さ約0.15mを測る。P2は長軸約0.5m、短軸約0.35m、深さ約0.1mを測る。

遺物は、出土しなかった。

SW2P1（第31図）

自然流路SW2の東岸で検出された楕円形のピットで、規模は、直径約0.3m、深さ約0.2mを測る。柱痕状の埋土（1層）が確認された。

遺物は、埋土内から土器小片が出土した。

SD24P2・4（第31図）

SD24南側で検出された円形のピットで、規模は、P2が直径約0.25m、深さ約0.2mを測る。柱痕状の埋土（1層）が確認された。P4も直径約0.25m、深さ約0.2mを測る。柱痕状の埋土（1層）が確認された。

遺物は、出土しなかった。

SW1（第32図、図版11）

調査区西側を北から南に流れる自然流路で、実測図はB-2区における状況を示している。規模は、調査区北側で幅約17m、深さ約1.1m、南側で幅約23.5m、深さ約1.75mを測る。底面は浅い船底形である。

堆積土は有機質を多く含む黒褐色土（1層）や黑色土（2層）、黒色粘質土（3層）を中心で、1層からは弥生土器片が多量に出土したが、細片が多く、実測可能なものは少ない。

遺物は、弥生土器壺・甕、土師器直口壺、土師質土器小皿が出土した。

SW2（第33図、巻頭図版、図版12、13）

調査区中央部を北から南に流れる自然流路で、SW1と4～13m離れている。実測図はB-2区における状況を示している。規模は、調査区北側で幅約30.5m、深さ約1.1mを測る。底面は浅い船底形である。

堆積土は有機質を多く含む暗褐色土（1層）や黒褐色土（2層）、黒色土（3層）、黒色粘質土（4層）が中心で、B-2区では2層から弥生土器が多量に出土しており、土器片や礫が混在し、北側の上流部から流れ下って堆積した集中部（B-2区SW2土器片・礫集中部）を形成していた。そこから出土した弥生土器とそれ以外のSW2出土の弥生土器の間に時期差や器種の変化はみられなかった。実測図はほぼ器種に分類して掲載するため、各土器の出土地点については観察表を参照されたい。

流路のため下流ほど遺物の混在が著しく、B-3・4区では弥生土器と土師器が2～3層中に拡散し、同一層から時期の異なる土器が出土する状況であった。

遺物は、弥生土器壺・甕・高杯・鉢・手捏ね土器・土錐・底部、敲打石、土師器壺・甕・高杯・器台、土師質土器土鍋、鉄滓、近世陶磁器片が出土した。

SW3（第34図、図版13）

調査区東側を北から南に流れる自然流路で、SW2と9～15m離れている。実測図はB-2区における状況を示している。東側は調査区外にまで広がっており、全容は明らかでない。規模は、調査区北側で検出幅約12m、深さ約2.3mを測る。西岸端から東へ約6m付近で急激に深く落ち込んでおり、底面の形状は平坦である。

堆積土は有機質を多く含む暗褐色土（2層）や黒褐色土（3層）、黒色粘質土（4層）が中心で、2、3層を中心に弥生土器が多量に出土した。B-2区を中心にして層位毎に遺物の取り上げを行ったが、出土した土器に時期差や器種の変化はみられなかった。実測図は器種で分類して掲載するため、出土層位については観察表を参照されたい。

SW2同様に流路のため、下流ほど遺物の混在が著しく、B-3・4区では弥生土器と土師器が同一層から出土する状況であった。

遺物は、弥生土器壺・甕・高杯・鉢・手捏ね土器・器台・土玉・底部、土師器壺・甕・鉢、土師質土器杯・小皿が出土した。

出土した弥生土器の器種や時期の様相はSW2とほぼ同じである。

SW2（SB4西側）遺物（第35図、巻頭図版、図版14）

自然流路SW2の堆積土中に掘り込まれて構築されていたSB4の西側で、土師器壺、甕高杯、鉢など8点（312～319）が南北約1.2m、東西約0.7mの範囲でまとまって出土した。出土位置はSW2の4層であるが、高杯や鉢は立て並べられた状態をほぼ留めており、掘り下げ中には確認が出来なかつたが、これらは埋没したSW2内に掘り込まれた浅い土坑等に埋置されていた可能性があり、一括資料として扱うことができる。

また、やや離れたSK12の北側でも土師器高杯の杯部が1点出土している。

調査区内出土遺物

B-2区の地山面やB-3区の自然流路間の微高地上的地山面から弥生土器高杯、土師器杯、須恵器杯蓋などが出土している。

(2) 遺物

遺物は、自然流路を中心にコンテナ約130箱余り出土しており、実測点数にして325点に及んでいるため、以下では各遺構で特筆される遺物についてのみ特徴を記述するにとどめ、各遺物の詳細については観察表を参照されたい。また、出土量の多い自然流路SW2については記述、実測図とともに調査区に分けて報告し、SW3については、実測図のみ調査区毎に分けて報告する。

SB2（第36、37図、図版15）

9は土師器甕で山陰系の二重口縁をもつ。26、27も二重口縁の甕である。

10も土師器甕である。口縁部は「く」字形に外反し、端部はやや内反している。体部外面にハケメが施されている。

34は土師器小型丸底壺で体部外面に若干のハケメ、体部内面には指頭圧痕が多く施されている。

時期はいずれも古墳時代初頭とみられる。

SB4（第37図、図版15、16）

37は弥生土器壺である。球形に膨らんだ体部外面全体にハケメが縦方向に施され、仕上げに横方向にも施されている。頸部直下にはヘラ状工具による刺突文が巡らされている。体部内面は縦長の指頭圧痕が施されている。時期は弥生時代後期とみられる。

SB6（第37図、図版16）

38は弥生土器鉢である。短い口縁部が外方につまみ出され、端部は丸くおさめている。体部外面の底部付近と内面底部に指頭圧痕がみられる。時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭とみられる。

39は弥生土器の高杯である。三角形に開いた脚部のやや下方に4カ所の円形の穿孔が同じ高さで均等な間隔で施されている。内面にはハケメが施されている。時期は弥生時代終末期とみられる。

SB7（第38図、図版16、17）

40は弥生土器壺で二重口縁を持つ。頸部外面にはハケメが施され、頸部と体部の境にはヘラ状工具による斜格子の刻目を持つ貼付突帯が施されている。

44は土師器甕である。球形の体部に「く」字形に折れ曲がった口縁を持つ。内面底部に指頭圧痕がみられる。

45は土師器甕で山陰系の二重口縁をもつ。ややいびつな球形の体部を持ち、底部はわずかに尖り気味である。体部外面にはハケメが施されている。

46は土師器高杯である。口径が24cmの大型品で体部外面には凹線状の窪みがあり、この部分で、杯身上部を接合している。杯身内面にはヘラミガキが施されている。

時期は40が弥生時代後期後半、44～46は古墳時代初頭から前期とみられる。

SB8（第39、40図、図版17、18）

55は弥生土器壺で二重口縁を持つ。口径12.4cmの小型品で頸部は短く外反し端部を擬口縁とし、その上に粘土紐を貼り付けて口縁部を形成している。口縁外面には凹線文が6条巡らされており、頸部外面はハケメ、内面は指頭圧痕の後、ヘラミガキが施されている。

56は弥生土器甕である。器高13cm余りの小型品で胴部最大径に対して頸部の縮まりが弱い。体部外面にはヘラミガキ、口縁部外面には指頭圧痕、体部内面は上方向のヘラケズリと指頭圧痕が施されている。

58は弥生土器鉢である。胴部の張りは弱く、口縁は緩やかに外反する。体部外面はヘラミガキが

施され、底部付近は指頭圧痕が巡らされている。内面は上方向のヘラケズリを施し、口縁直下は指頭圧痕がみられる。

60は弥生土器の器台である。底径19cm以上のハ字形に開いた肉厚の脚部に、円形の透かしが三段にわたって施されている。

61は弥生土器手捏ね土器である。体部から口縁まで直線的に立ち上がり、端部は尖っている。体部は内外面とも指頭圧痕が多く施されている。

66、69は砥石である。66は長方形、69は石斧状に加工されており、長さは12～14cmを計る。いずれもよく使い込まれており、線条痕が多くみられ、幅広面の中央部は窪んでいる。流紋岩系の石材とみられる。

74は板状鉄斧あるいは鉄鑿で残存長6.5cm、残存幅3.3cm、厚さ1.9cmを計るが、残存状況が悪く全容は不明である。

75は鉄鎌で残存長5.3cm、残存幅2.2cm、刃部厚0.2cmを計る。有茎柳刃形の形状とみられる。

土器の時期はいずれも弥生時代後期後半、砥石と鉄製品はそれと同じ時期とみられる。

SD19（第41図、図版18）

82は土師質土器杯である。口径11.8cm、器高3.4cmで体部はゆるやかに立ち上がり、端部は丸くおさめる。底部は回転糸切りで内外面はナデが施されている。

時期は平安時代末から鎌倉時代前半とみられる。

SX9（第41図、図版19）

89は土師器壺である。口径12.3cm、器高12.9cmを計る。体部外面はヘラミガキやヨコナデ、内面はヨコナデや指頭圧痕が施されている。時期は古墳時代前期とみられる。

SW1（第42図、図版19）

91は土師器直口壺である。口径13.3cmを計る。内外面ともにナデが施されている。

92は弥生土器壺である。口径20.5cmで口縁部が「く」字形に強く屈曲し、端部はやや肥厚している。体部内面はハケメが施されている。

95は北部九州地域の須玖式土器の壺あるいは高杯の口縁部とみられる。

時期は91が古墳時代初頭後半、95は弥生時代中期前半（北部九州地域のⅢ期、安芸地域の中山Ⅲ期）とみられ、92も95とほぼ同じ時期とみられる。

B-2区 SW2（第42～49図、図版19～27）

99は弥生土器壺で二重口縁を持つ。頸部は短く大きく外反し端部を擬口縁とし、その上に粘土紐を貼り付けて口縁部を形成している。口縁外面には凹線文が2条巡らされている。

103は弥生土器壺である。球体の体部からの口縁部は強く屈曲し「ハ」字形に開いている。端部は方形である。体部外面は磨減が著しいが、内面は横方向のヘラケズリが施されている。

104は弥生土器壺である。胴部は肩が強く張り、頸部は若干長い。「ハ」字形に開いた口縁の端部は方形である。頸部外面直下に3条の波条文と垂下条線文がみられる。体部内面は頸部に指頭圧痕、体部には横方向のヘラケズリが施されている。107、108など同様に肩が張ったものがみられる。

106は弥生土器壺で球形の体部から口縁部は短く屈曲している。肩部にヘラ状工具による刺突文が施され、体部内面は頸部以下には指頭圧痕が施されている。105など同様に球体の体部をもつものがみられる。

112は弥生土器壺で二重口縁を持つ。頸部は外反し端部を擬口縁とし、その上に粘土紐を貼り付けて口縁部を形成しているが、大きく内傾している。擬口縁部分はつまみ出して尖っている口縁端部にはヘラ状工具による刻目が巡らされている。110、111など大きさは異なるが同様の形態のものがみられる。

115は弥生土器甕である。外反する頸部の上にやや外傾気味に直立する口縁が付く。口縁外面には凹線文が3条巡らされている。114も同様の形態とみられる。これらは安芸北部地域から石見地域でみられる形態である。

116は弥生土器壺である。小型で球形の体部に直口する口縁が付くとみられる。体部内面は指頭圧痕とナデが施されている。

138は弥生土器甕である。器高19.5cm、口径16.8cmの中型品で胴部最大径に対して頸部の縮まりが弱い。体部外面にはヘラミガキ、口縁部と底部に指頭圧痕、内面は底面から上方向へのヘラケズリとヘラミガキが施されている。

144は弥生土器高杯である。「ハ」字形に開いた脚部の上下に2カ所の円形の穿孔が施されている。

146は弥生土器鉢である。ボウル状の体部を持ち、口縁部は「く」字状にゆるやかに外反する。底部は平底である。体部内面はヘラケズリ、頸部は板ナデが施されている。

148は弥生土器鉢で、口径32cmを越える大型品である。「く」字形に折れ曲がった口縁端部には凹線文が1条巡らされている。体部外面にはヘラ状工具による刺突文が、内面は指頭圧痕後に横方向のヘラケズリが施されている。147のような若干小型のものや149のようなさらによい大型のものもみられる。

150は弥生土器手捏ね土器である。すぼまった中実の高い脚部から椀状の体部が立ち上がっていいる。外面は指頭圧痕が多く施されている。152も一回り小さな同様の形態のものである。

173は土師器甕である。寸胴形の体部が若干屈曲して口縁となっており、端部は丸くなっている。体部外面はハケメ、内面は下方に横方向のヘラケズリ、上方はハケメが施されている。

174は弥生土器土錘で直径約3cmの球形を呈する。表面は磨滅しているが、2条の深い溝が十字に交差して巡らされ、それに直交して最大径部分に1条の深い溝が巡らされている。重量は31.7gを計る。

176は敲打石である。石斧状を呈し、断面は梢円形である。長さ12.2cm、最大幅5.6cmである。磨製石斧を転用したとみられる。石材は蛇紋岩である。

時期は土器については112が弥生時代終末期、144、146、150がおおまかに弥生時代後期、それ以外は弥生時代後期後半、173が古墳時代前期から中期とみられる。

174の土錘は99、103、106と同じ土器片・礎集中部から出土していることから、やはり弥生時代後期後半でとらえられる。176の敲打石も同じ集中部からの出土であり、同じ時期と考えられる。

B-3区 SW2（第50～52図、図版27～31）

179は弥生土器壺で二重口縁を持つ。頸部は短く大きく外反し端部を擬口縁とし、その上に粘土紐を貼り付けて口縁部を形成している。口縁外面には凹線文が巡らされており、垂下条線文も施されている。頸部外面には貼付突帯が2条施され、突帯の間は2段の二枚貝による刺突文が巡っている。頸部外面は板ナデ、内面はヘラミガキが施されている。

191は弥生土器甕である。器高26.3cm、口径18cmの大型品で胴部最大径に対して頸部の縮まりが弱い。体部外面にはヘラミガキ、肩部にはヘラ状工具による羽根状刺突文、口縁部には凹線文が3

条施されている。内面は底面から体部中位までは上方向のヘラケズリ、それより上は斜方向のヘラケズリが施されている。底部底面はくぼみ底となっている。

193は弥生土器高杯である。口縁部は大きく屈曲し外面には断面三角形の突帯と6条からなる櫛描波条文が施されている。体部ならびに脚部外面にはハケメが施され、内面は底部付近がヘラミガキ、上方が横方向のヘラケズリや板ナデを施している。

194は土師器高杯である。口径16.1cm、杯部の深さが4.6cmを計る。平坦な内底面から口縁が大きく開いて立ち上がる。外面はヨコナデを施している。

195も土師器高杯である。口径15.2cm、杯部の深さが4.4cmを計る。脚部から杯部がゆるやかな曲線を描いて立ち上がる。内外面ともにヨコナデを施している。

197は弥生土器高杯の脚部で、杯部直下にヘラ描き沈線が9条、その下に三角形とみられる透かしが4箇所施されている。

207は弥生土器鉢で、口径約20cmの中型品である。「く」字形に折れ曲がった口縁端部には四線文が1条巡らされている。体部外面はヘラミガキ、口縁直下には指頭圧痕が施されている。

209は土師器鉢で、口径10.2cm、器高8.9cmを計る。体部は内外面ともに輪積み成形痕を磨り消すように指頭圧痕や板ナデが施されているが、器壁の厚さも均一ではなく、粗製である。

213は土師器の器台である。口径13cmで台部は深さ約2.0cmと浅い。外面にはハケメや指頭圧痕が施されている。

時期は197が弥生時代中期後半、179、191、207が弥生時代後期後半、193はおおまかに弥生時代後期、194、195、213は古墳時代前期、209が古墳時代前期から中期とみられる。

SW3（第53～61図、図版31～40）

220は弥生土器壺で二重口縁を持つ。口縁外面に四線文が6条施され、頸部外面にはハケメが施されている。頸部と体部の境にはヘラ状工具による斜格子の刻目を持つ貼付突帯が施されている。体部は倒卵形状で肩部に焼成後の穿孔が1箇所施されている。体部外面は縦方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラケズリと頸部付近に指頭圧痕が施されている。

229は土師器壺で、短い頸部から二重口縁が立ち上がっており、擬口縁と部分には接合痕がみられる。頸部外面は縦方向のハケメ、擬口縁直下には指頭圧痕、口縁部は7条の櫛描沈線が2段に施され、その間に波条文が巡っている。

230は土師器壺で、口径が20cmを越える大型品である。肩の張った胴部からやや外方に開く短頸部に、断面方形の無文の突帯が貼り付けられている。体部外面はヘラミガキ、口縁内外面はヨコナデが施されている。防長地域からの搬入品の可能性がある。

232は弥生土器壺の体部である。倒卵形状の体部で、残存高が32cm、胴部最大径が25cmを越える大型品で、出土した弥生土器の中で最も大型である。体部外面は縦方向のヘラミガキ、内面は上方へのヘラケズリが施されている。

245は土師器高杯で、口径が25cmの大型品で口縁部が強く外反している。体部と口縁部の境はやや稜線状を呈しており、端部はやや方形である。杯身外面はハケメが施され、内面は横方向のヘラケズリが施されている。

246も土師器高杯の杯部で、口径が22.3cmを計る。体部と口縁部の境はやや内傾して屈曲し、端部は細く丸くおさめている。杯身外面はナデが施され、内面は横方向のハケメが施されている。

247も土師器高杯である。口径11.6cmの椀状の杯部を持ち、脚部はやや細い三角形で、円形の透かしがみられる。

274は弥生土器の壺もしくは甕の底部で、底部外面にヘラ描きで線刻が施されている。3本の線を貫くように直交する1本の線が描かれているが、意匠の内容は不明である。

275は弥生土器の底部で、直径3～4mmの焼成前の穿孔が2箇所施されている。瓶として用いたことが想定される。

278は弥生土器の器台である。三角形に開いた脚部の上下2カ所にやや小さめ円形の穿孔が施されている。脚部外面は縦方向のハケメ、内面は指頭圧痕が施されている。

279は弥生土器土玉である。直径2cmの球形を呈する。指頭での成形後にナデを施している。重量は6.7gを計る。

309は土師質土器小皿である。口径7.7cm、器高2.1cmで端部は丸くおさめる。底部は回転糸切りとみられる。後述する311同様にB-3区SW3検出面から出土している。

311は土師質土器杯である。口径12.8cm、器高3.5cmで体部はゆるやかに立ち上がり、端部は丸くおさめる。底部は回転糸切りで、内外面はナデが施されている。B-3区SW3検出面から出土しており、付近に中世の遺構が存在していた可能性がある。

時期は220、232が弥生時代後期後半、229が古墳時代前期、230が古墳時代中期、245、246が古墳時代初頭、247が古墳時代前期から中期とみられる。274、275、278はおおまかに弥生時代後期、279は弥生時代後期後半とみられる218や253が出土した小さな土器集中部からの出土でやはり同じ時期でとらえられる。

309、311は平安時代末から鎌倉時代前半とみられる。

SW2（SB4西側）遺物（第61～62図、図版40～42）

312、313は土師器の小型直口壺である。312は口径8.9cm、器高13cm、313は器高12cmを計る。球形の体部で、胴部最大径は12～13cmを計る。313の体部外面はハケメが多く施され、内面には指頭圧痕が多く施されている。

312は灰褐色（黒色）、313はにぶい黄橙色（白色）の精良な土を意識的に用いて作製している可能性がある。また、312は外面が二次被熱を受けており、体部を中心に割れや剥離がみられる。

314、315は土師器甕である。314は口径16.7cm、器高13.2cm、315は口径16.2cm、器高22cmを計る。いずれも球形で丸底の体部に短く外方に立ち上がる口縁が付き、口縁端部は方形気味である。314は器壁も薄く厚みが均一である。体部外面はハケメが縦方向を中心施され、内面は指頭圧痕がみられる。口縁部は内外面ともにヨコナデである。315は粗製で器壁も肉厚で、厚みは均一でない。体部外面には口縁まで横方向のハケメが全面に施されている。内面は板ナデが施され、頭部付近には指頭圧痕がみられる。

316、317は土師器高杯である。316は口径14.3cm、317は口径16.7cm、器高13.2cmを計る。いずれも椀状の杯部に「ハ」字形に大きく開く脚部が付く。杯部は口縁端部を丸くおさめ、外面下方には稜を有しており、内面は円盤充填でふさがれている。杯部外面はハケメが施され、杯部と脚部の接合点は指頭圧痕が残っている。

いずれも橙色（赤色）の精良な土を意識的に用いて作製している可能性があり、外面はさらに赤色塗彩を施しているとみられる。

318、319は土師器鉢である。口径はいずれも約11cmで内外面ともにヨコナデを施している。いずれも、にぶい黄橙色（白色）の精良な土を意識的に用いて作製している可能性がある。時期は古墳時代中期とみられる。

SK12北側（第62図、図版42）

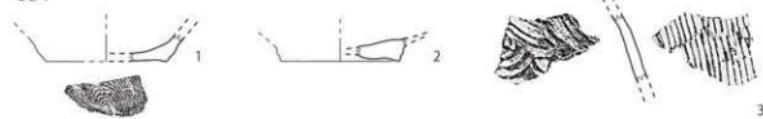
320は土師器高杯である。312～319からやや離れたSK12北側で出土した。口径13.2cmで、体部はゆるやかに立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面は円盤充填でふさがれている。

時期は古墳時代前期から中期とみられる。

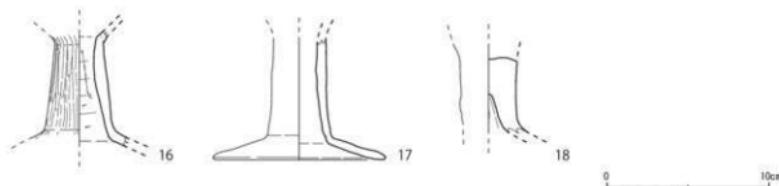
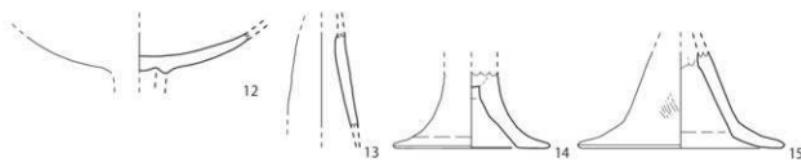
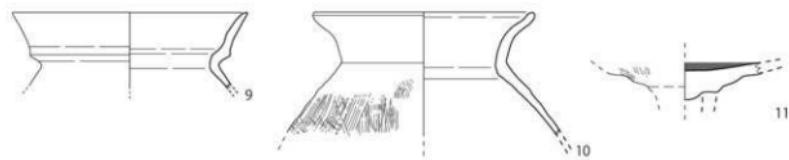
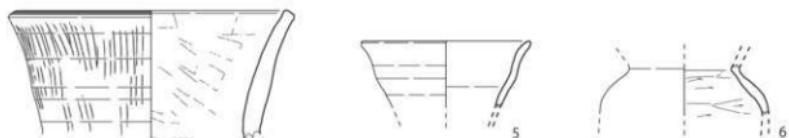
調査区内出土遺物（第62図、図版42）

324は土師器杯である。B-3区のSW1とSW2の間の地山面から出土した。口径13.6cm、器高4.9cmを計る。体部は底面から直線的に立ち上がり、端部は短く外方に折れ曲がっている。体部外面は底部付近がヘラケズリ、それ以外はナデが施されている。時期は古代とみられる。

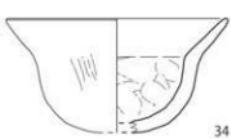
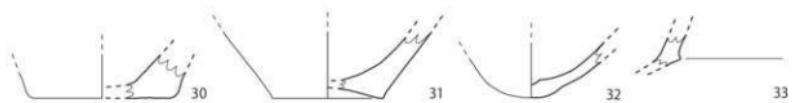
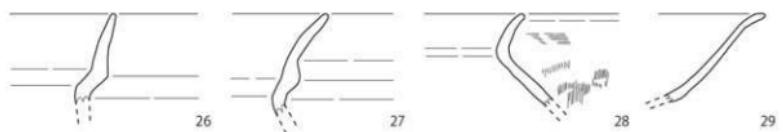
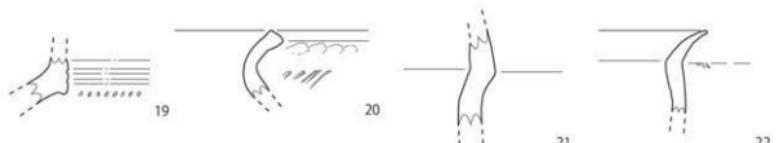
SB1



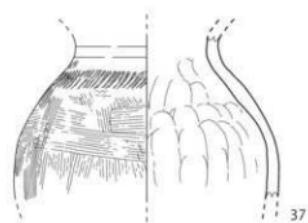
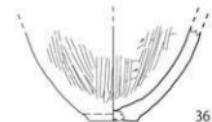
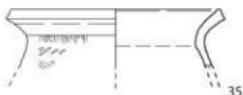
SB2



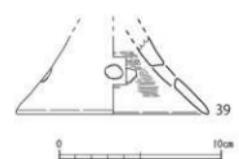
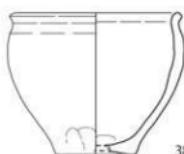
第36図 出土遺物実測図1 (1 : 3) (アミカケは赤色塗彩)



SB4



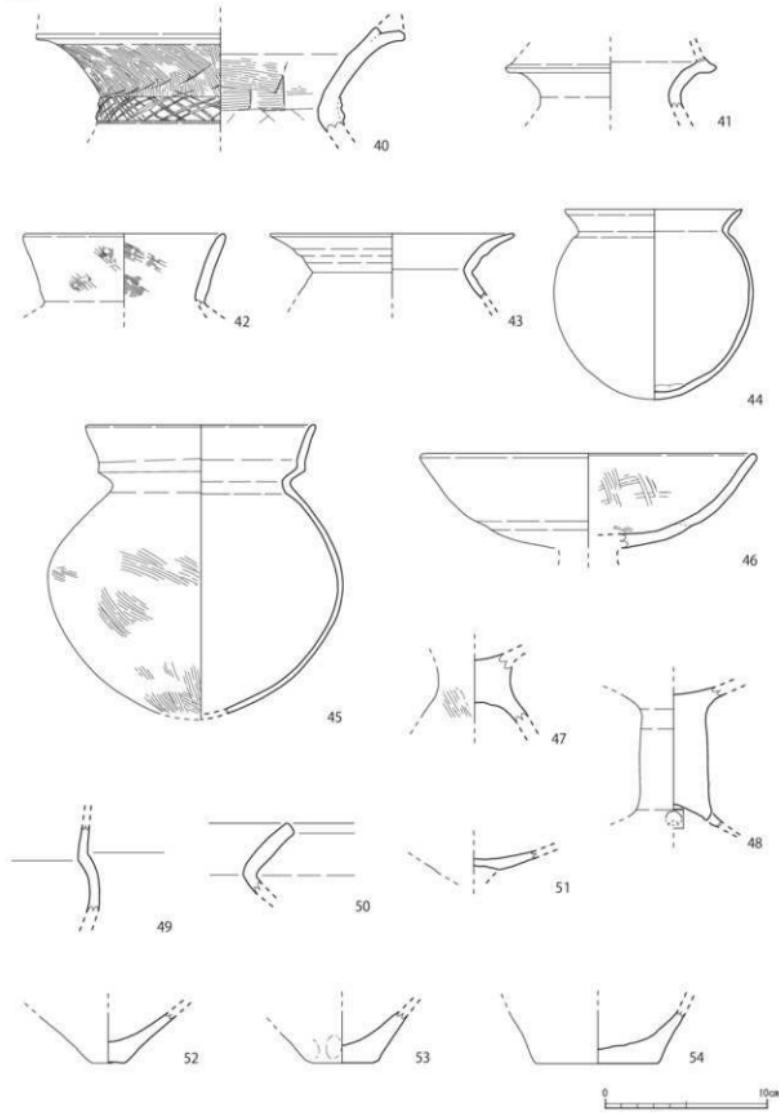
SB6



0 10cm

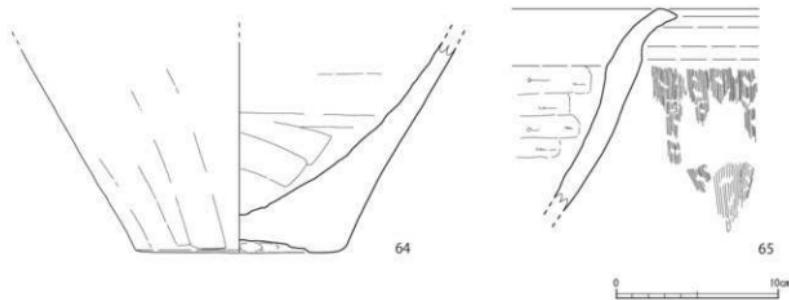
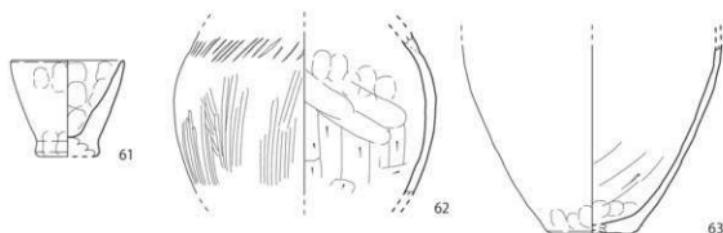
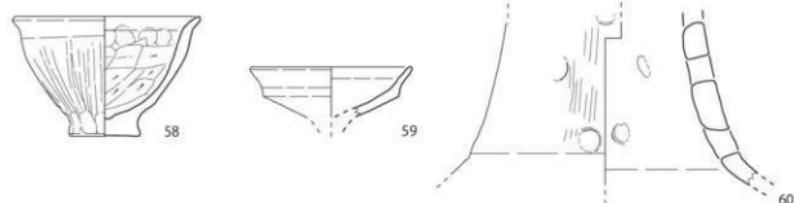
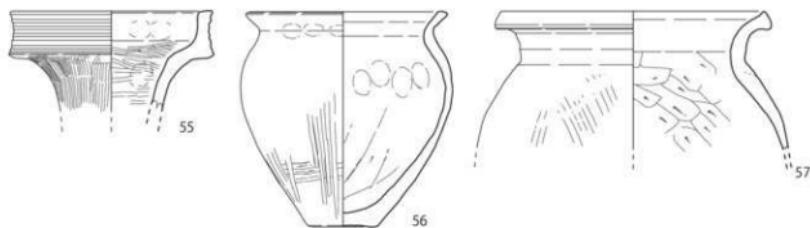
第37図 出土遺物実測図2 (1 : 3)

SB7

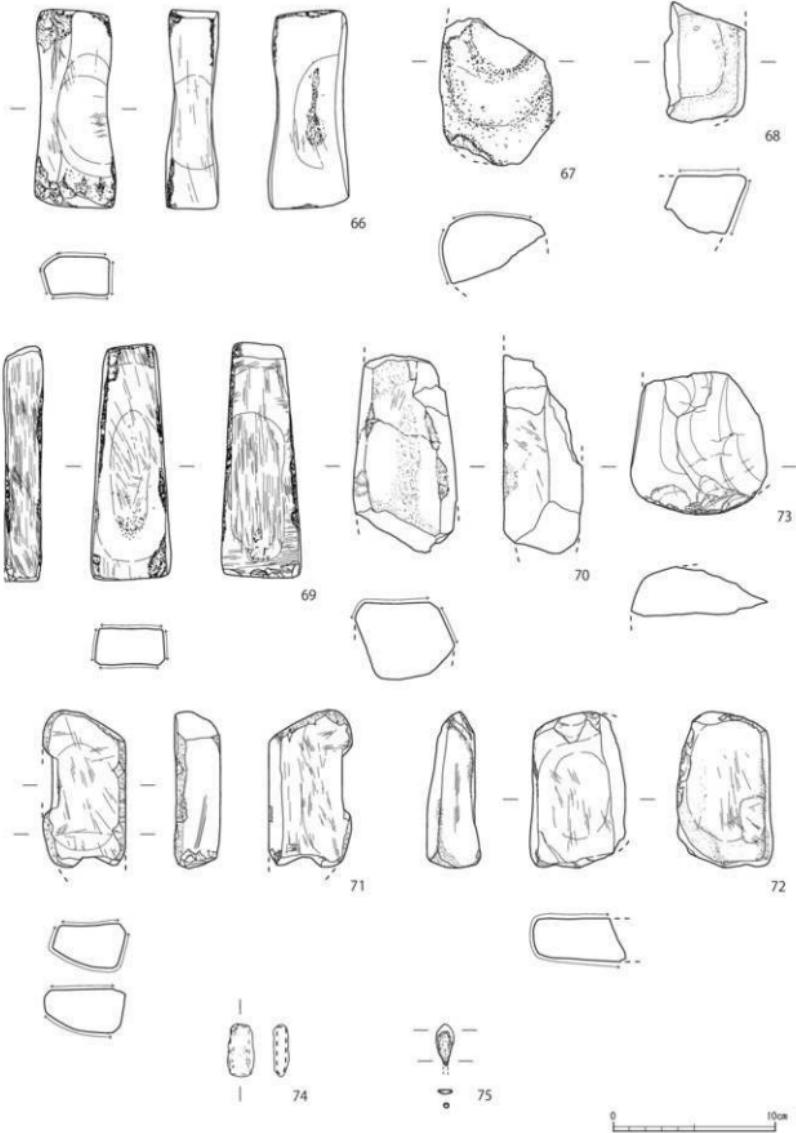


第38図 出土遺物実測図3 (1 : 3)

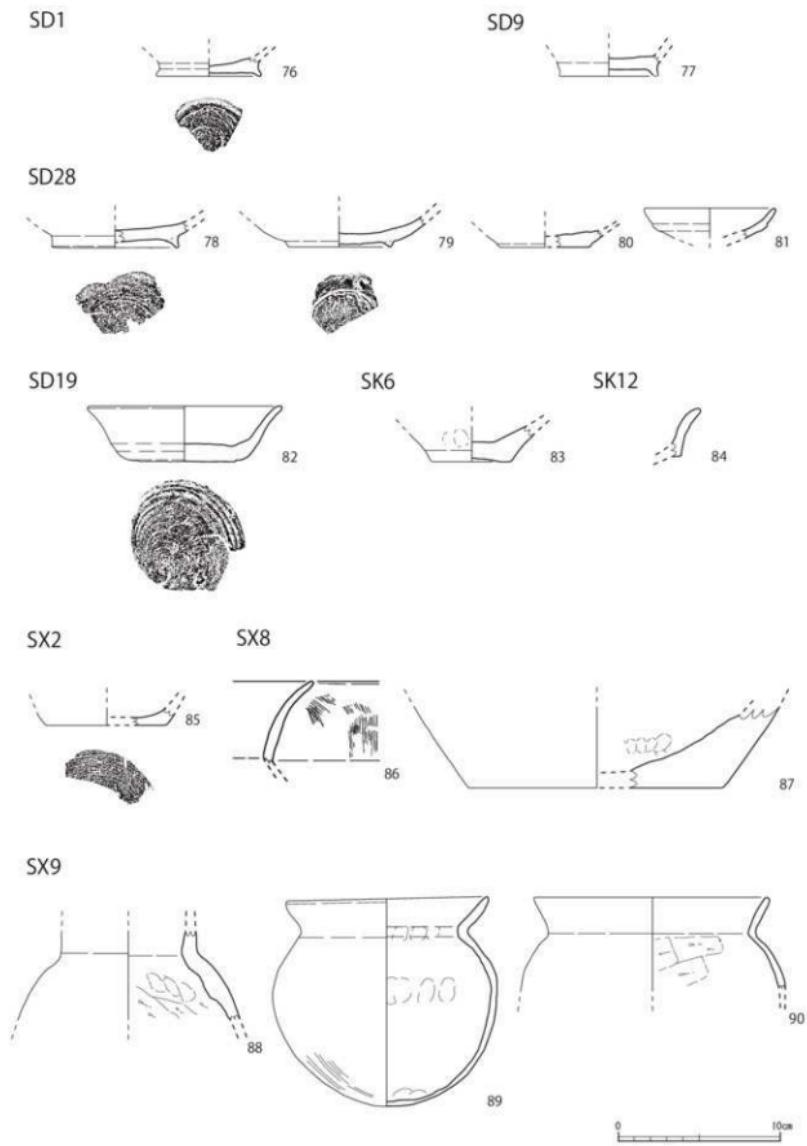
SB8



第39図 出土遺物実測図4 (1 : 3)

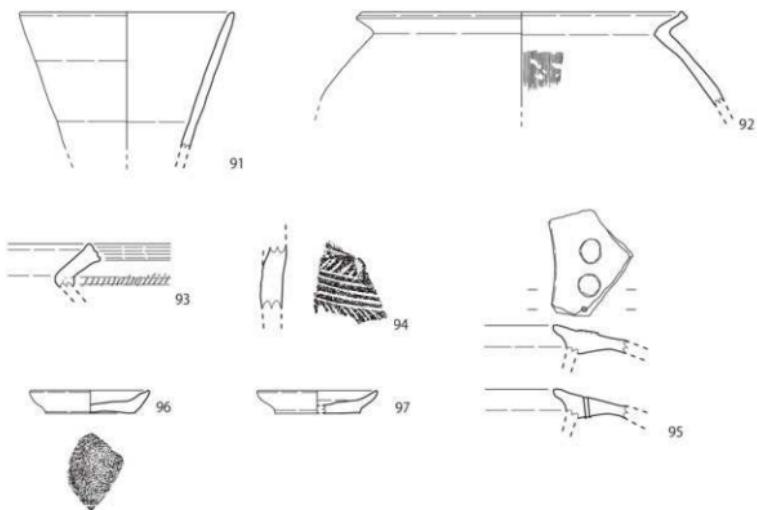


第40図 出土遺物実測図5 (1 : 3) (+は研磨面)

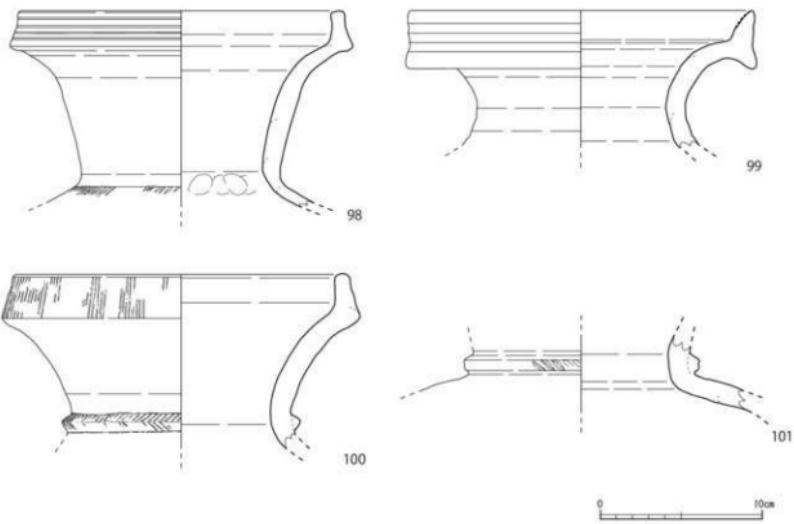


第41図 出土遺物実測図 6 (1 : 3)

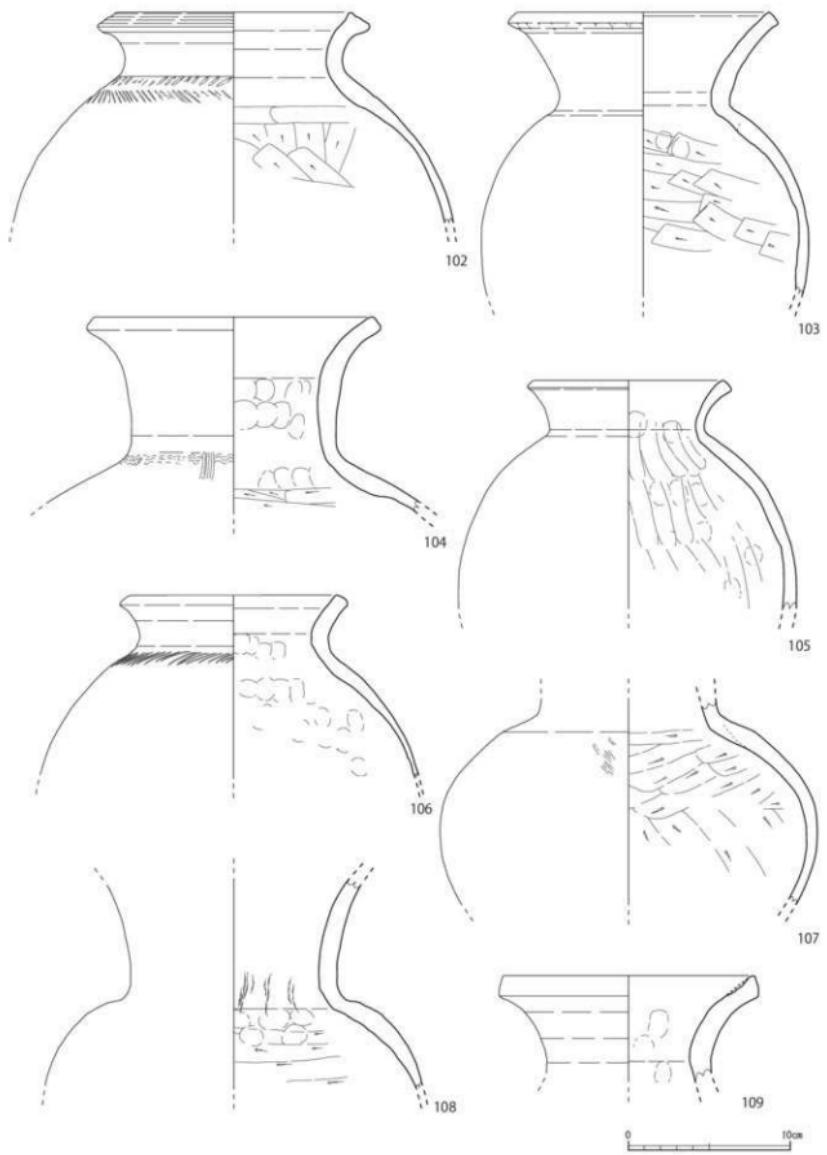
SW1



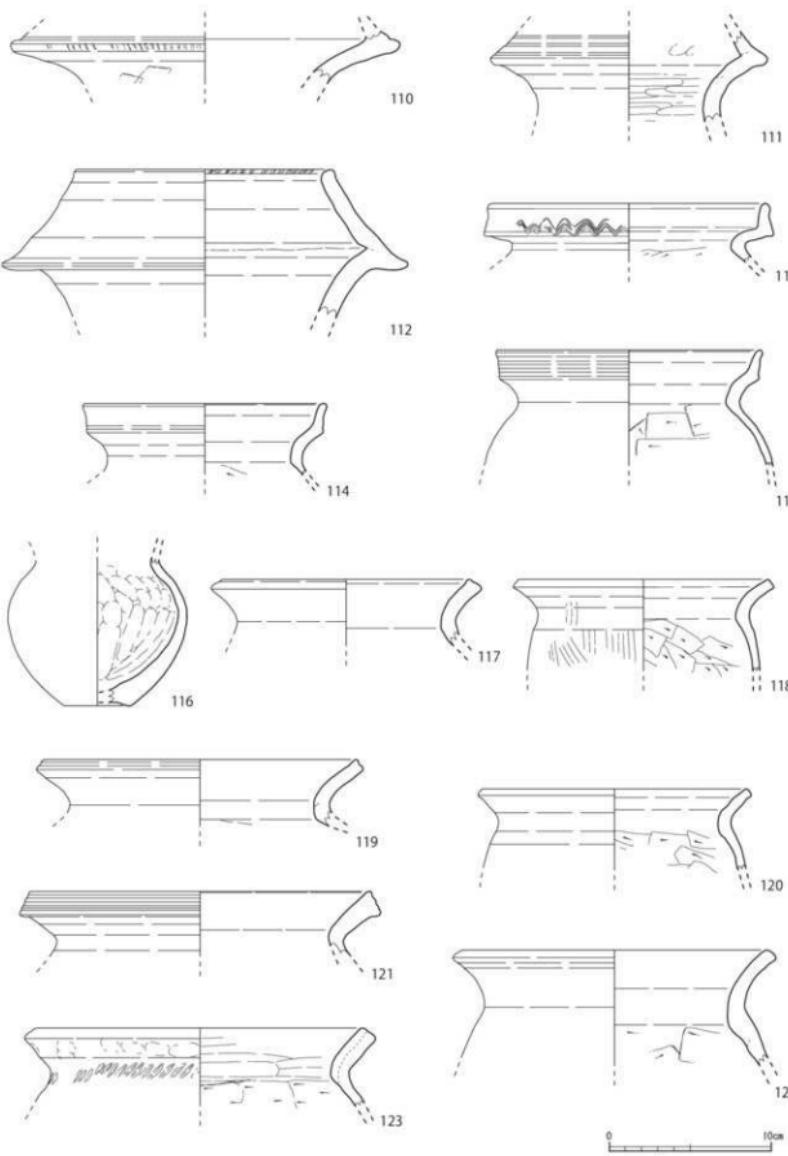
B-2 区 SW2



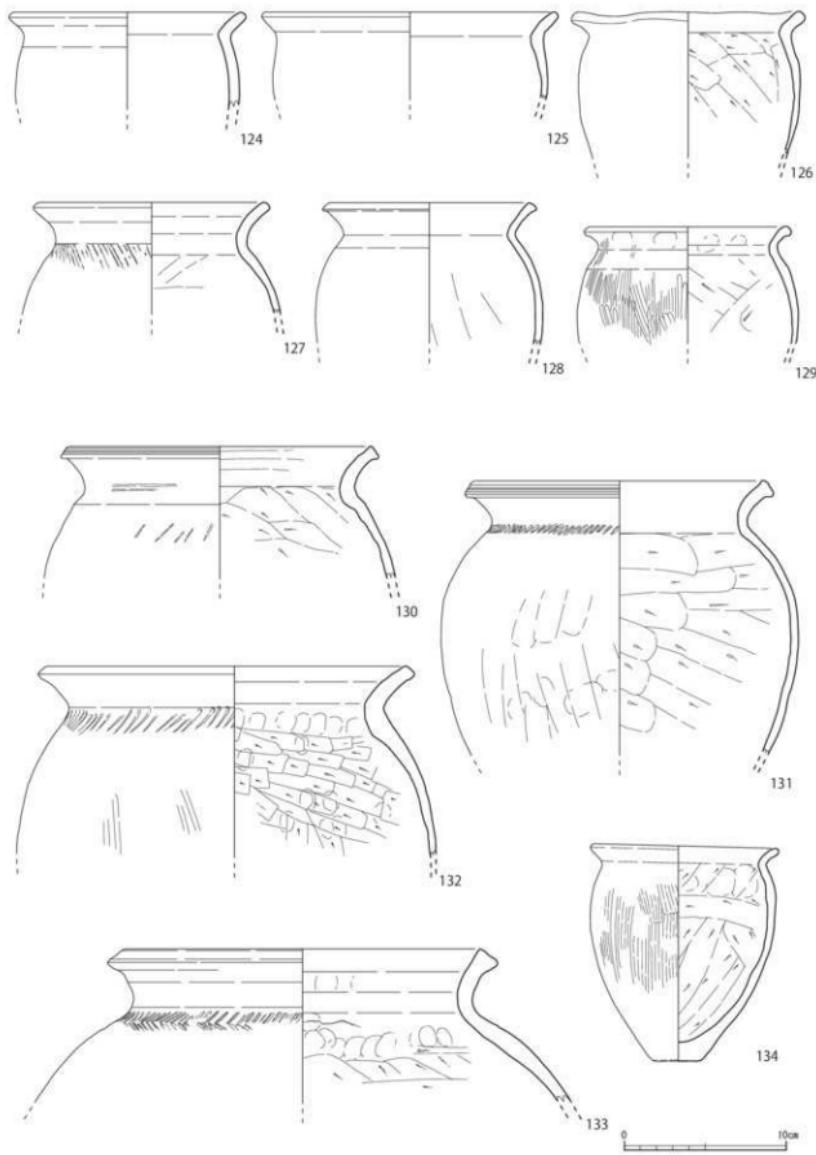
第42図 出土遺物実測図 7 (1 : 3)



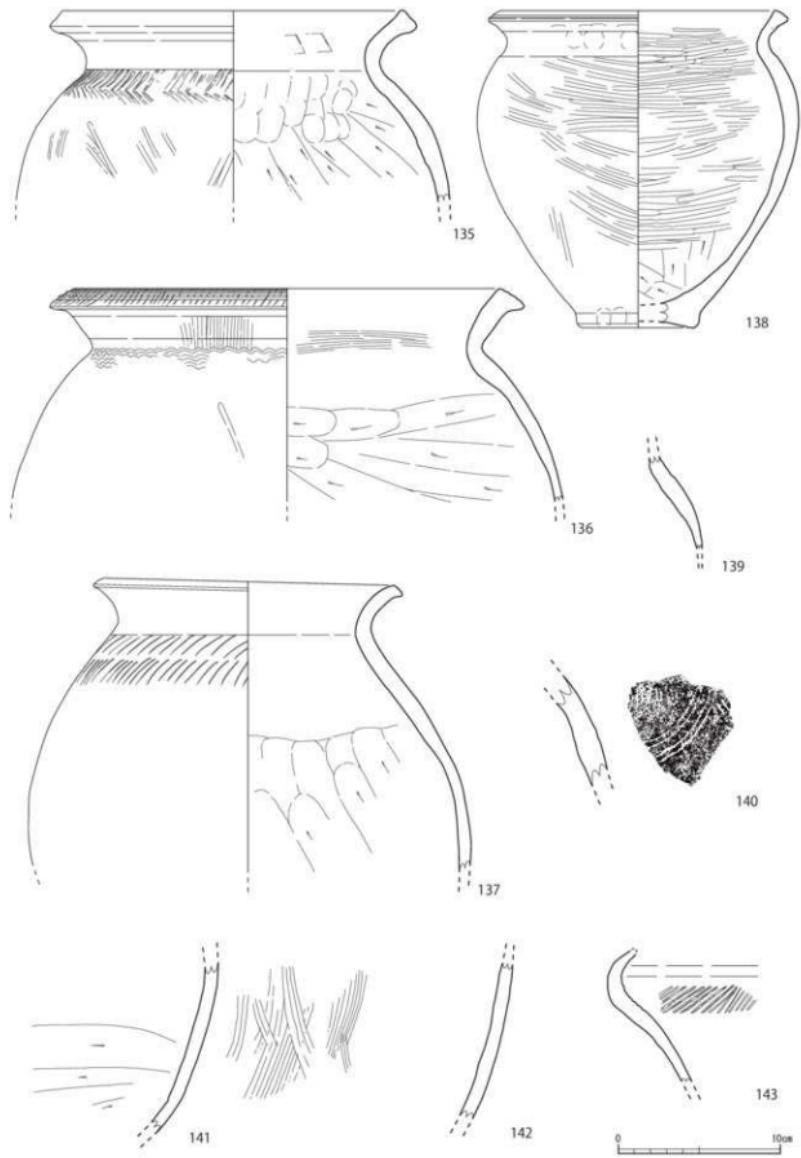
第43図 出土遺物実測図8 (1 : 3)



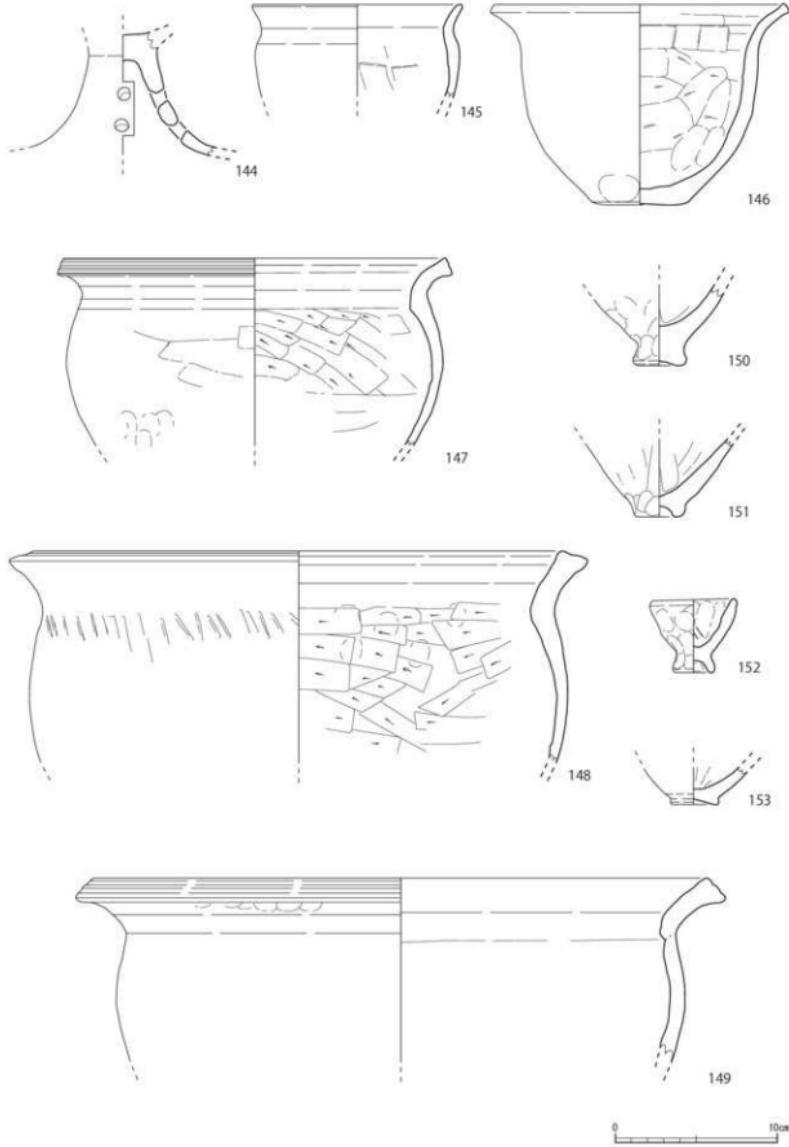
第44図 出土遺物実測図9 (1 : 3)



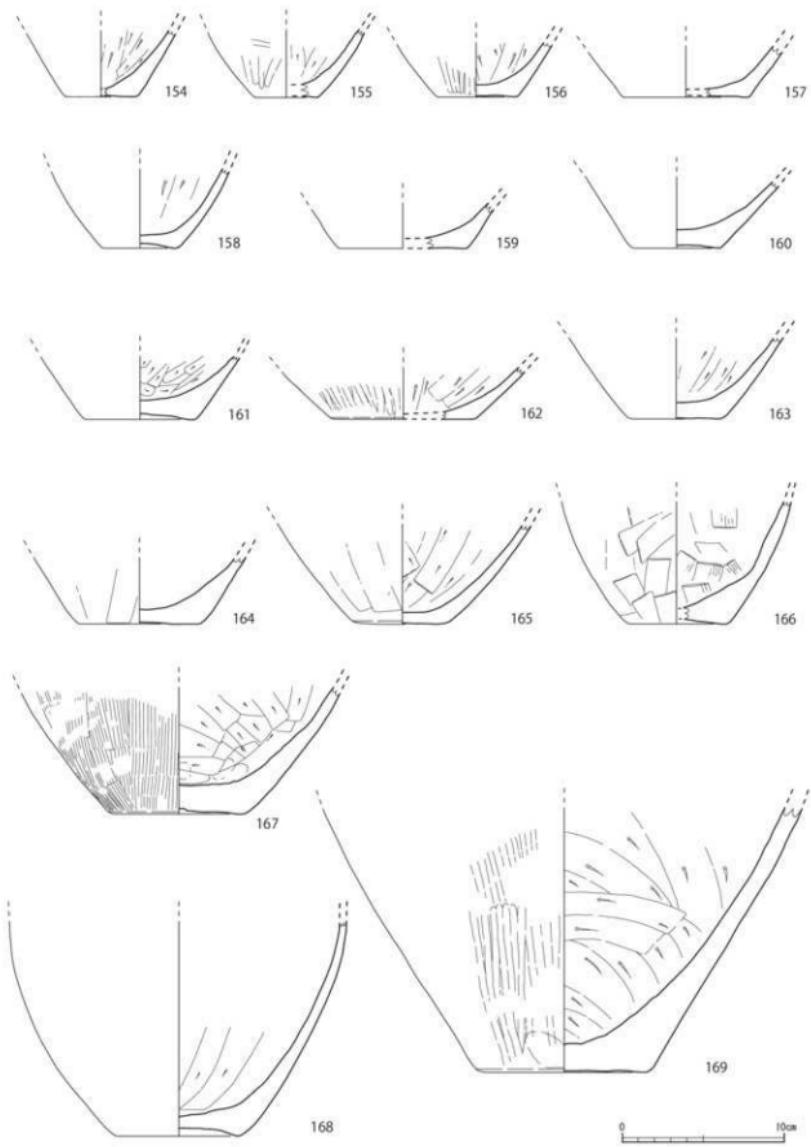
第45図 出土遺物実測図10 (1 : 3)



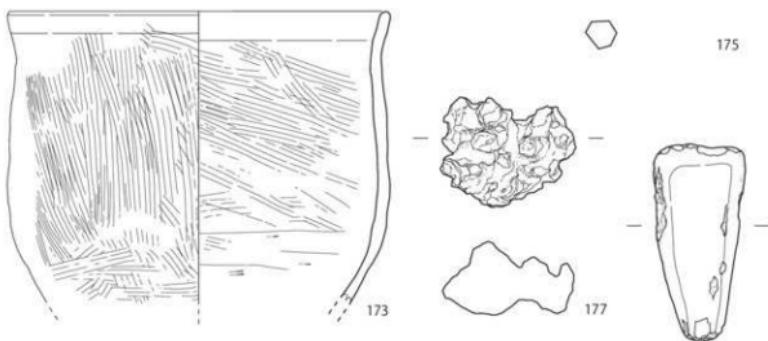
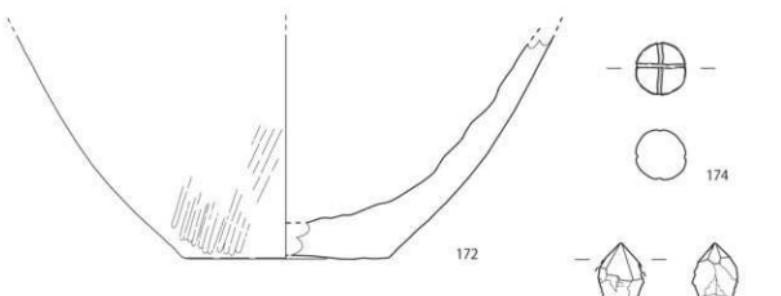
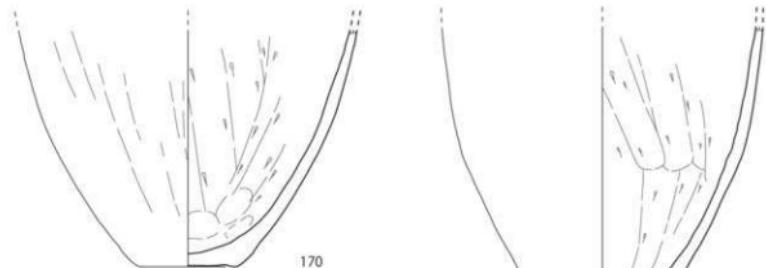
第46図 出土遺物実測図11 (1 : 3)



第47図 出土遺物実測図12 (1 : 3)

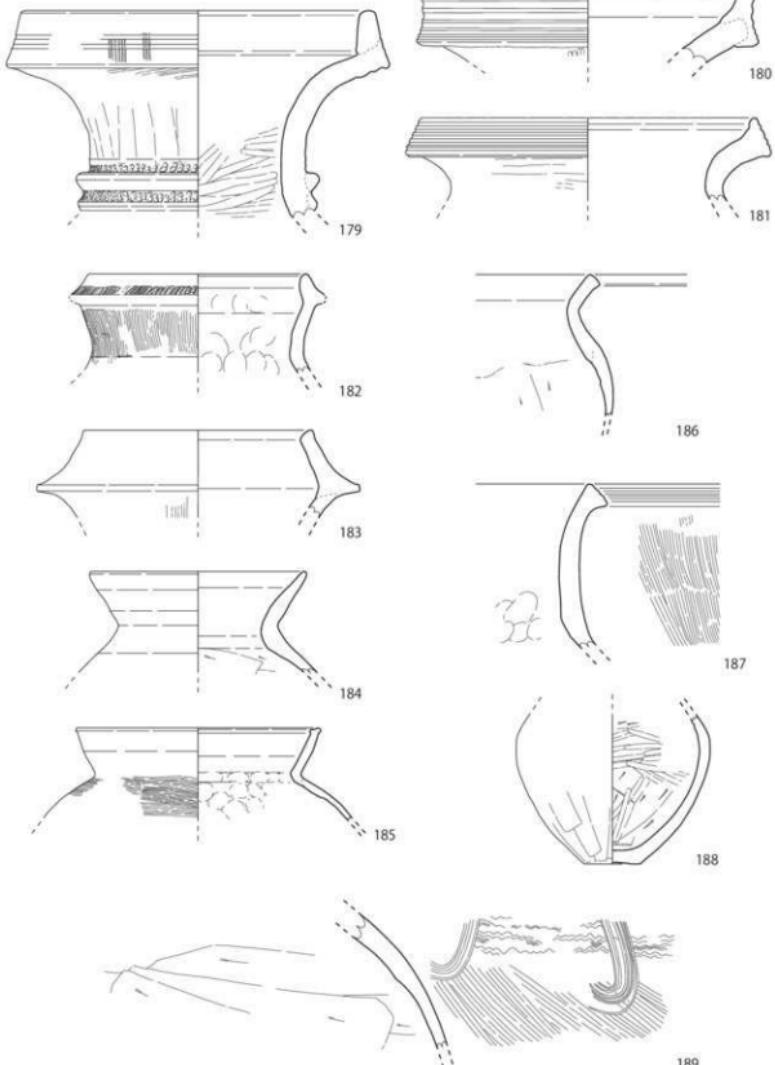


第48図 出土遺物実測図13 (1 : 3)



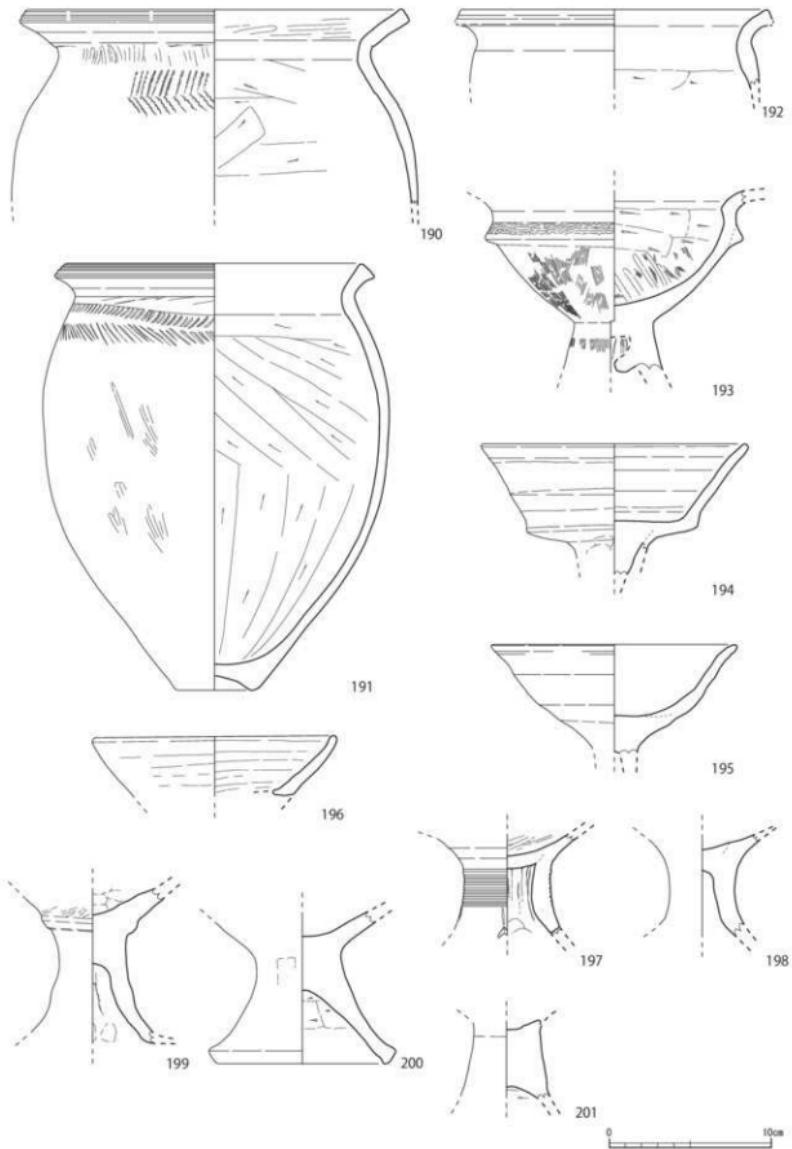
第49図 出土遺物実測図14 (1 : 3) (+は研磨面)

B-3 区 SW2

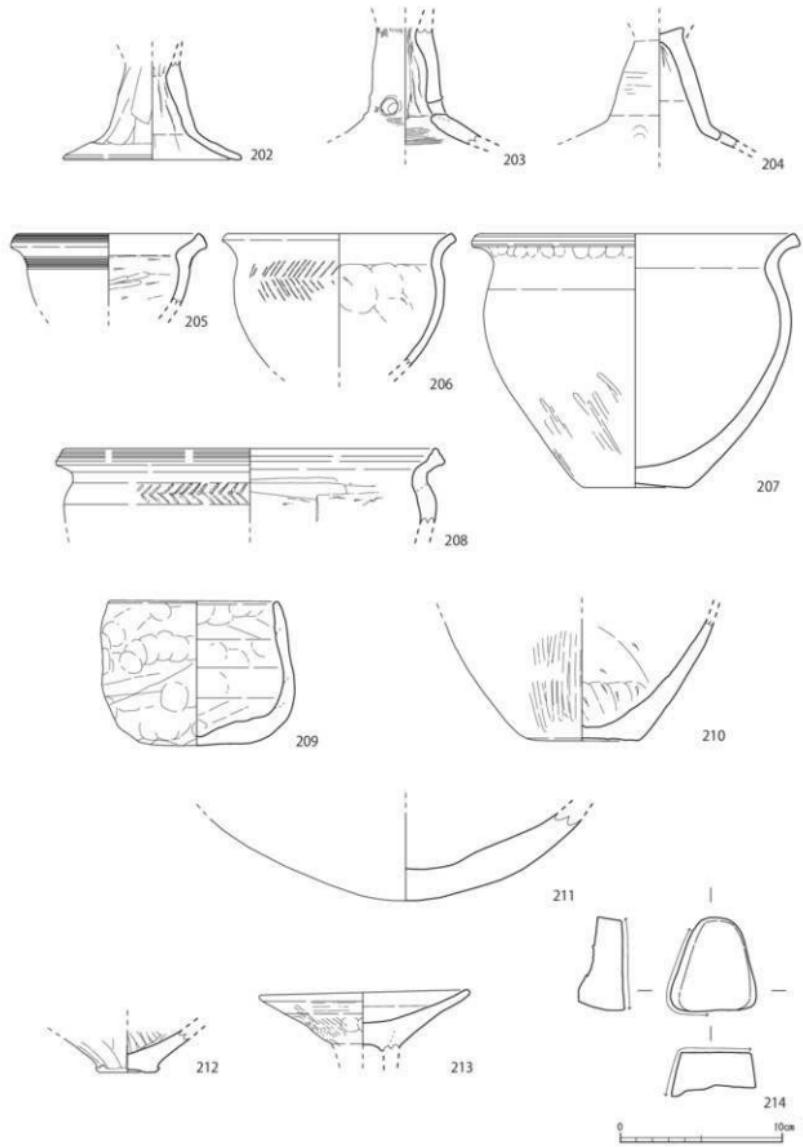


0 10cm

第50図 出土遺物実測図15 (1 : 3)

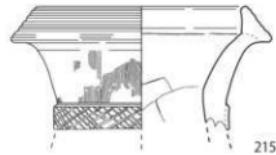


第51図 出土遺物実測図16 (1 : 3)

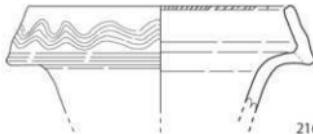


第52図 出土遺物実測図17 (1 : 3) (+は研磨面)

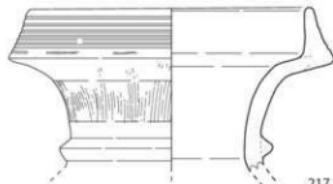
B-2 区 SW3



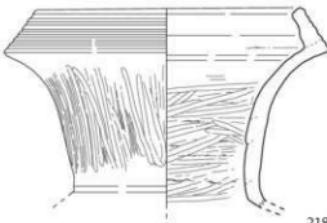
215



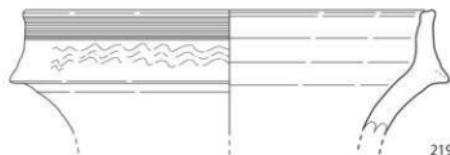
216



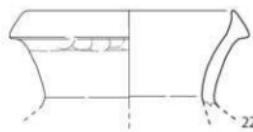
217



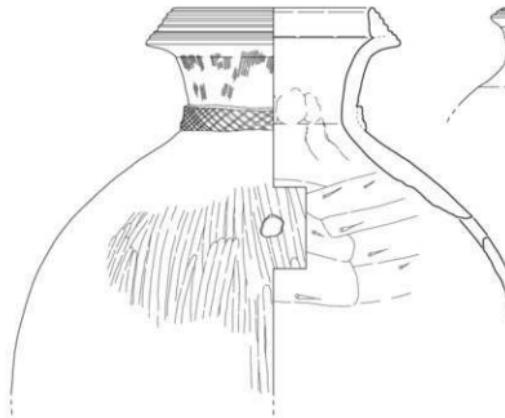
218



219



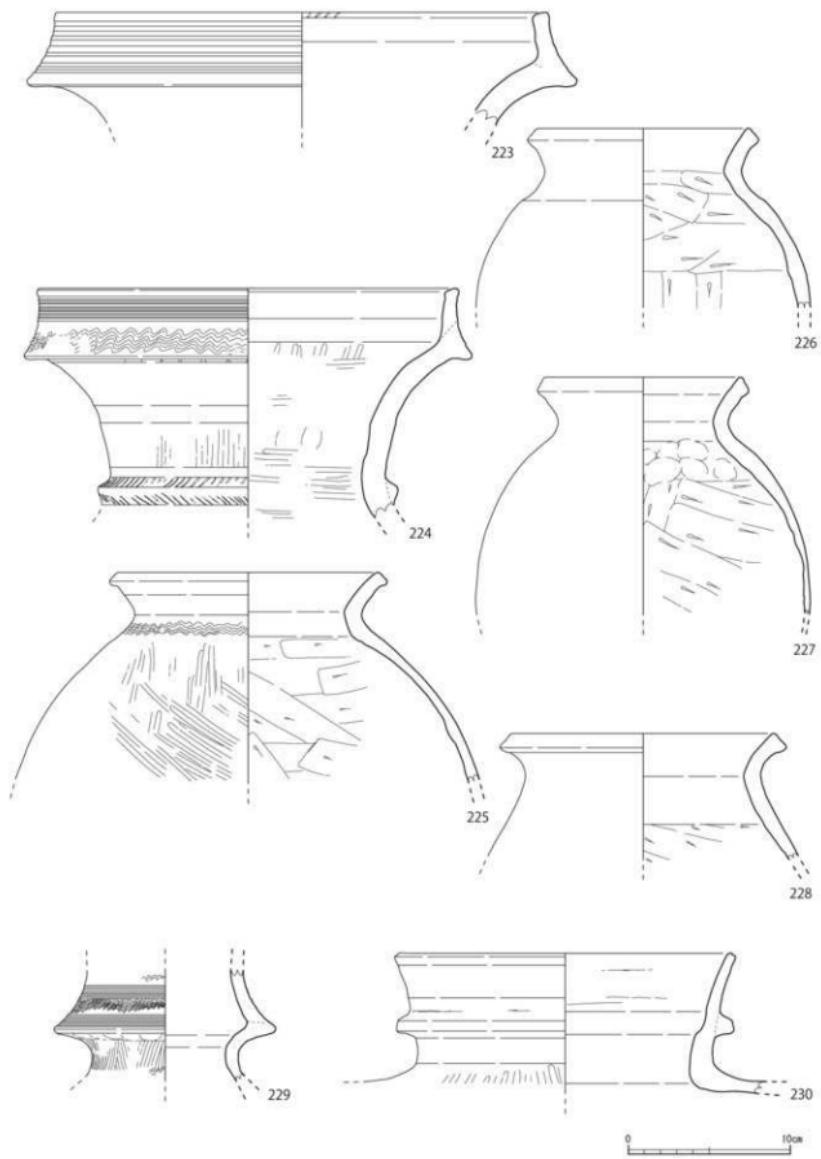
221



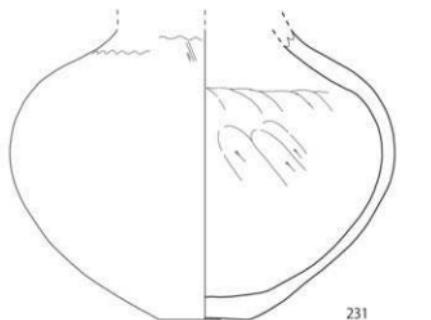
220



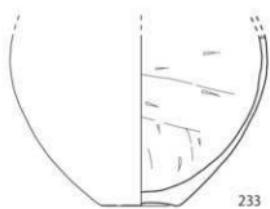
第53図 出土遺物実測図18 (1 : 3)



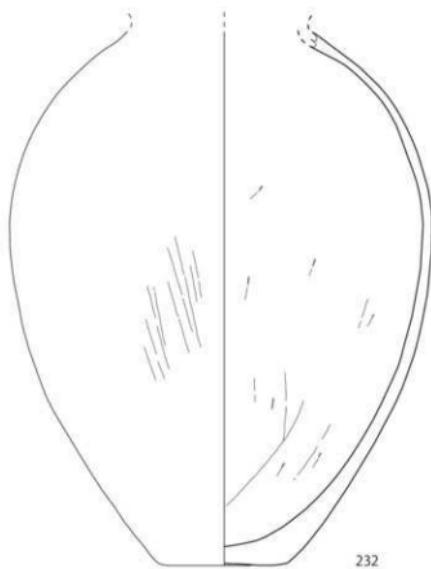
第54図 出土遺物実測図19 (1 : 3)



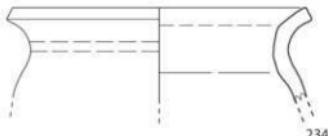
231



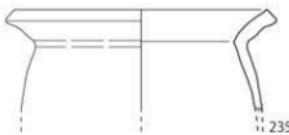
233



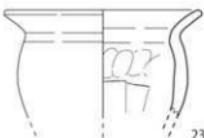
232



234



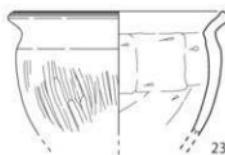
235



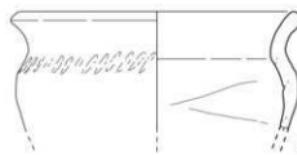
236



239



237



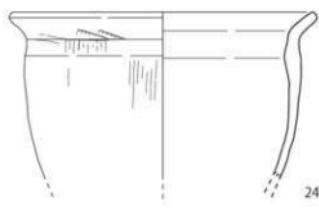
238

0 10cm

第55図 出土遺物実測図20 (1 : 3)



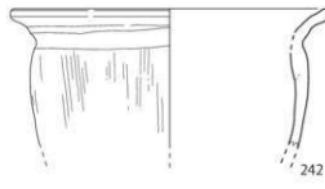
240



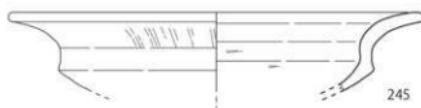
241



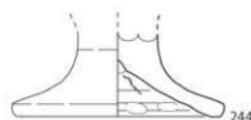
243



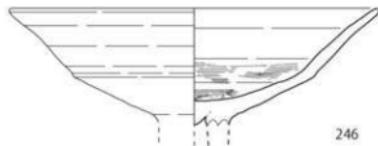
242



245



244



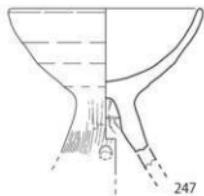
246



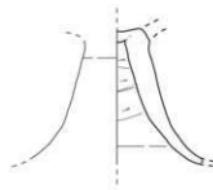
248



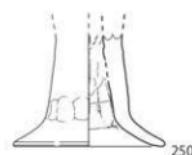
249



247



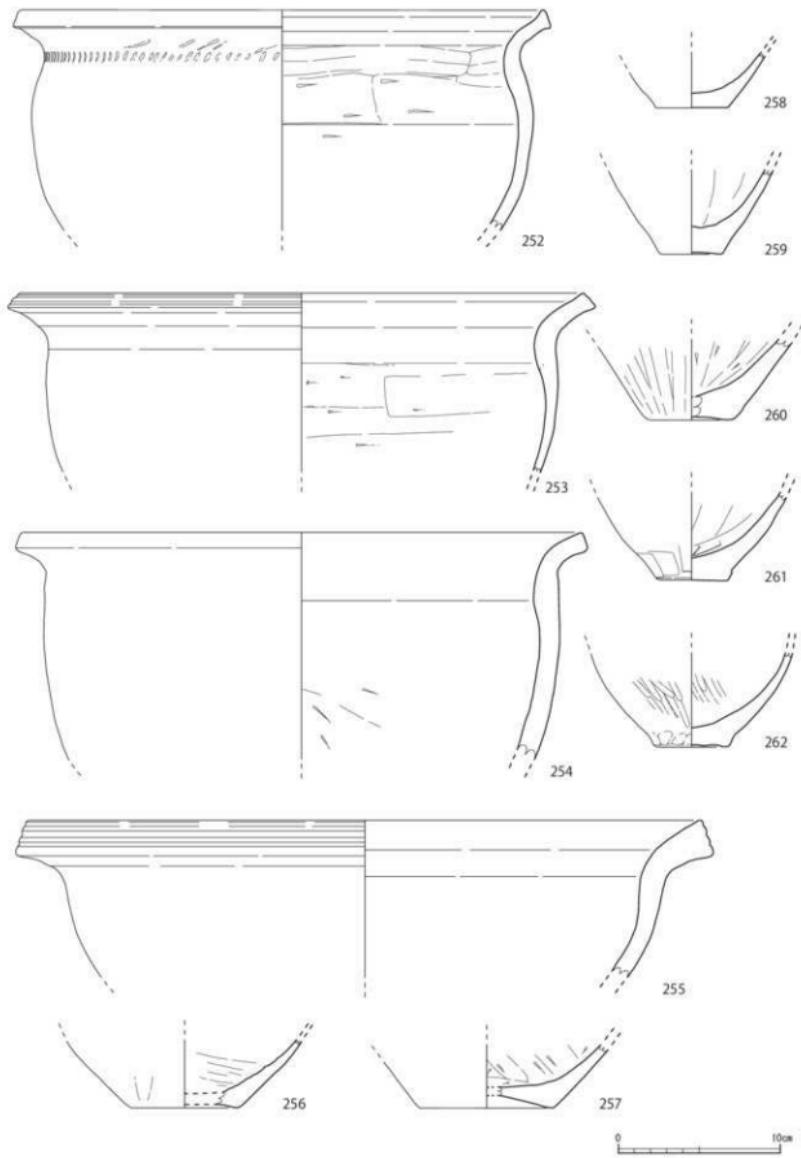
251



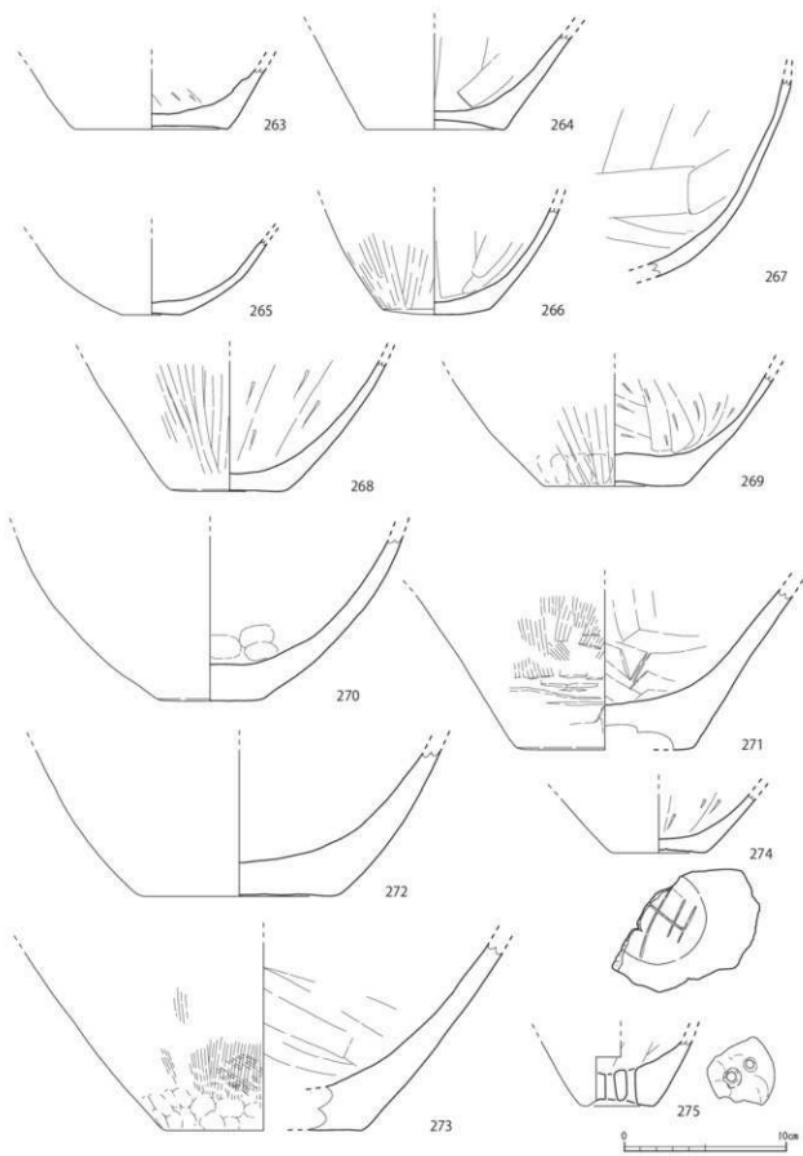
250



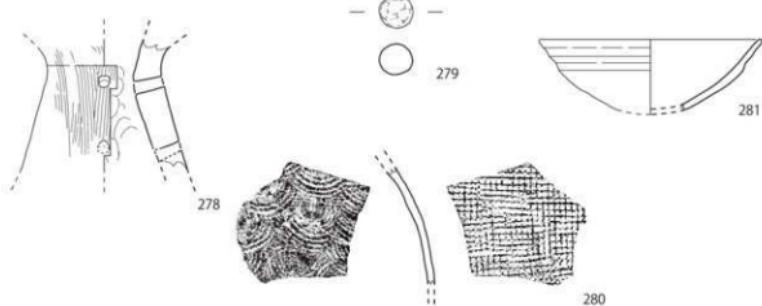
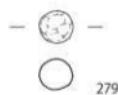
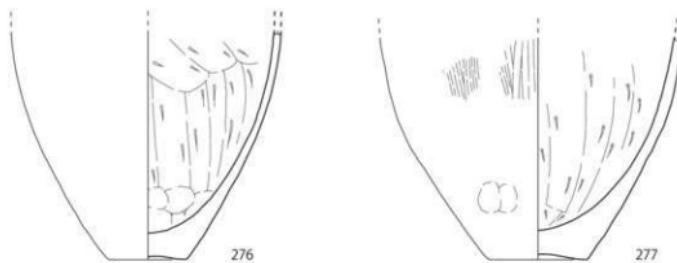
第56図 出土遺物実測図21 (1 : 3)



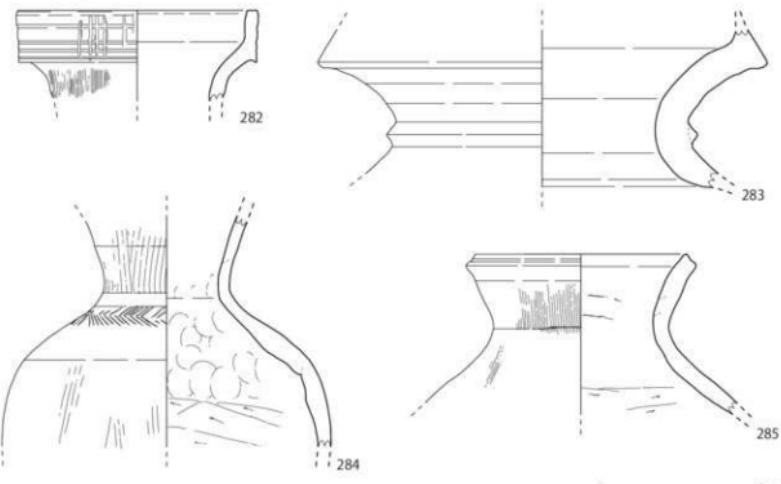
第57図 出土遺物実測図22 (1 : 3)



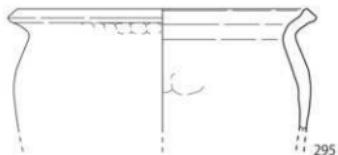
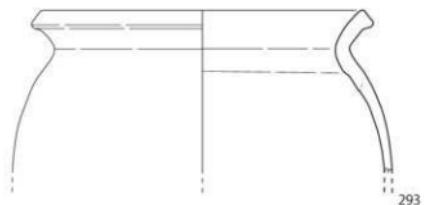
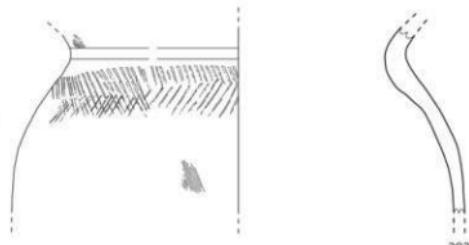
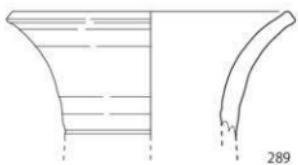
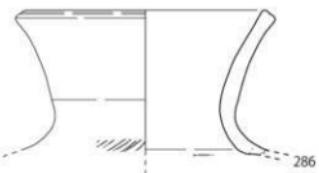
第58図 出土遺物実測図23 (1 : 3)



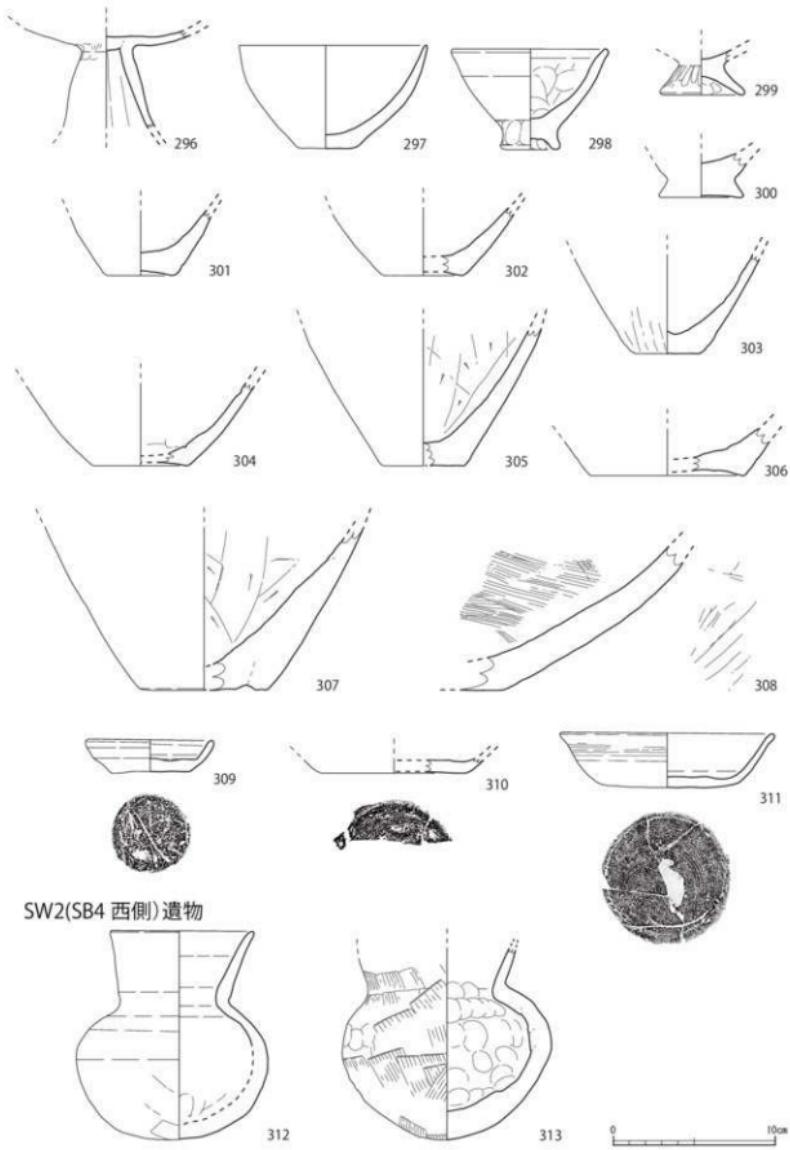
B-3・4区 SW3



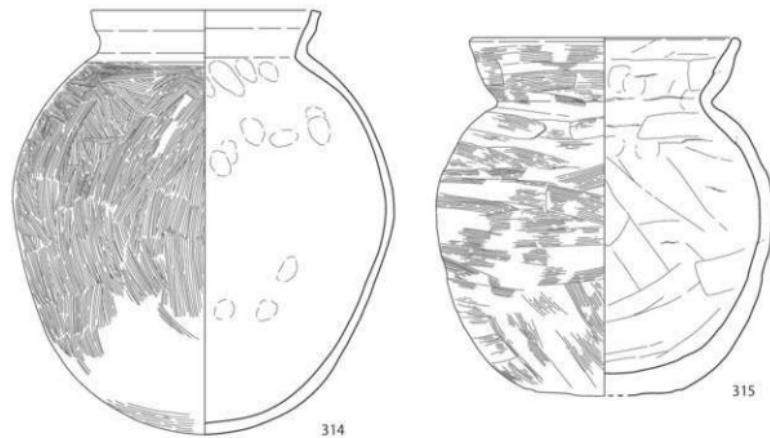
第59図 出土遺物実測図24 (1 : 3)



第60図 出土遺物実測図25 (1 : 3)

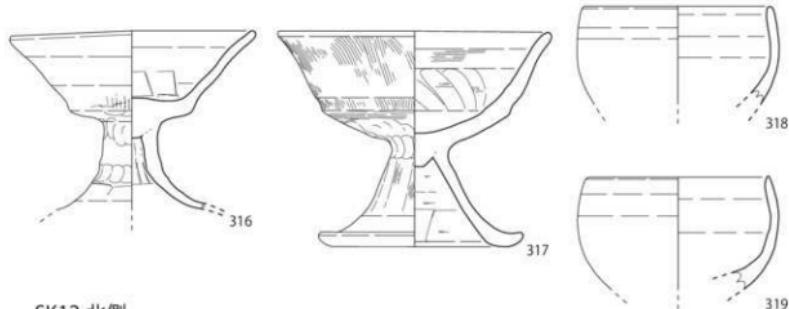


第61図 出土遺物実測図26 (1 : 3)



314

315



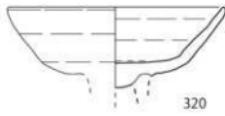
316

317

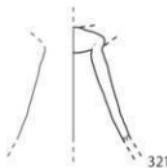
318

SK12 北側

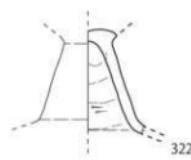
調査区内出土遺物



320



321



322



323



324



325



第62図 出土遺物実測図27 (1 : 3)

第1表 杵原6号遺跡出土遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器種	測量 (mm) 〔以下同様〕	出土 状況	被覆	色調	画 面	形 態	備 考
1	A区 581	土師質土器	瓶	口径：17 底径：17.7 高さ：17.4	表面：洗黄褐 内面：にじいろ	表面：黒褐色 内面：により不明 底面：黒褐色	表面：良 内面：良	外 内	瓶底 直筒瓶	中量
2	A区 581	土師質土器	瓶	口径：14 底径：14.4 高さ：17.2	表面：洗黄褐 内面：にじいろ	表面：黒褐色 内面：にじいろ	表面：良 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
3	A区 581b	煮沸器	煮小鍋	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：良 内面：良	外 内	平底鍋タケホ 内面：同上タケホ	中量
4	B-3区 582	土師器	煮	口径：16.1 底径：16.0 高さ：8.0	表面：洗黄褐 内面：洗黄褐	表面：ミヅナガ・別刷文2条・横刷文7条文後コナガ 内面：板コナガコナガ	表面：良 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
5	B-3区 582	土師器	直口壺	口径：(9.2) 底径：—	表面：洗黄褐 内面：洗黄褐	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
6	B-3区 582 トレンザ	土師器	小型壺	口径：(9.0) 底径：—	表面：黒褐色 内面：黒褐色	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ナチュラルヘラタツリ	外 内	直筒瓶	中量
7	B-3区 582	土師器	小型壺	口径：(7.0) 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：にじいろ	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
8	B-3区 582	土師器	煮	口径：(6.0) 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
9	B-3区 582	土師器	甕	口径：(4.4) 底径：—	表面：洗黄褐 内面：洗黄褐	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	表面：良 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
10	B-3区 582 P3	土師器	甕	口径：(3.0) 底径：—	表面：洗黄褐 内面：洗黄褐	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	表面：良 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
11	B-3区 582 P4 2号	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
12	B-3区 582	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
13	B-3区 582 トレンザ	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：黒褐色 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
14	B-3区 582	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
15	B-3区 582 トレンザ	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
16	B-3区 582	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
17	B-3区 582 トレンザ	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：黒褐色 内面：良	表面：シルバー・ナチュラル	直筒瓶	中量
18	B-3区 582	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：ナチュラル	外 内	直筒瓶	中量
19	B-3区 582 トレンザ	养生土器	壺	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
20	B-3区 582 トレンザ	养生土器	煮小鍋	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
21	B-3区 582	养生土器	煮	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ナチュラル 内面：洗黄褐	外 内	直筒瓶	中量
22	B-3区 582	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
23	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
24	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
25	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
26	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
27	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：良	外 内	直筒瓶	中量
28	B-3区 582 トレンザ	土師器	甕	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
29	B-3区 582 P3	土師器	高杯	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
30	B-3区 582	养生土器	湯舟	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
31	B-3区 582	养生土器	湯舟	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
32	B-3区 582	土師器	湯舟	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量
33	B-3区 582 トレンザ	土師器	熱湯器台	口径：— 底径：—	表面：— 内面：—	表面：良 内面：良	表面：ヨクナガ 内面：ヨクナガ	外 内	直筒瓶	中量

遺物番号	出土地点	種別	器種	出発 (cm) ()は復元寸法	地土	埋成	色調	測 定	備 考
34	B-30K-982	土師器	小型丸底盃	口径：(33.0) 高さ：復元7.1 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：黒灰 内面：黒	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	否填初回
35	B-30K-984 PT	漆生土器	甕	口径：(32.0) 高さ：復元7.0 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	
36	B-30K-984	漆生土器	瓶	口径：(32.0) 高さ：復元5.9 底径：(3.9)	表：良 内面：黒	外底：灰黄褐 内面：黒	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	
37	B-30K-984 PS	漆生土器	甕	口径：(32.0) 高さ：復元10.0 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：コロナリ・ハラ直塗灰による研磨穴一列目既成 内面：ナチュラル	内面：研磨既成	外底スリ行者、外生既成
38	B-30K-986	漆生土器	瓶	口径：(35.0) 高さ：復元6.7 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：灰黄褐 内面：灰黄褐	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル直塗灰	漆生未堆・古墳初期
39	B-30K-986	漆生土器	高杯	口径：(35.0) 高さ：復元4.8 底径：(11.8)	表：良 内面：黒	外底：明黄褐 内面：明黄褐	外底：斐庭A4型 内面：ナチュラル	内面：斐庭A4型 内面：ナチュラル	漆生既成層（古）
40	B-30K-987 B07面 4期	漆生土器	甕	口径：(35.0) 高さ：復元6.4 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	漆生E-L5a
41	B-30K-987	土師器	甕	口径：(35.0) 高さ：復元5.7 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：灰黄 内面：灰黄	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	
42	B-30K-987	土師器	甕	口径：(35.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：灰黄褐 内面：灰黄褐	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	
43	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元4.9 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル・ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	
44	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元4.7 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：灰黄 内面：灰黄	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル	内面：ナチュラル 内面：ナチュラル	小谷5a
45	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元3.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：灰黄 内面：灰黄	外底：ナチュラル・ハラ直塗 内面：コロナリ・ハラ直塗	外底スリ付者、大きさ小谷5a	
46	B-30K-987	土師器	高杯	口径：(34.0) 高さ：復元5.8 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	否填初回
47	B-30K-986+7 B07面 3期	漆生土器	高杯	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
48	B-30K-987	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	
49	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
50	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
51	B-30K-987	土師器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面ともに漆色彩绘
52	B-30K-987	漆生土器	高杯	口径：(34.0) 高さ：復元3.1 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
53	B-30K-987	漆生土器	高杯	口径：(34.0) 高さ：復元3.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
54	B-30K-987	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元3.3 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	
55	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元6.2 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	漆生早期後半
56	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.3 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	漆生E-L5a
57	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	漆生E-L5a
58	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	漆生E-L5a
59	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	漆生E-L5a
60	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	漆生E-L5a
61	B-40K-988 B-E-L 断面 8期	漆生土器	手短い高杯	口径：(34.0) 高さ：復元5.9 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	漆生E-L5
62	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	漆生E-L5
63	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.5 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：斐庭A4型 内面：斐庭A4型	漆生E-L5
64	B-40K-988	漆生土器	高杯	口径：(34.0) 高さ：復元12.8 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	外底スリ付者
65	B-40K-988	漆生土器	甕	口径：(34.0) 高さ：復元5.0 底径：(3.6)	表：良 内面：黒	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：ナチュラル 内面：斐庭A4型	内面：ナチュラル 内面：斐庭A4型	高状D. 高さ：332.0g. 梅生 E-L5
66	B-40K-988	石製品	石斧	-	-	-	外底：(3)・縁 内面：(3)	外底：(3)・縁 内面：(3)	

遺物番号	出土地点	種別	器種	直徑 (mm) ()は底面直徑	地土	埋成	色調	測定値	備考
47	B-4区 598	石製品	石斧	直径: 9.0 高さ: 6.9 厚さ: 1.7	—	—	外面: 茶条板	直径: 9.0、高さ: 6.9kg、厚生V-4.5	
48	B-4区 599 B-6.7 側面 2号	石製品	石斧	直径: 7.4 高さ: 6.9 厚さ: 1.6	—	—	—	直径: 7.4、高さ: 6.9kg、厚生V-4.5	
49	B-4区 599	石製品	石斧	直径: 3.6 高さ: 5.6 厚さ: 1.5	—	—	—	直径: 3.6、高さ: 5.6kg、厚生V-4.5	
50	B-4区 599	石製品	石斧	直径: 6.1 高さ: 6.3 厚さ: 1.8	—	—	外面: 茶条板	直径: 6.1、高さ: 6.3kg、厚生V-4.5	
51	B-4区 599	石製品	石斧	直径: 9.6 高さ: 5.1 厚さ: 2.7	—	—	外面: 茶条板	直径: 9.6、高さ: 5.1kg、厚生V-4.5 柱状瓦片若者の軽用品	
52	B-4区 599	石製品	石斧	直径: 9.6 高さ: 5.9 厚さ: 2.8	—	—	外面: 茶条板	直径: 9.6、高さ: 5.9kg、厚生V-4.5	
53	B-4区 599	石製品	磨打石	直径: 8.7 高さ: 5.0 厚さ: 3.0	—	—	—	—	研磨、重さ: 296.6kg、厚生V-4.5 耕製工具の軽用品
54	B-4区 599	石製品	研磨石	直径: 6.5 高さ: 3.3 厚さ: 1.9	—	—	—	—	軽量物であるいは耕運が 厚生V-4.5
55	B-4区 599	鉄製品	鐵鏟	直径: 9.5 高さ: 5.2 厚さ: 0.2	—	—	—	—	有茎鐵鏟、厚生V-4.5
56	A区 591	酒器類	杯	口径: 11.0 直径: 9.0 高さ: 6.0	茶	良	外面: 明治期 内面: 明治期 底面: 明治期	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶ナダ	
57	B-4区 599	酒器類	杯	口径: 10.0 直径: 8.0 高さ: 5.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶ナダ	
58	B-4区 599	酒器類	杯	口径: 7.8 直径: 7.0 高さ: 5.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶ナダ	
59	B-4区 599	土師質土器	杯	口径: 9.9 直径: 8.9 高さ: 6.0	茶	不良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶ナダ	平安文~鎌倉前半
60	B-4区 599	土師質土器	杯	口径: 10.0 直径: 9.0 高さ: 6.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 黄褐色	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 黄褐色	平安文~鎌倉前半
61	B-4区 599	瓦器	碗	口径: 8.0 直径: 7.0 高さ: 5.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	平安文~鎌倉前半
62	B-4区 599	土師質土器	杯	口径: 11.8 直径: 10.4 高さ: 9.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	平安文~鎌倉前半
63	B-4区 599	土師質土器	瓶	口径: 11.8 直径: 10.0 高さ: 9.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	平安文~鎌倉前半
64	B-4区 591 1号	土師質土器	瓶	口径: 10.0 直径: 8.0 高さ: 9.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	平安文~鎌倉前半
65	B-4区 591 1号	土師質土器	瓶	口径: 10.0 直径: 8.0 高さ: 9.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	平安文~鎌倉前半
66	B-4区 599	土師器	煮	口径: 12.0 直径: 11.0 高さ: 10.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
67	B-4区 599	土師器	瓶	口径: 12.0 直径: 11.0 高さ: 10.0	茶	不良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
68	B-4区 599	土師器	瓶	口径: 10.0 直径: 8.0 高さ: 9.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
69	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 11.0 高さ: 10.0	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
70	B-4区 599	土師器	甕	口径: 14.0 直径: 12.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
71	B-4区 599	土師器	甕	口径: 13.0 直径: 11.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
72	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
73	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
74	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
75	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
76	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
77	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
78	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
79	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
80	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
81	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
82	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
83	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
84	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
85	A区 591	土師質土器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
86	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
87	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
88	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
89	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
90	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
91	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
92	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
93	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
94	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
95	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
96	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
97	B-4区 599	土師器	甕	口径: 12.0 直径: 10.0 高さ: 9.5	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 茶	外面: 茶ナダ 内面: 茶ナダ 底面: 茶	古墳前半
98	B-4区 591 1号 ・縁 亂中盤	土師土器	甕	口径: 19.6 直径: 18.0 高さ: 12.0 底面: 乱	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 亂中盤	外面: ヨコナダ・縁 内面: ヨコナダ・縁 底面: 亂中盤	亂中盤前半
99	B-4区 591 1号 ・縁 亂中盤	土師土器	甕	口径: 19.6 直径: 18.0 高さ: 12.0 底面: 亂	茶	良	外面: 茶 内面: 茶 底面: 亂	外面: ヨコナダ・縁 内面: ヨコナダ・縁 底面: 亂	亂中盤前半

器物番号	出土地点	種別	器種	遺物名 (cm)	地質	地盤	色調	説明	備考
100	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 30.4 高さ 16.7 直径 -	白	表面：白 内面：白・青白	外底：青白・青灰 内面：青白	外底：青白・青灰・白灰 内面：青白	衛生土壺
101	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 29.6 高さ 14.8 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：灰黒	外底：青黄褐・白灰 内面：ナチュラル	衛生土壺
102	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.2 高さ 15.0 直径 -	白	表面：白 内面：青黄褐	外底：青黄褐 内面：青黄褐	外底：青黄褐・白灰工具による刺突文 (削取式) + ナチュラル + ロココガラ + ハタケヅリ	衛生土壺
103	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 30.9 高さ 17.5 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：白	外底：青黄褐コロカズラ (ぼかし模様)により不明 内面：ヨクナザ・ハタケヅリ	衛生土壺
104	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 15.1 直径 -	白	表面：白 内面：青黄褐	外底：青黄褐 内面：青黄褐	外底：青黄褐 + ハタケヅリ	衛生土壺
105	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 14.0 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：白	外底：青黄褐 内面：青白	外底：ヨクナザ 内面：青白
106	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 32.6 高さ 14.2 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：白	外底：青黄褐 内面：ヨクナザ・削取式	衛生土壺
107	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 12.7 直径 -	白	表面：白 内面：青黄褐	外底：青黄褐 内面：青黄褐	外底：ハタケ 内面：ハタケヅリ	衛生土壺
108	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 14.2 直径 -	白	表面：白 内面：青黄褐	外底：青黄褐 内面：白	外底：青黄褐 内面：ヨクナザ・ハタケヅリ	衛生土壺
109	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.1 高さ 16.5 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青白 内面：白	外底：ヨクナザ 内面：ナチュラル	衛生土壺
110	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 13.2 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：青黄褐	外底：ハタケ 内面：ナチュラル	衛生土壺
111	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 31.7 高さ 13.5 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：青黄褐	外底：青白 内面：ナチュラル	衛生土壺
112	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.6 高さ 17.1 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：青黄褐 内面：白	外底：ヨクナザ 内面：ナチュラル	衛生土壺
113	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.4 高さ 20.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：明赤 内面：白	外底：ナチュラル 内面：ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
114	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 34.8 高さ 19.1 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル + ハタケヅリ	安芸北山～石足地域、衛生土壺
115	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.2 高さ 20.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル + ナチュラル ナチュラル + ハタケヅリ	安芸北山～石足地域、衛生土壺
116	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 35.7 高さ 19.1 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル + ヨクナザ ナチュラル + ナチュラル	衛生土壺
117	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 35.0 高さ 20.3 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：明赤 内面：白	一括ヨクナザ・ぼかし模様により不明 ナチュラル	衛生土壺
118	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 35.5 高さ 19.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ + ハタケ ヨクナザ + ハタケヅリ	衛生土壺
119	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.2 高さ 20.2 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	外底：青白 内面：ナチュラル	衛生土壺
120	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.2 高さ 19.8 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ ヨクナザ + ハタケヅリ	衛生土壺
121	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 37.0 高さ 20.0 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ ヨクナザ + ナチュラル	衛生土壺
122	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.5 高さ 19.7 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	一括ヨクナザ ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
123	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 36.4 高さ 19.8 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ + 剥取式 ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
124	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 34.9 高さ 19.0 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	外底：青白 内面：ナチュラル	衛生土壺
125	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 37.6 高さ 19.4 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	一括ヨクナザ・ぼかし模様により不明 ナチュラル	衛生土壺
126	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.6 高さ 19.0 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	外底：青白 内面：ナチュラル + ハタケヅリ	外底一括スル材質
127	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.8 高さ 19.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
128	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 32.2 高さ 19.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
129	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 32.2 高さ 17.2 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル + 剥取式 ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
130	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.5 高さ 19.8 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ナチュラル ナチュラル + ハタケヅリ	衛生土壺
131	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.6 高さ 18.8 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ ヨクナザ + ハタケヅリ	衛生土壺
132	B-2区 (K) 上段片・縫 合部中段	衛生土器	壺	口径 33.1 高さ 18.6 直径 -	白	表面：白 内面：白	外底：白 内面：白	ヨクナザ ヨクナザ + ハタケヅリ	衛生土壺

遺物番号	出土地点	種別	器種	出典 (年) (-)は未公表	出土	組成	色調	測定	備考
133	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：25.8 底面：直存：4 口径：10.2 底面：直存：4 口径：13.6 底面：直存：3.9	直 直	直 直	外底：暗 内底：にい濃黒	外底：ナガナ・ラケル工員による研究文 内底：ナグ・初期白磁盤ナ・ハラケズリ	
134	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：16.0 底面：直存：4 口径：13.6 底面：直存：3.9	直 直	直 直	外底：にい濃黒 内底：にい濃黒	外底：ヨコナ・ハケメ・ナグ 内底：ヨナ・田畠江直後ヘラケズリ	
135	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：21.6 底面：直存：11.7 口径：16.0 底面：直存：13.1 口径：16.0 底面：直存：13.1 口径：17.9 底面：直存：17.45	直 直 直 直 直 直 直 直	直 直 直 直 直 直 直 直	外底：にい暗 内底：にい暗	外底：ナグ・ラケル工員による研究文 内底：ナグ・ハラケズリ・ヨコナ 外底：ヨコナ・ハラケズリ	
136	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：16.0 底面：直存：13.1 口径：17.9 底面：直存：17.45	直 直	直 直	外底：にい濃黒 内底：にい濃黒	外底：ヨコナ・ハケメ・ナグ 内底：ヨナ・ハケメ・ハラケズリ	
137	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：19.5 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：灰黒	外底：ナグ・ラケル工員による研究文 内底：ナグ・ハラケズリ	
138	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：16.8 底面：直存：19.5 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：回収文条・ハラカキ・初期白磁盤ナ 内底：ヨコナ・ハラケズリ・ナグ	参考3-3
139	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：暗	外底：一見ヨコナ・注小瓶底により不明 内底：ナグ	
140	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：暗	外底：ハケメ・木屋元 内底：ナグ	参考3
141	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃黒 内底：にい濃黒	外底：ハラカキ 内底：ハラケズリ	外底ス付番
142	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：螺面により不明 内底：ナグ	外底ス付番
143	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：灰黒	外底：ヨコナ・ラケル工員による研究文 内底：螺面	
144	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：17.9 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：にい暗	外底：螺面により不明 内底：螺面により不明	参考直視
145	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：5.7 口径：17.0 底面：直存：5.7	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：暗	外底：螺面により不明 内底：ナグ	
146	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.6 底面：直存：12.5 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：明治江直 内底：にい暗	外底：ナグ・初期白磁盤ナ 内底：板ナ・ハラケズリ・初期江直・ナグ	参考直視
147	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：11.5 口径：17.0 底面：直存：11.5	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：暗	外底：ヨコナ・初期文3条・ハナナ・初期江直 内底：ヨコナ・ハラケズリ・ナグ	参考V-10
148	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：13.0 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：にい暗	外底：ヨコナ・初期江直 内底：板ナ	参考V-25
149	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：20.4 底面：直存：13.0 口径：17.0 底面：直存：17.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：暗 内底：暗	外底：ヨコナ・初期文3条・ハラカキ・初期江直 内底：ヨコナ・ナグ・初期江直・ナグ	参考V-26
150	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	手挽わ土器	口径：17.9 底面：直存：7.7 口径：17.0 底面：直存：7.7	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：明治江直 内底：にい濃	外底：明治江直 内底：板ナ	参考直視
151	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	手挽わ土器	口径：17.9 底面：直存：4.8 口径：17.0 底面：直存：4.8	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：板ナ・初期江直 内底：板ナ	
152	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	手挽わ土器	口径：17.9 底面：直存：5.0 口径：17.0 底面：直存：5.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：灰黒	外底：初期江直 内底：初期江直・ナグ	参考直視
153	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：2.3 口径：17.0 底面：直存：2.3	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：灰黒	外底：螺面により不明 内底：板ナ	
154	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：4.1 口径：17.0 底面：直存：4.1	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：螺面により不明 内底：板ナ	
155	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：4.2 口径：17.0 底面：直存：4.2	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰 内底：灰	外底：ハラカキ 内底：ハラケズリ	
156	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：3.3 口径：17.0 底面：直存：3.3	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰黒 内底：にい濃	外底：ハラカキ・ナグ 内底：ハラケズリ	
157	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：3.0 口径：17.0 底面：直存：3.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰 内底：灰	外底：ナグ 内底：ナグ	
158	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：3.9 口径：17.0 底面：直存：3.9	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：黑 内底：灰白	外底：螺面により不明 内底：板ナ	参考直ス付番
159	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：2.8 口径：17.0 底面：直存：2.8	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：灰	外底：螺面により不明 内底：板ナ	
160	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：4.1 口径：17.0 底面：直存：4.1	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：ナグ 内底：板ナ	
161	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：6.8 口径：17.0 底面：直存：6.8	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：にい濃	外底：ナグ・初期白磁盤・ナグ 内底：ハラケズリ	
162	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：3.2 口径：17.0 底面：直存：3.2	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰 内底：灰	外底：ハラカキ 内底：ハラケズリ 底：板ナ	
163	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：5.4 口径：17.0 底面：直存：5.4	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：灰	外底：ナグ 内底：ハラケズリ	
164	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：4.1 口径：17.0 底面：直存：4.1	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：灰 内底：灰	外底：板ナ 内底：初期江直	
165	B-2区・SM2 土器片・繩 文中部	生土器	甕	口径：17.9 底面：直存：6.0 口径：17.0 底面：直存：6.0	直 直 直 直	直 直 直 直	外底：にい濃 内底：灰	外底：板ナ 内底：ハラケズリ	

遺物番号	出土地点	種別	器種	当量 (kg) () は推定量	出土	組成	色調	測 定	備 考
166	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.0	直	良	外面: にじい 内面: にじい(濃度)	外道: 淡オグ 内道: 淡オグ	
167	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	罐形	口径: 15.5 高さ: 7.0 底径: 6.0	直	良	外面: 稲 内面: にじい	外道: ハマ・後ナデ・指擦江底・ナデ 内道: 指擦江底ヘラケズリ	
168	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: にじい・濃度 内面: にじい	外道: 濃度により不明 内道: ハマ・ナデ	
169	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.0 底径: 6.0	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ハマ・オグ・ナデ・指擦江底 内道: ハマ・ナデ	
170	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: 黄褐 内面: 淡黄褐	外道: 淡オグ 内道: 指擦江底ヘラケズリ	
171	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.0	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: 濃度により不明 内道: 淡黄褐 内道: ハマ・ナデ	
172	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: にじい・濃度 内面: にじい	外道: ハマ・オグ・ナデ 内道: 濃度により不明	
173	B-3区 磐2 土器片	直筒	直筒	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: にじい 内面: にじい(濃度)	外道: ナダ・ハタケ 内道: ナダ・ハタケメヘラケズリ	吉備部～中環
174	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	生土器	土桶	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: 暗 内面: 淡	外道: ナダ	量さ: 31.7g、衛生反復手
175	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	石製品	石斧	口径: 3.7 高さ: 2.8 底径: 1.7	-	-	-	-	標準品、量さ: 32.7g、 石製品の目録入り、衛生反復手
176	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	石製品	敲打石	口径: 12.5 高さ: 10.5 底径: 3.4	-	-	-	-	相羽石、量さ: 30.1g、衛生反復手の石製品 衛生反復手
177	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	石製品	刮削器	口径: 6.7 高さ: 6.3 底径: 3.5	-	-	-	-	量さ: 20.6g、衛生・古墳
178	B-3区 磐2 土器片・繩 束中部	土師質土器	土桶	口径: 15.5 高さ: 7.5 底径: 6.5	直	良	外面: 黒 内面: 暗	外道: 指擦江底 内道: ナダ	ス×付着
179	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 21.8 高さ: 12.0 底径: 10.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: 順次工具による重ね条縫文後山田文現存2条 ・板ナデ・ハマ使用による調整 ・板ナデ・ナシ文字条後二枚目による斜突文2条 内道: ハマ・オグ	衛生Y-3
180	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 20.4 高さ: 11.5 底径: 10.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい	外道: 回転文2条・ヨコナデ・ハマ・オグ 内道: ナシ・オグ	吉備部色々初か
181	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 20.4 高さ: 11.5 底径: 10.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい	外道: 回転文2条・ヨコナデ 内道: ヨコナデ	
182	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 13.2 高さ: 8.0 底径: 6.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい	外道: ハマ状工具による斜突文・ハタケ 内道: 指擦江底ナデ	
183	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	土桶器	直筒	口径: 16.0 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ・ハタケ 内道: ヨコナデ	吉備部細
184	B-3区 磐2 トレンザ	直筒	直筒	口径: 13.1 高さ: 8.5 底径: 7.0	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ 内道: ヨコナデ・ハラケズリ	
185	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	土桶器	直筒	口径: 14.9 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ・ハタケ 内道: ヨコナデ・指擦江底	吉備部色々東部、古墳
186	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 14.5 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: 明黄色 内面: 暗	外道: 濃度により不明 内道: ハラケズ・・・・・・・・・・・・	
187	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 14.5 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: 淡黃 内面: 淡黃	外道: 指擦江底2条・ヨコナデ・サダ・ハタケ 内道: ナダ・指擦江底	
188	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 14.9 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: 暗 内面: 暗	外道: ヨコナデ・ナデ 内道: ヨコナデ・ハラケズリ	
189	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 15.5 高さ: 10.5 底径: 8.5	直	良	外面: 暗 内面: にじい(濃度)	外道: 指擦江底2条・・・・・・・・・・・・ 内道: ハマ・ナデ	衛生Y-1
190	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	生土器	直筒	口径: 22.0 高さ: 12.0 底径: 11.0	直	良	外面: 暗褐色 内面: 暗褐色	外道: 回転文2条・ハマ・ナシ・ナシによる斜突文 内道: ハタケ	衛生Y-1
191	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 18.0 高さ: 20.5 底径: 9.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: 回転文2条・ハマ・ナシ・ナシによる斜突文 内道: ハマ・ナシ・ナデ	口縁部にス付村者、衛生Y-3
192	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 18.0 高さ: 20.5 底径: 9.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: 回転文2条・・・・・・・・・・・・ 内道: ヨコナデ・ハタケ	
193	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	直筒	直筒	口径: 14.5 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ・ハタケ 内道: ヨコナデ	吉備部細
194	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	直筒	直筒	口径: 14.5 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ・ナシ 内道: ヨコナデ	衛生細か
195	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	直筒	直筒	口径: 15.5 高さ: 10.5 底径: 9.5	直	良	外面: 明黄色 内面: 明黄色	外道: ヨコナデ・指擦江底・ナデ 内道: ヨコナデ・指擦江底・ナデ	円盤式洗面器、吉備部
196	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	直筒	直筒	口径: 15.5 高さ: 10.5 底径: 9.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ヨコナデ・ナシ 内道: ヨコナデ	吉備部細
197	B-3区 磐2 トレンザ 直筒	直筒	直筒	口径: 15.5 高さ: 10.5 底径: 9.5	直	良	外面: にじい(濃度) 内面: にじい(濃度)	外道: ナダ・ハマ底端2条・透かし4ヶ所 内道: ハマ・オグ・指擦江底・シリメ	衛生Y-2
198	B-3区 磐2 横山田	生土器	直筒	口径: 14.5 高さ: 9.5 底径: 7.5	直	良	外面: 淡黃 内面: 淡黃	外道: ナダ 内道: ナダ	円盤式洗面

遺物番号	出土地点	種 別	器 種	目 役 (no. は後半地)	動土	搬成	色・調	測 定	備 考
199	B-3区 SW2 トレンザ 南側	寄生土器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	外底: ハクメ・輪打文書 内底: 指印捺文・ナゲ・シボリズ	寄生 S-2
200	B-3区 SW2 トレンザ 北側	寄生土器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	外底: 板ナゲ 内底: ハクメズリ	寄生 S-3
201	B-3区 SW2 トレンザ 北側	寄生土器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外底: 淡 内底: にじい-緋	外底: 褐色により不明 内底: ハクメズリ	
202	B-3区 SW2 トレンザ	土師器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外底: にじい-緋 内底: にじい-緋	外底: 板ナゲ・ナゲ 内底: シボリズ・板ナゲ	
203	B-3区 SW2 トレンザ 南側	土師器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: ハクメ・葉模ヨコ 内底: シボリズ・ハクメ	否遺S
204	B-3区 SW2 トレンザ 南側	土師器	高杯	口径: 7.6 底径: 5.7 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 11.3	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: ハクメ・葉模ヨコ 内底: シボリズ・ハクメ	
205	B-3区 SW2 トレンザ 北側	寄生土器	縦	口径: 11.0 底径: 7.5 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 10.4	直	良	外底: にじい-緋 内底: にじい-緋	外底: 褐色により不明・5条1・オコナゼ・ナゲ3 内底: ナコナゼ・ハクメズリ・テラル・ガサ	
206	B-3区 SW2 トレンザ 南側	寄生土器	縦	口径: 11.0 底径: 7.5 高さ: 4.4 直径: 11.6 底径: 10.4	直	良	外底: にじい-緋 内底: 淡	外底: ナコナゼ・ハクメズリ・板ナゲ 内底: ハクメズリ・板ナゲ	否面S付村
207	B-3区 SW2 5号 山面	寄生土器	縦	口径: 19.4 底径: 14.0 高さ: 6.7	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: にじい-濃緑	外底: 回転文3条・ハクメ工具による刷文・ナゲ 内底: ナゲ・ハクメズリ	否面体部に黒斑、外底にS付村。 寄生 S-2
208	B-3区 SW2 トレンザ 北側	寄生土器	縦	口径: 22.8 底径: 16.0 高さ: 4.5 直径: 25.0 底径: 20.0	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: にじい-濃緑	外底: 回転文3条・ハクメ工具による刷文・ナゲ 内底: ナゲ・ハクメズリ	
209	B-3区 SW2 トレンザ	土師器	縦	口径: 10.2 底径: 6.9 高さ: 4.4 直径: 12.0 底径: 8.0	直	良	外底: にじい-緋 内底: にじい-濃緑	外底: 褐色底正刷ナゼ・ナゲナゼ 内底: 褐色底正刷ナゼ	否前頭～中頭S
210	B-3区 SW2 トレンザ 南側	寄生土器	底盤	口径: 7.6 底径: 7.5 高さ: 6.9	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: 淡	外底: ハクメ・葉模 内底: ハクメズリ	
211	B-3区 SW2 トレンザ	寄生土器	底盤	口径: 9.4 底径: 7.5 高さ: 6.7	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: 淡	外底: ナゲ 内底: 褐色により不明	
212	B-3区 SW2 トレンザ 北側	寄生土器	底盤	口径: 11.0 底径: 8.6 高さ: 6.5 直径: 12.0 底径: 9.5	直	良	外底: にじい-緋 内底: 黒	外底: 板ナゲ 内底: ハクメ	
213	B-3区 SW2 トレンザ 北側	土師器	縦	口径: 12.0 底径: 9.6 高さ: 6.5 直径: 13.0 底径: 10.5	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: にじい-濃緑	外底: 褐色底正刷ハケメ 内底: 1字手・5字腰に上じる不規	円筒水流池、古跡前頭骨
214	B-3区 SW2 5号 山面	石製品	砾石	最大長: 4.8 最大幅: 3.2 厚さ: 1.9	一	一	一	一	浜状岩、重さ: 180.1g、寄生 S-2
215	B-3区 SW3 寄生土器	煮	煮	口径: 12.9 底径: 8.5 高さ: 6.5 直径: 14.0 底径: 9.5	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: 淡	外底: 回転文2条・ナゲ・ハクメ・輪打文書 内底: ハクメによる各種文字 内底: ロコナゼ・ナゲ	
216	B-3区 SW3 寄生土器	煮	煮	口径: 16.2 底径: 11.8 高さ: 6.5 直径: 18.0 底径: 13.0	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: 褐色文2条・回転文2条・輪打正刷 内底: 1字手・注し縛文により不明	
217	B-3区 SW3 寄生土器	煮	煮	口径: 17.5 底径: 12.0 高さ: 10.0 直径: 19.0 底径: 14.5	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: 淡	外底: 回転文2条・ハクメ・堅打文書 内底: 褐色により不明	寄生 S-1a
218	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 16.2 底径: 11.8 高さ: 10.0 直径: 18.0 底径: 13.0	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: 淡	外底: ナゲ・回転文2条・ハクメ後ハクメ・ガタ 内底: ナゲ・ロコナゼ・ナゲ・ガタ	寄生 S-3
219	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 25.0 底径: 18.0 高さ: 7.7 直径: 27.0 底径: 21.0	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: 回転文2条・堅打文2条・ナゲナゼ・ハクメ 内底: ロコナゼ・注し縛文により不明	
220	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 20.0 底径: 15.0 高さ: 22.8 直径: 22.0 底径: 17.0	直	良	外底: にじい-緋 内底: 淡	外底: 回転文2条・堅打文2条・輪打正刷ハクメ工具に よる各種文字・ハクメ・ナゲ・寄生 S-1 所 内底: ロコナゼ・シボリズ・輪打正刷・ハクメズリ	寄生 S-3
221	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 12.6 底径: 9.9 高さ: 6.5 直径: 14.0 底径: 10.5	直	良	外底: 淡	外底: 褐色底正刷 内底: 淡	外底: 褐色底正刷 内底: 褐色により不明
222	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 15.9 底径: 12.4 高さ: 7.4 直径: 17.0 底径: 13.5	直	良	外底: 淡 内底: にじい-濃緑	外底: 回転文2条・ロコナゼ 内底: ロコナゼ・ハクメズリ	
223	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 26.6 底径: 20.0 高さ: 7.0 直径: 28.0 底径: 22.0	直	良	外底: 明打底 内底: 淡	外底: 回転文2条・明打正刷 内底: 淡	外底: 明打底 内底: 褐色により不明
224	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 21.6 底径: 16.0 高さ: 7.7 直径: 23.0 底径: 17.5	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: ナゲ・回転文2条・度打文2条・輪打正刷 内底: ナゲ・ロコナゼ・ハクメ・ナゲ 内底: ナゲ・輪打正刷・ラミナギ・ナゲ・ガタ	寄生 S-2
225	B-3区 SW3 2号	寄生土器	煮	口径: 16.8 底径: 12.0 高さ: 7.4 直径: 18.0 底径: 13.5	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: ナゲ・回転文2条・ヘタ・ガタ 内底: ナゲ・ハクメズリ	寄生 S-6
226	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 12.0 底径: 8.0 高さ: 7.7 直径: 13.0 底径: 9.5	直	良	外底: 淡 内底: にじい-緋	外底: 褐色により不明 内底: ハクメズリ	寄生 S-5a
227	B-3区 SW3 3号	寄生土器	煮	口径: 12.0 底径: 8.0 高さ: 7.7 直径: 13.0 底径: 9.5	直	良	外底: 淡 内底: 淡	外底: コナガ 内底: コナガ・輪打正刷・ハクメズリ	
228	B-3区 SW3 2号	寄生土器	煮	口径: 16.0 底径: 11.0 高さ: 7.7 直径: 17.0 底径: 12.5	直	良	外底: にじい-緋 内底: にじい-濃緑	外底: コナガ 内底: にじい-濃緑	外底S付村
229	B-3区 SW3 3号	土師器	煮	口径: 12.0 底径: 8.0 高さ: 7.7 直径: 13.0 底径: 9.5	直	良	外底: 淡 内底: にじい-緋	外底: 褐色文2条・7条1・輪打文書 内底: ナゲ・ハクメ	否前頭
230	B-3区 SW3 1・2号	土師器	煮	口径: 20.4 底径: 16.6 高さ: 6.6 直径: 22.0 底径: 18.0	直	良	外底: にじい-濃緑 内底: にじい-濃緑	外底: ナゲ・輪打正刷・ハクメ 内底: ナゲ・コナガ	防長土器、古墳中頸
231	B-3区 SW3 2号	寄生土器	煮	口径: 16.8 底径: 12.0 高さ: 7.7 直径: 18.0 底径: 13.5	直	良	外底: 淡 内底: にじい-緋	外底: ハクメ・葉模ヨコ 内底: ハクメ	否面S付村あり

遺物番号	出土地点	種別	器種	当面 (anterior は前後感)	動土	掘成	色調	測 定	備 考
232	B-2K-303 2層	衛生土器	壺	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：灰白 内面：灰白	当面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	衛生T-6か
233	B-2K-303 3層	衛生土器	壺	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：灰白 内面：灰白	当面：壁面により不明 内面：—	衛生T-古墳初期
234	B-2K-303 3層	衛生土器	壺	口幅：(38.0) 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	やや 横	不直	当面：灰白 内面：灰白	当面：— 内面：—	—
235	B-2K-303 3層	衛生土器	壺	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：— 内面：—	—
236	B-2K-303 4層	衛生土器	壺	口幅：11.6 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：灰白 内面：灰白	当面：壁面により不明 内面：頭部正直・板ナダ	—
237	B-2K-303 3層	衛生土器	杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直・ココナツ・ヘラミガキ 内面：ココナツ・ヘラミガキ	—
238	B-2K-303 1・2層	衛生土器	杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直により不明 内面：板ナダ	衛生スリ付衛生T-3か
239	B-2K-303 3層	衛生土器	壺	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：— 内面：—	—
240	B-2K-303 2層	衛生土器	杯	口幅：42.4 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：灰白 内面：灰白	当面：ヘタミ・頭部正直 内面：板ナダ・ほし櫻洞により不明	—
241	B-2K-303 4層	衛生土器	壺	口幅：18.4 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：— 内面：—	衛生T-6か
242	B-2K-303 4層	衛生土器	壺	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ナダ・ヨコナツ・ハタメ 内面：ナダ	衛生T-6
243	B-2K-303 3層	衛生土器	壺	口幅：22.9 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直・ヨコナツ・ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	—
244	B-2K-303 1・2層	衛生土器	杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：灰白 内面：灰白	当面：壁面により不明 内面：頭部正直・ナダ・シリナリ	—
245	B-2K-303 1・2層	土解器	高杯	口幅：25.2 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ヘタミ・ヨコナツ 内面：ヨコナツ・ヘラミガキ	古墳初期
246	B-2K-303 1・2層	土解器	高杯	口幅：25.2 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ナダ 内面：ナダ・ヘタミ	円盤法測定、古墳初期
247	B-2K-303 3層	土解器	高杯	口幅：11.6 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ヘタミ・ヘラミガキ・穿孔複数小所 内面：シリナリ・ナダ	古墳～中期
248	B-2K-303 2層	土解器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ヨコナツ 内面：ナダ・ヘタミ	古墳
249	B-2K-303 1・2層	土解器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：—	古墳
250	B-2K-303 1・2層	土解器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直・ほし櫻洞により不明 内面：シリナリ・頭部正直・ヨコナツ	古墳
251	B-2K-303 2層	土解器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：シリナリ・ホシ櫻洞により不明	円盤法測定、古墳
252	B-2K-302 1・2層	衛生土器	杯	口幅：32.0 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：— 内面：—	—
253	B-2K-303 3層	衛生土器	杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直により不明 内面：—	衛生T-6か
254	B-2K-303 2層	衛生土器	杯	口幅：34.2 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：ヘラミ	衛生T-3
255	B-2K-303 2層	衛生土器	杯	口幅：40.4 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：頭部正直により不明 内面：ヨコナツ	—
256	B-2K-303 3層	衛生土器	杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ヘタミ・ヨコナツ 内面：ヘタミ	底部スリ付
257	B-2K-303 2層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：ヘタミ	—
258	B-2K-303 3層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：—	—
259	B-2K-303 2層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：—	—
260	B-2K-303 2層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：板ナダ・頭部正直・ナダ 内面：ヨコナツ	—
261	B-2K-303 2層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：板ナダ 内面：板ナダ	—
262	B-2K-303 3層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：ヘラミガキ・頭部正直・ナダ 内面：ヘタミ	—
263	B-2K-303 3層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：板ナダ	—
264	B-2K-303 1・2層	衛生土器	高杯	口幅：— 肩幅：— 底径：— 高さ：— 内寸：— 外寸：—	直	直	当面：— 内面：—	当面：壁面により不明 内面：ヘラミ	—

地名	出上地点	種別	種類	計量 (cm) ()は背丈)	軸	被	測 定		備 考
							根	茎	
265	B-2区 (90) 2号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.4 根幅: 約0.3	直	外面: 横 内面: 不直	外面: 横 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ナナカ	
266	B-2区 (90) 4号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.6 根幅: 約0.5 根幅: 6.6	直	外面	に長い葉 内面: に長い葉根	外面: ハニミガサ 内面: 軸ナデ	
267	B-2区 (90) 4号	衛生土苔	赤・黒	口径1. 高さ: 約2.5 根幅: 7.3	直	外	外面: 地面 内面: に長い葉	外面: ナナカは土壤層により不明 内面: 軸ナデ	赤面スズ付着
268	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.9 根幅: 8.5	直	外	外面: 深紅色 内面: 深紅	外面: ハニミガサ・ナダ 内面: ハニケツイ・ナダ	
269	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.9 根幅: 8.5	直	外	外面: に長い葉 内面: に長い葉根	外面: ハニミガサ・頭部紅色・ナダ 内面: ハニケツイ・ナダ	
270	B-2区 (90) 2号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 6.6	直	外	外面: に長い葉 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: 腹部紅色は土壤層により不明	
271	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.9 根幅: 10.0	直	外	外面: 深紅 内面: 横	外面: ハニミガサ・軸ナデ 内面: 軸ナデ	
272	B-2区 (90) 2号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 12.0	直	外	外面: 横 内面: 横	外面: 頭部以上不明 内面: 草葉に上部不明	
273	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1.5 高さ: 約2.6 根幅: 12.0	直	外	外面: に長い葉根 内面: 深紅	外面: ハニミガサ・頭部紅色・ナダ 内面: 軸ナデ	
274	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 6.6	直	外	外面: に長い葉 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニミガサ・頭部紅色	衛生端
275	B-2区 (90) 2号	衛生土苔	黒・底紅	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 14.5	直	外	外面: 深紅 内面: 白	外面: 頭部紅色・軸は土壤層により不明 内面: 軸ナデ 底: 黄土・2.4cm	衛生端
276	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 8.5	直	外	外面: 深紅 内面: 深紅	外面: 軸ナデ 内面: ハニケツイ	赤面スズ付着
277	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: 6.6	直	外	外面: 深紅 内面: 白	外面: ハニミガサ・ナダ・頭部紅色 内面: ハニケツイ	赤面スズ付着
278	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	黒面	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: に長い葉根	外面: ハニミガサ・草乳孔有2.0cm 内面: 頭部紅色	衛生端
279	B-2区 (90) 3号	衛生土苔	土上	1.2.0. 2.1. 1.5.	直	外	外面: 黑葉	外面: 頭部紅色・ナダ	高さ: 0.7m、赤面強端子
280	B-2区 (90) 1号	鳩巣苔	黒	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 横 内面: 明暗帶	外面: 鳩子目タキ 内面: 鳩子目タキ	
281	B-2区 (90) 1号	瓦苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 白 内面: 白	外面: コナナデ 内面: コナナデ	
282	B-2区 (90) トレンチ 側面	衛生土苔	赤	口径1.6. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: に長い葉根	外面: 頭部紅色4条有於手条有報文 内面: 頭部紅色	
283	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 横 内面: 横	外面: 頭部紅色・は土壤層により不明 内面: 頭部以上不明	
284	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: に長い葉根	外面: ハニミガサ・コナナデ・ツバヒトノ具による剥脱文 内面: ナナカ・頭部紅色・ハニケツイ	
285	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉 内面: 横	外面: 頭部文書4条ナダ・ハニミ 内面: ハニケツイ・は土壤層により不明	
286	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1.4. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外	外面: 頭部文書4条・リットル工具による剥脱文 内面: 草葉に上部不明	
287	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	小外 内面	外面: 横 内面: 横	外面: ナダ・頭部文書4条ナダ 内面: ナナカ	
288	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: 横	外面: ナナカ・リットル工具による剥脱文 内面: ナナカ	
289	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	衛生土苔	赤	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 白 内面: 白	外面: 頭部文書4条・は土壤層により不明 内面: 頭部以上不明	
290	B-2区 (90) トレンチ・ナ ド	土附苔	黒	口径1.6. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニケツイ	舌状細胞
291	B-2区 (90) トレンチ 側面	土附苔	赤	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: に長い葉根	外面: ハニミ・は土壤層により不明 内面: 頭部以上不明	
292	B-2区 (90) トレンチ 側面	衛生土苔	黒	口径1. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 横 内面: 深紅	外面: ハニミ・は土壤層により不明 内面: 頭部以上不明	
293	B-2区 (90) トレンチ 側面	衛生土苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: 深紅	外面: 頭部以上不明 内面: 頭部以上不明	赤面スズ付着
294	B-2区 (90)	衛生土苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉根 内面: に長い葉根	外面: ハニミ・コナナデ・ツバヒトノ具による剥脱文 内面: ナナカ・リットル工具による剥脱文	
295	B-2区 (90) トレンチ 側面	衛生土苔	黒	口径1.7. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉 内面: に長い葉根	外面: ナナカ・リットル工具による剥脱文 内面: ナナカ	
296	B-2区 (90) トレンチ 側面	衛生土苔	黒	口径1.7. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: に長い葉 内面: に長い葉根	外面: ナナカ・リットル工具による剥脱文 内面: ナナカ	
297	B-2区 (90) トレンチ 側面	土附苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニケツイ	糞便流落
298	B-2区 (90) トレンチ 側面	土附苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニケツイ	
299	B-2区 (90) トレンチ 側面	土附苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニケツイ	
300	B-2区 (90) トレンチ 側面	土附苔	黒	口径1.5. 高さ: 約2.6 根幅: -	直	外	外面: 深紅 内面: に長い葉根	外面: 頭部以上不明 内面: ハニケツイ	

遺物番号	出土地点	種別	器種	出典 (年)	地質	動土	掘成	色調	測定	備考
296	B-3区・393 トレンチ 北側	土師器か 北側	縁	口径: 8.2 高さ: 6.2 底径: 5.5	直	良	外底: 沈黒 内面: 黒	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	測定江戸 内面: ナチュラル 内面: ナチュラル	古墳初期
299	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器か 北側	手取わ土器 縁付	口径: 10.0 底径: 5.8	直	良	外底: 明褐色 内面: 黑	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	測定江戸 内面: ナチュラル	古墳か
300	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 2.7	直	良	外底: 明褐色 内面: 黑	外底: 暗褐色に上り不明 内面: 暗褐色に上り不明	内面エス付査	
301	B-3区・393 トレンチ 南側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 3.6	直	良	外底: 暗褐色 内面: 深青褐色	外底: 暗褐色に上り不明 内面: 暗褐色に上り不明		
302	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 4.15	直	良	外底: 暗褐色 内面: 深青褐色	外底: 暗褐色に上り不明 内面: 暗褐色に上り不明		
303	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 6.1	中空 直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ハラミガキ 内面: 暗褐色		内面エス付査
304	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 5.4	中空 直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ナチュラル 内面: ベーカイズ		外面エス付査
305	B-3区・393 トレンチ 南側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 6.15	直	良	外底: 暗褐色 内面: 深青褐色	外底: 暗褐色に上り不明 内面: ハラミガキ		
306	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 6.9	中空 直	良	外底: 暗褐色 内面: 深青褐色	外底: 暗褐色に上り不明 内面: 暗褐色に上り不明		
307	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 10.0	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: 暗褐色に上り不明 内面: 暗褐色		
308	B-3区・393 トレンチ 北側	衛生土器	底盤	口径: 10.0 底径: 9.8	中空 直	良	外底: 暗褐色 内面: 深青褐色	外底: ハラミガキ 内面: ハラミガキ		追加エス付査
309	B-3区・393 393出	土師質土器	小瓶	口径: 7.3 底径: 2.1 高さ: 5.0	直	良	外底: 一二二 内面: 深青褐色	外底: ナチュラル 内面: 四角ナチュラル 追加: 四角ナチュラル	平安家~健御前	
310	B-3区・393 393出	土師質土器	杯	口径: 7.0 底径: 5.0	直	良	外底: 暗褐色 内面: 一二二	外底: ナチュラル 内面: 四角ナチュラル	平安家~健御前	
311	B-3区・393 393出	土師質土器	杯	口径: 12.6 底径: 2.5	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	平安家~健御前	
312	B-3区・392 392出	土師器	底盤	口径: 8.9 底径: 13.0	直	良	外底: 沈黒 内面: 沈黒	外底: ハラミガキ 内面: ハラミガキ	内面二次焼成、古墳中期	
313	B-3区・392 392出	土師器	底盤	口径: 11.8 底径: 6.6	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: 沈黒 内面: ナチュラル	古墳中期	
314	B-3区・392 392出	土師器	甕	口径: 13.4 底径: 22.1	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	外面口縁部~体部にかけてエス付査、 古墳中期	
315	B-3区・392 392出	土師器	甕	口径: 16.2 底径: 22.6	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ハラミガキ 内面: ナチュラル 追加: ハラミガキ	古墳中期	
316	B-3区・392 392出	土師器か 392出	高杯	口径: 13.3 底径: 11.0	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ロコナガ 内面: ロコナガ	円盤式流法、外底赤色黒彩記、 古墳中期	
317	B-3区・392 392出	土師器	高杯	口径: 16.7 底径: 12.5	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ハラミ 内面: ロコナガ	円盤式流法、外底赤色黒彩記、 古墳中期	
318	B-3区・392 392出	土師器	縁	口径: 11.4 底径: 6.0	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ロコナガ 内面: ロコナガ	古墳中期	
319	B-3区・392 392出	土師器	縁	口径: 13.3 底径: 6.0	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ロコナガ 内面: ロコナガ	古墳中期	
320	B-3区・392 392出	土師器	高杯	口径: 14.2 底径: 6.7	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ロコナガ 内面: ロコナガ	円盤式流法、古墳前~中期	
321	B-3区 392・393 393出	衛生土器か 393出	高杯	口径: 15.5 底径: 12.1	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	円盤式流法	
322	B-3区 392・393 393出	土師器か 393出	高杯	口径: 15.5 底径: 12.1	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	古墳	
323	B-3区 392・393 393出	土師器か 393出	高杯	口径: 15.5 底径: 12.1	直	良	外底: 暗褐色 内面: 暗褐色	外底: 暗褐色 内面: ナチュラル	古墳	
324	B-3区 392・393 393出	土師器	甕	口径: 13.9 底径: 6.9	直	良	外底: 一二二 内面: 一二二	外底: ロコナガ 内面: ロコナガ	古代	
325	B-3区 392・393 393出	土師器	縁	口径: 13.3 底径: 6.1	直	良	外底: 暗褐色 内面: 明褐色	外底: ナチュラル 内面: ナチュラル	古代	

V まとめ

以下では、前述までの発掘調査の成果から、現時点で明らかとなった知見を整理してまとめとしたい。

1. 住居跡について

SB1は削平を受けており、柱穴も1個しか検出されなかったため、住居跡か否かも含めて性格が明らかでない。遺物も土師器や須恵器、土師質土器が混在して出土しているため時期は明らかでないが、おおまかに古代以降ではないかとみられる。

SB2は出土遺物に少量の弥生土器を含むが大半は古墳時代初頭の土師器であり、かつ須恵器を伴わないことから、この時期の住居跡とみられる。東に隣接するSX9から出土した土師器甕（89）は時期的にみてSB2との関連性もうかがえる。

SB3は柱穴から遺物が出土せず、時期は不明であるが、柱穴の規模や間隔から中世以降の建物跡とみられる。

SB4は弥生時代後期の壺が出土しており、この時期の住居跡とみられる。

SB5は土師器片が出土しているが、図示できる遺物はなかった。しかし須恵器は出土しておらず、おおまかに古墳時代前期の住居跡とみられる。

SB6は弥生時代終末期の器台が出土しており、この時期の住居跡とみられる。

SB7からも弥生時代後期の壺や古墳時代初頭の甕、高杯が出土しており、この時期の住居跡とみられるが、SB6より後出すると考えられる。

SB8は弥生時代後期後半の壺、甕が出土しており、この時期の住居跡とみられる。この住居跡からは6点の砥石と敲打石、鉄斧、鉄鎌が出土しているが、砥石の数は1棟の住居跡からの出土量としては多いとみられ、鉄製品の加工等を行う工房的な性格があった可能性がある。

2. 溝状遺構について

A区で検出されたSD1～18はSW1西側の微丘陵の等高線に沿って掘り込まれており、時期・性格に共通性がうかがえる。ただ曲線を描くSD1・2は時期や性格が異なる可能性がある。

一方、B-3区で検出されたSD20～30は尾根の傾斜に対して直交しており、ひとつの一群として捉えられ、時期・性格に共通性がうかがえよう。

B-4区で検出されたSD31～34は尾根にやや斜行しており、これも一群として捉えられよう。

溝状遺構は極めて浅く、遺物が出土したものも少ない。SD1・9・28などでは古代の須恵器杯身や古代末から中世初頭の土師質土器皿までが混在して出土していることから、その時期については一応、古代以降としておきたいが、性格については明らかにし難い。

なお、B-2区で検出されたSD19も弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器皿まで出土しており、遺構の時期の特定が難しいが、古い時期の遺物は小片で流れ込みの様相を呈していることから、土師質土器皿（82）の時期である平安時代末から鎌倉時代前半の可能性が高い。

3. 土坑について

遺物が出土した遺構は少なく、SK6から弥生土器底部、SK12から古墳時代の土師器壺口縁が出土しており、この時期の遺構の可能性があるが、詳細な時期は不明である。他の土坑は時期が不明である。また性格については明らかになるものは存在しない。

4. 自然流路について

検出された3条の自然流路は調査区外北側の一段高い丘陵部から流れ下ってきているが、調査区内で検出された弥生時代後期後半の住居跡であるSB8や古墳時代初頭の住居跡SB2は、住居プランの一部が自然流路堆積土を掘りこんでいることから、弥生時代後期から古墳時代初頭にはこれらの自然流路は幅が狭くなり、埋没が進んでいたと考えられる。

B-2区SW2の土器片・礫集中部の周辺では狭い調査範囲であるが住居跡などは検出されなかつことから、この集中部は流路の上流から流れ下ってきたものと考えられる。上流には弥生時代の包含地である正原2号遺跡が立地しており、ここに存在する集落から弥生時代後期後半の一時期にまとめて廃棄された土器や礫が堆積してこの集中部は形成されたとみられる。また集中部からは古墳時代の土師器は出土しておらず、時期が限定される一括資料といえよう。一方で、B-3・4区SW2で出土した遺物は付近にSB2やSB8が立地していることから、これらの住居跡から廃棄されたものも含まれている可能性がある。

自然流路はその性格上、遺物の混在が著しくB-3・4区などの流路下流ほど弥生土器と土師器が同一層から出土する状況を呈していた。加えて廃棄された土器は弥生時代後期から古墳時代初頭への移行期のものが多く、弥生土器か土師器なのか判別が困難なもののが多数あった。

いずれにせよ、遺物量や出土状況から考えてこれらの自然流路は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭に、付近に立地する集落の生活残滓の廃棄場所として利用されていたことがうかがえよう。

5. 出土遺物について

本書で使用する土器の編年は弥生土器、土師器とともに妹尾周三氏が示した編年⁽¹⁾を基準とし、時代区分と編年は表2のとおりである。

土器から見た当地域における弥生時代は庄内式土器の古式が併存する時期までであり、庄内式土器の新式から布留式土器以降が古墳時代と考えられる。

・弥生土器

出土した弥生土器の時期の中心はおおまかに弥生時代後期であり、詳細にみると後期後半、(V-3～5様式)が中心で、壺、甕、高杯、鉢など一通りの器種が揃っている。器種については北東へ約450m～1km離れた淨福寺1・2号遺跡や天神遺跡から出土した土器群とほぼ同じ内容である。

・土錐・土玉

174の土錐とみられる球形の土器は東広島市内では初めての出土例となる。交差して巡らされている十字の浅い溝に紐を掛けることが可能で、投網の錐、あるいは投擲具の錐と考えたい。本例とは形状は異なるが、北西へ約800m離れた新住区西8地点SB7からはラグビーボール状のものが出土している⁽²⁾。

遺跡付近の杵原川は現在、護岸整備されて川幅も狭く直線的な流路となっているが、弥生時代後

本書での時代区分	妹尾編年	山陰	畿内
弥生時代 後期前半	V-1古 V-1新 V-2		V-1 V-2 V-3
弥生時代 後期後半	V-3~5	的場 鍵尾I	V-4 V-5
弥生時代 終末期		大木	庄内 古式
古墳時代 初頭	I・II	小谷I	庄内 新式
古墳時代 前期	I~IV	小谷II ~IV	布留

第2表 弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年

期には平野部を蛇行して流れていたとみられ、遺跡の眼前は淡水魚や水鳥の生息地である氾濫原が広がる光景であったと考えられる。出土した土錘はこれらを捕獲するために用いられた可能性を想定したい。当時の農業生産以外の生業を考える上で重要な資料となる。

279の土玉については直径2cm、重量も6.7gしかなく、錘としての機能は考えにくい。祭祀的な遺物の可能性もあるが、性格は不明である。

・土師器

出土した土器の時期の中心は古墳時代初頭から前期前半、そして中期となる⁽³⁾。数量は弥生土器に比べると少ないが、住居跡や自然流路から出土した古墳時代初頭から前期前半のものは器種が壺、甕、高杯、鉢などである。これは南西約5kmの西条盆地中央部の青谷1号遺跡⁽⁴⁾から出土した土器類と類似する時期と内容である。

またSW2(SB4西側)の一括土器群(312~319)は中期に位置づけられ、同じく西条盆地内の助平3号遺跡⁽⁵⁾から出土した土器とほぼ同じ時期と様相である。

この土器群は小型直口壺、高杯、鉢がそれぞれ黒色や赤色あるいは白色の精良な土を用いて製作されており、赤色塗彩や二次被熱もみられることから、浅い土坑等に埋置されていた可能性も考慮すると、何らかの祭祀に用いられたものといえよう。

・土師質土器

杯・小皿は全て12世紀後半から13世紀代で、平安時代末から鎌倉時代前期に位置付けられる。本遺跡の北側約80mに位置する正原薬師堂内には市重要文化財に指定されている線刻十一面觀音鏡像が安置されており、この鏡像の製作年代⁽⁶⁾は出土した土師質土器にやや先行するがほぼ同時期である。

正原薬師堂は『芸藩通志』に“廃常楽寺”⁽⁷⁾とあり「小堂を存す」と記述されているのみで、詳細な来歴は不明である。鏡像は寺社で懸垂して用いるもので、移動も容易であることから、本品も他所から移動して、薬師堂に安置された可能性もあるが、廃常楽寺の創建を鏡像の製作年代まで遡った場合、出土した土師質土器杯・皿類との関連性も想定されよう。

6. 結語

これまで高屋地域での弥生時代後期の集落跡の立地は、標高240~250mの丘陵頂部に立地する浄福寺1・2号遺跡や天神遺跡⁽⁸⁾などのように丘陵頂部とその周辺部に営まれるものと認識されていた。しかし今回、杵原6号遺跡のように標高約215m前後、平野部との比高差が約10m余りの丘陵先端部にもこの時期の集落跡が営まれていることが判明した。

集落跡は、自然流路B-2区SW2土器片・礎集中部の出土状況からみて、すぐ北側に位置する正原2号遺跡にまで広がっていることが想定されるが、この遺跡が立地する地形を考慮しても標高約220

～230mより低い位置から集落は展開しているとみられ、明らかに前述の3遺跡とは異なる立地を示している。

淨福寺1・2号遺跡や天神遺跡は後期前半から中頃が集落としての盛行期であり、遺物から見た杵原6号遺跡の中心時期である後期後半には3遺跡の集落規模は縮小している。これは弥生時代後期後半から終末期には、集落の立地が丘陵頂部から先端部に移行しつつあることを示すものと考えたい。そして古墳時代前期になると南西約100mに立地する杵原1号遺跡のような杵原川沿いの平野部にまで集落が営まれるようになる。

以上のように、杵原6号遺跡は本地域における弥生時代から古墳時代の集落立地の変遷を考える上で、両時代の過渡期を示す好例を提供したといえよう。

また、古墳時代には山陰系の二重口縁壺（9、45）や鼓形器台（33）が見られるようになり、前述の青谷1号遺跡と類似する様相を示している。これは古墳時代に入ると、遠隔の他地域との交流が、西条盆地の北東側に位置する高屋地域でも開始されていたことを示すものといえよう。

註・参考文献

- (1) 弥生土器：妹尾周三「安芸地方」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』耳木社 1992年
土師器：妹尾周三「山陽中部」松山智弘「山陰」『前期古墳編年を再考する』中国四国前方後円墳研究会 六一書房 2018年
- (2) 「西8地点遺跡」『東広島ニュータウン遺跡V』財团法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (3) 妹尾編年以外の土師器の時期については以下の文献を参照した。
石野博信ほか編『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣 1991年
『山口県の土師器・須恵器－集成と編年－』周陽考古学研究所 1981年
- (4) 『青谷1号遺跡発掘調査報告書』財团法人東広島市教育文化振興事業団 2002年
- (5) 「助平3号遺跡」『西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(II)』
財团法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
- (6) 鏡像の製作年代は東広島市指定調書「線刻十一面觀音鏡像」2014年による。
- (7) 「寺院 庵寺附 安芸国賀茂郡五 芸藩通志巻八十一」『芸藩通志(復刻版)卷三』芸藩通志刊行会 1967年
- (8) 「淨福寺1号遺跡」「天神遺跡」「東広島ニュータウン遺跡III」財团法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年
「淨福寺2号遺跡」『東広島ニュータウン遺跡II』財团法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993年

図 版



SB6・7作業状況（西から）

遺物写真については文化庁から「自立する土器については立面撮影。自立しない破片類は俯瞰撮影とする。」（『第10節 写真5　さまざまな遺物撮影』『発掘調査のびき—整理報告書編一』文化庁文化財部記念物課 2010年）という指針が示されている。

しかし今回、自然流路（SW1～3）から自立の如何にかわらず、土器底部の出土量が多かったため、これらについては従来の底面を下にした撮影ではなく、底面から体部の立ち上がりが立体的に観察できるよう、俯瞰撮影ではなく、底面を見せる立面撮影を多用した。



a. 調査前遠景（南から）

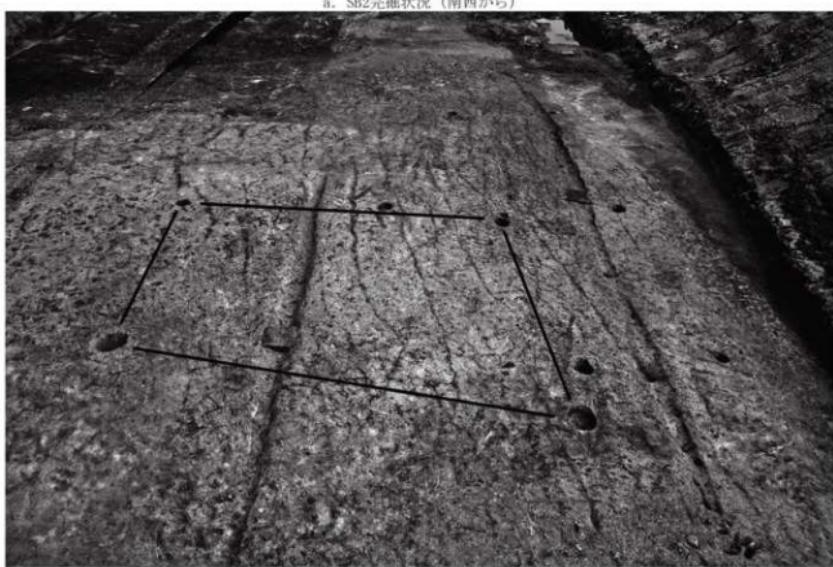


b. SB1完掘状況（西から）

図版2



a. SB2完掘状況（南西から）



b. SB3完掘状況（西から）



a. SB4完掘状況（西から）



b. SB5完掘状況（南西から）

图版4



a. SB6・7完掘状況（西から）



b. SB7遺物出土状況（西から）



c. SB7遺物出土状況（45）（北東から）



图版 6



a. SD1 完掘状況（西から）



b. SD2 完掘状況（北から）



c. SD3 完掘状況（北から）



a. SD8完掘状況（北西から）



b. SD19完掘状況（東から）



c. SD21土層設定状況（東から）

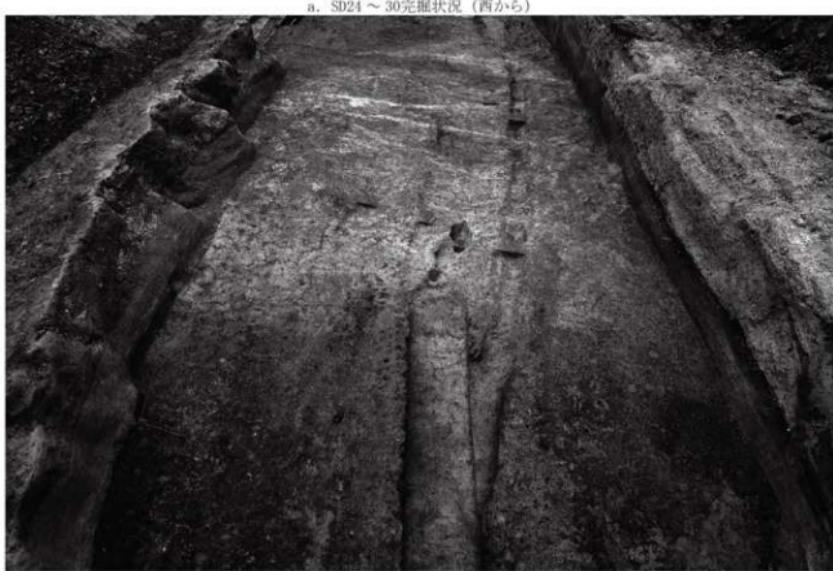


d. SD22土層設定状況（西から）

图版 8



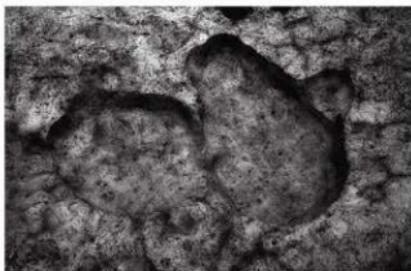
a. SD24 ~ 30完掘状況（西から）



b. SD31 ~ 34完掘状況（西から）



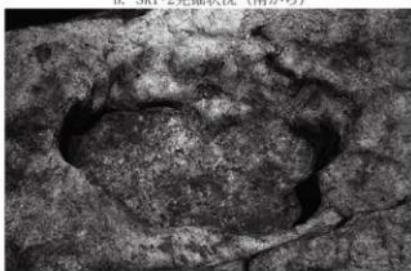
a. SK1・2土層断面（南から）



b. SK1・2完掘状況（南から）



c. SK4土層断面（南から）



d. SK4完掘状況（南から）



e. SK6・7土層断面（南西から）



f. SK6・7完掘状況（南西から）

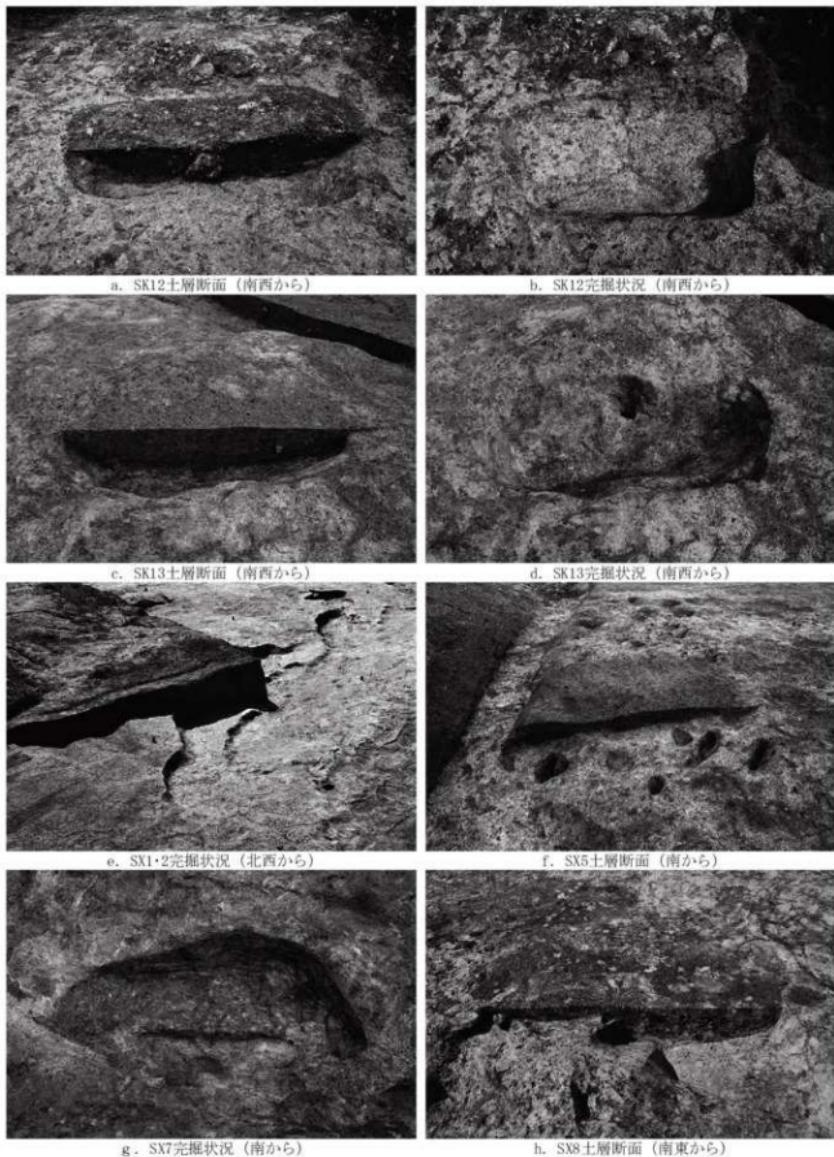


g. SK11土層断面（南から）



h. SK11完掘状況（南から）

図版10





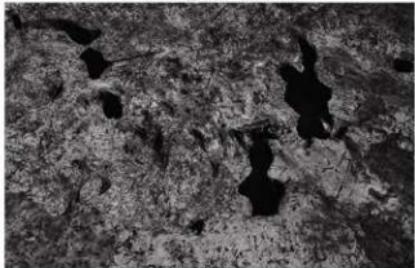
a. SX8完掘状況（南西から）



b. SX9土層断面（東から）



c. SX9遺物出土状況（89）（南から）



d. SX9完掘状況（南から）



e. B-2[SW1]検出状況（東から）



f. B-2[SW1]土層断面（東から）

図版12



a. B-2区SW2土器片・礫集中部検出状況（南から）



b. B-2区SW2土器片・礫集中部近接状況（南から）



a. B-2区SW2遺物出土状況 (138) (南から)



b. B-2区SW2遺物出土状況 (174) (南から)



c. B-2区SW2遺物検出状況 (西から)



d. B-2区SW3遺物出土状況 (253, 279) (西から)

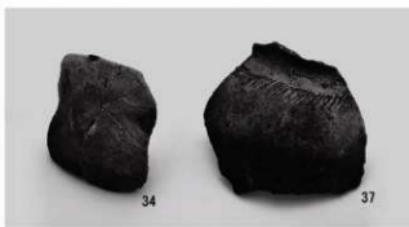
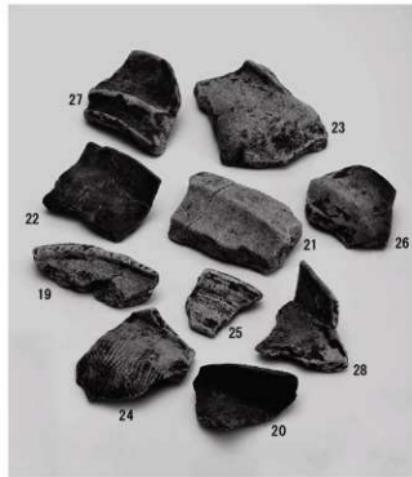
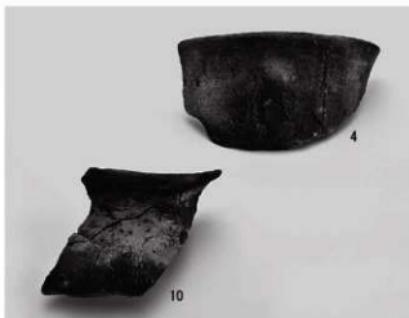
図版14



a. SW2 (SB4西側) 遺物出土状況 (312 ~ 319) (西から)

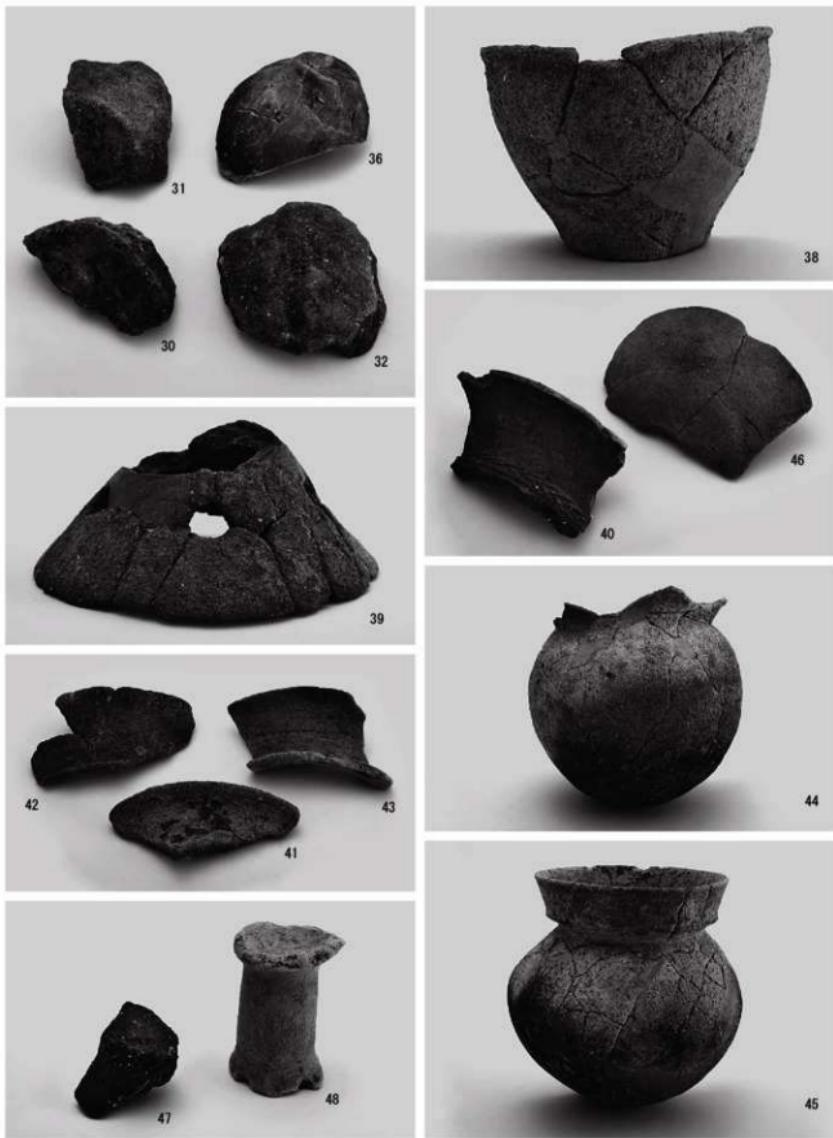


b. SW2 (SB4西側) 遺物出土状況 (312 ~ 319) (北西から)

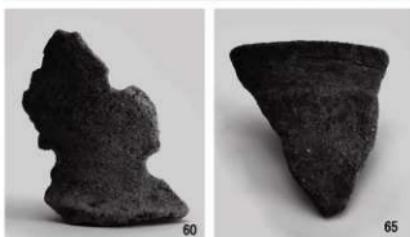
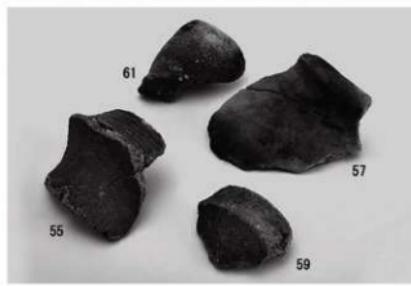
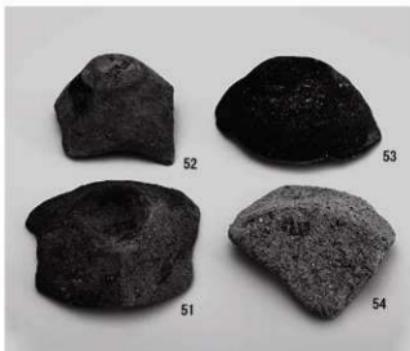


出土遺物 1

图版16

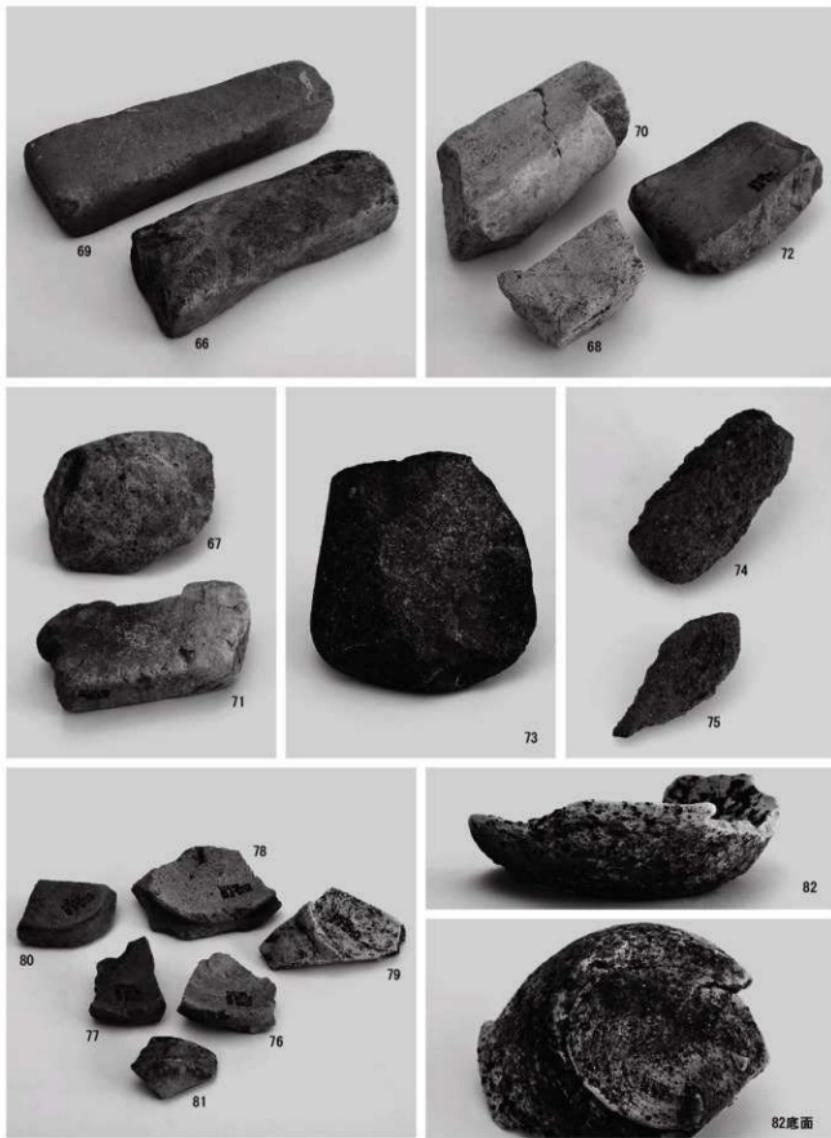


出土遗物 2

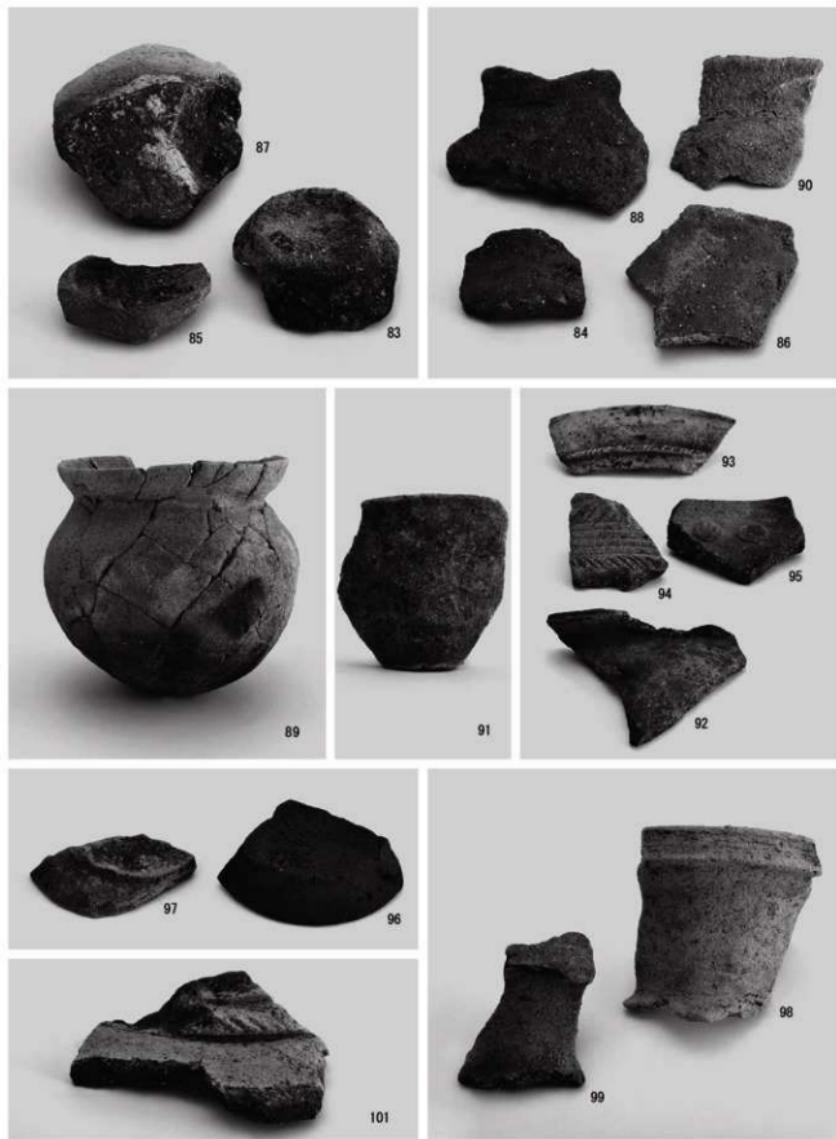


出土遺物 3

图版18

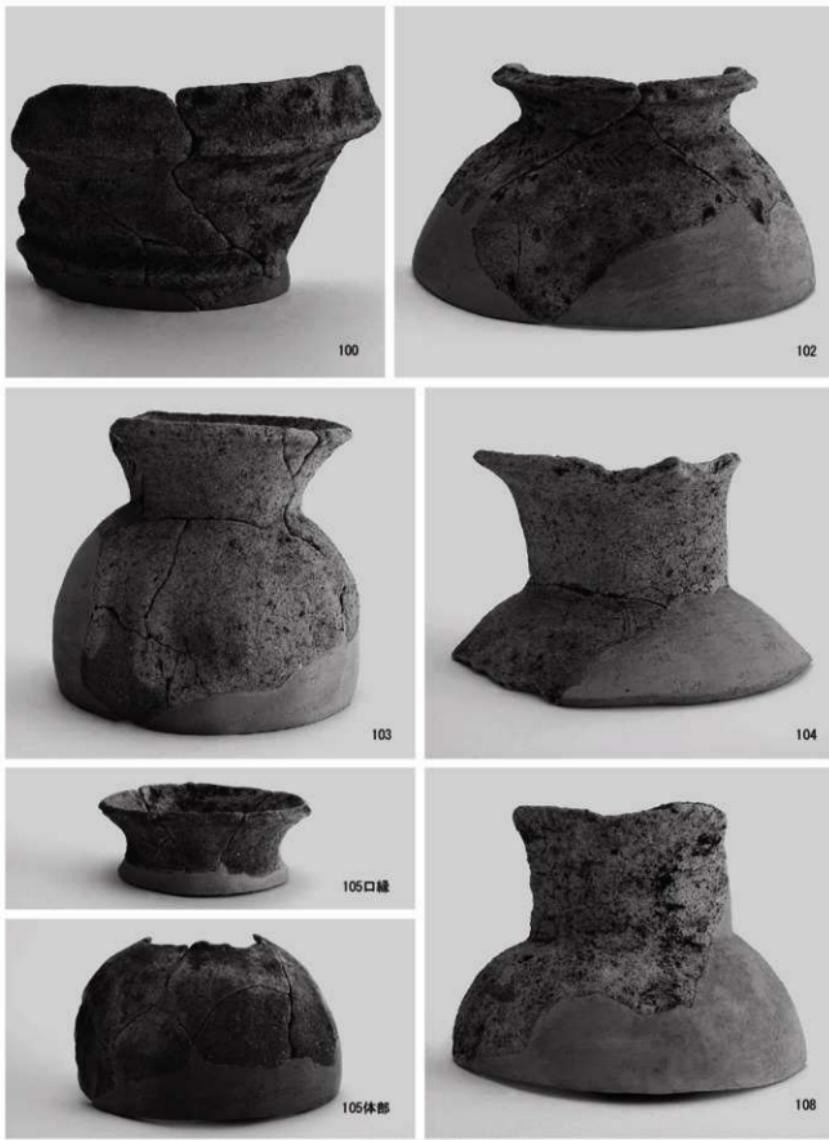


出土遗物 4



出土遺物 5

图版20



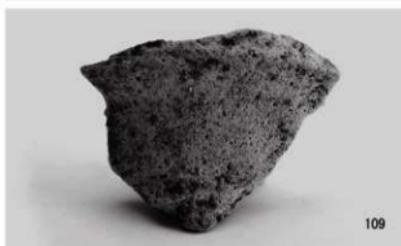
出土遗物 6



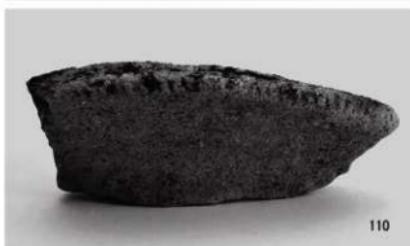
106



107



109

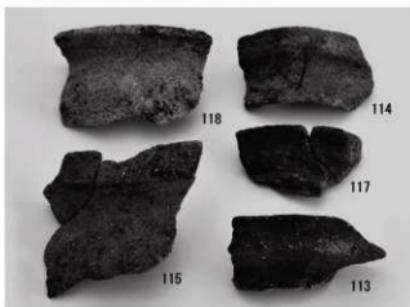


110



111

112



118

114

117

115

116

113

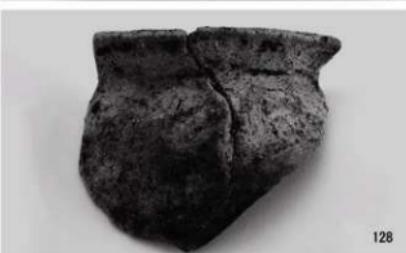
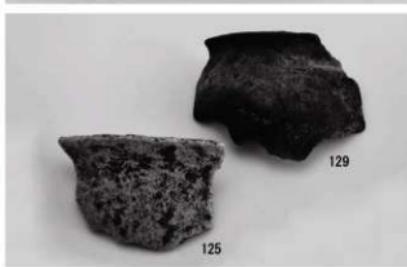


119



120

图版22



出土遗物 8



130



132



131



133



135



134



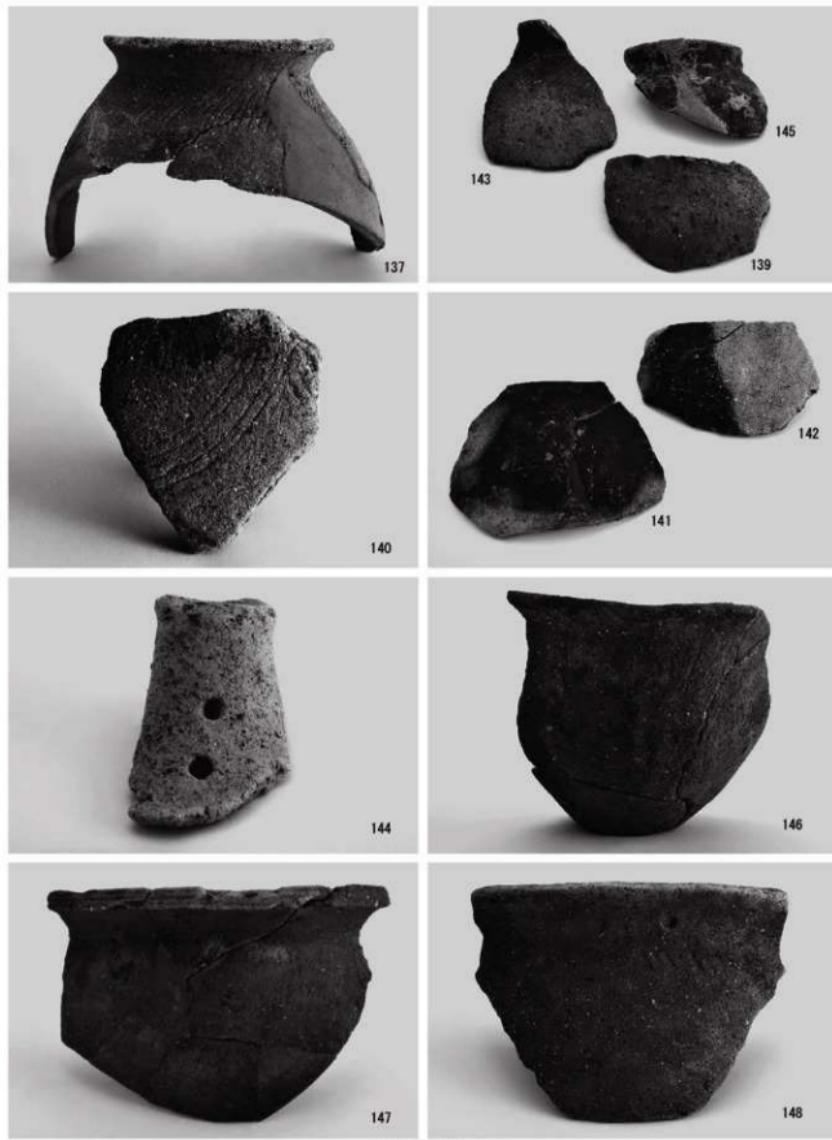
136



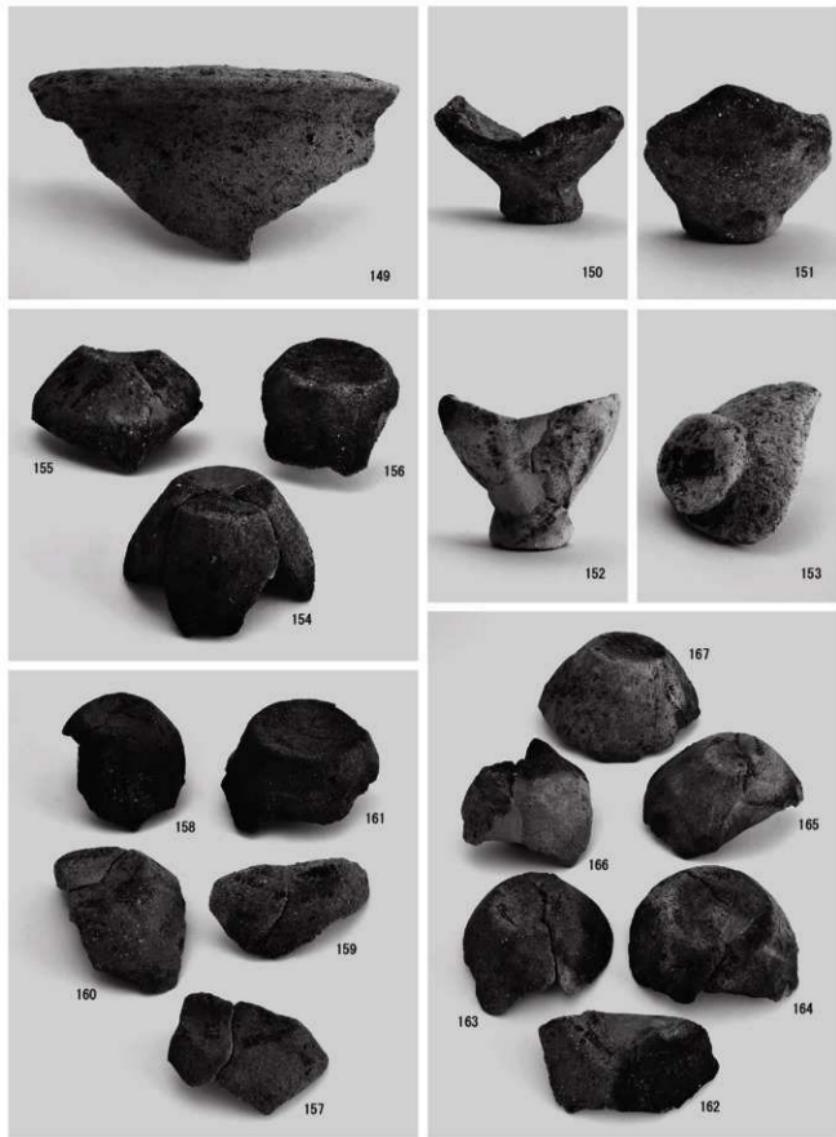
138

出土遺物 9

图版24

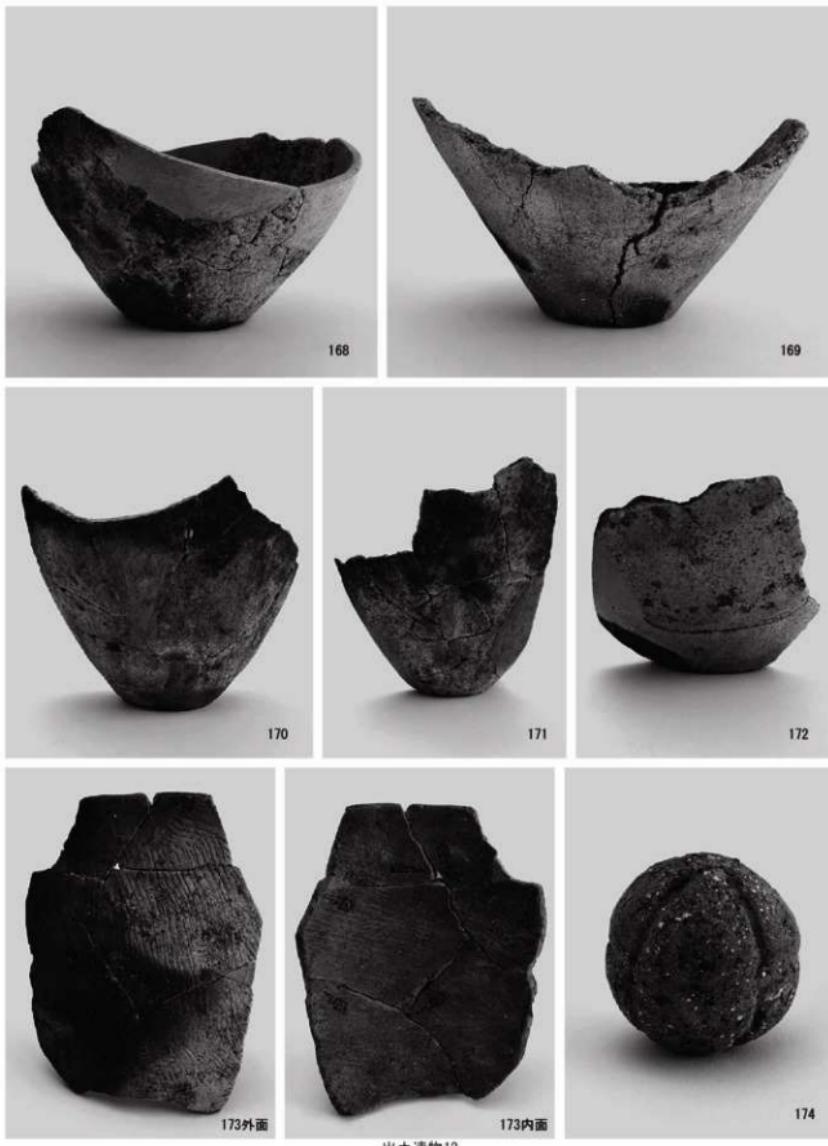


出土遗物10



出土遺物11

图版26





175



176



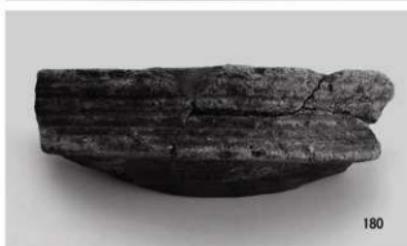
177



178



179



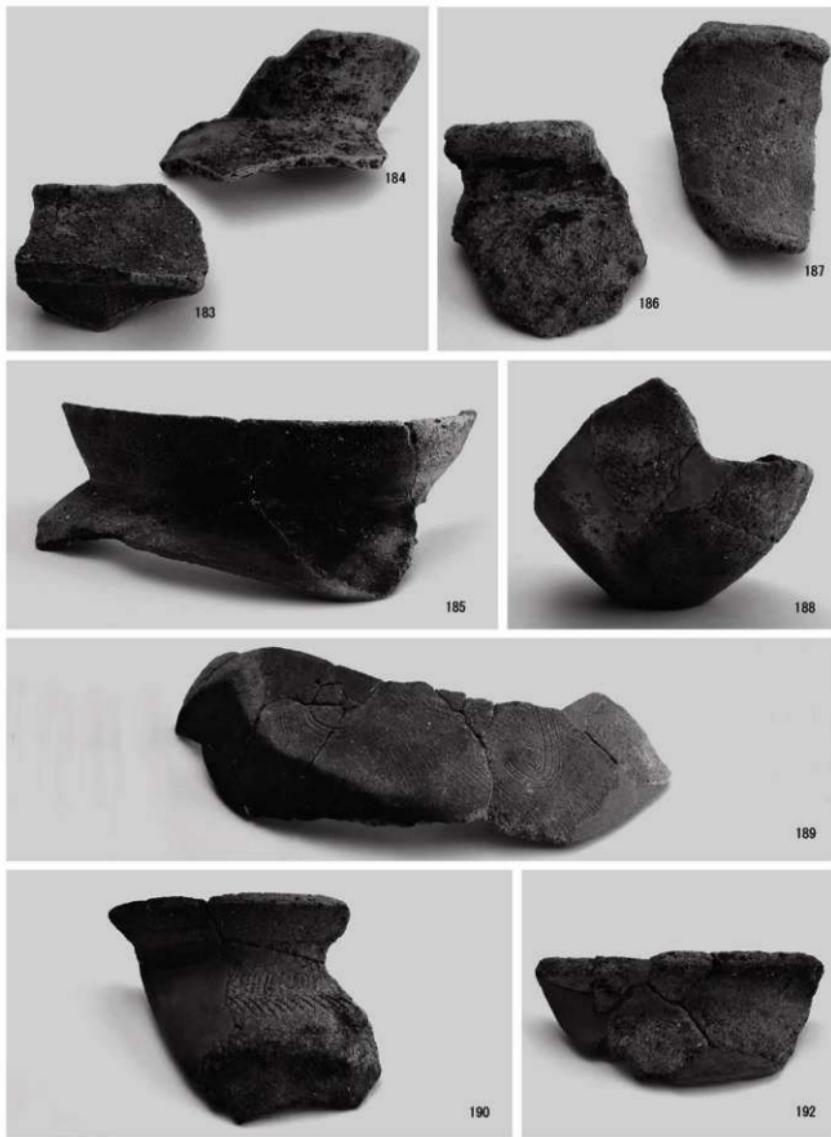
180



182

出土遺物13

图版28



出土遗物14



191



193



194



195



196

197

201

198

出土遺物15

圖版30



199



200



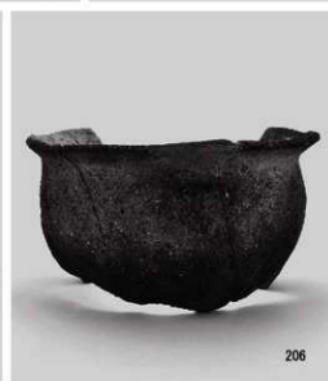
202



203



204



206



206



207

出土遺物16



211内面



216

出土遺物17

图版32



226

出土遗物18



224



227



228



229



230

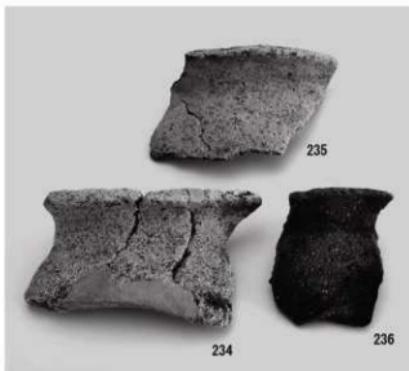


233

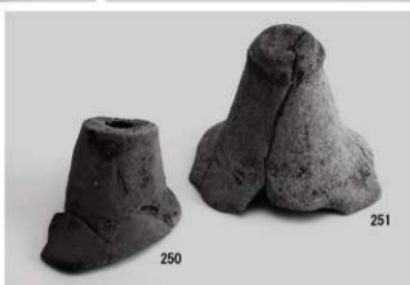


232

图版34

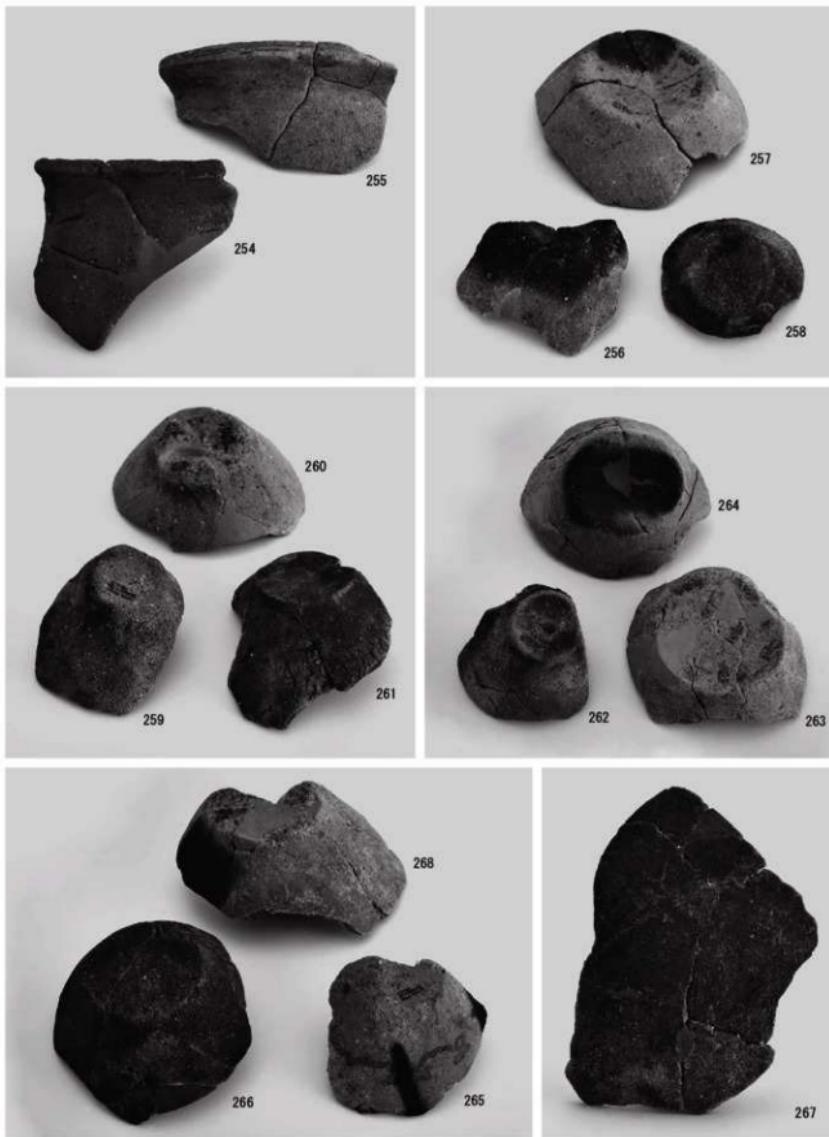


出土遗物20

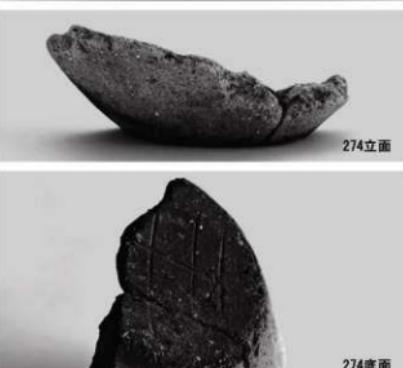
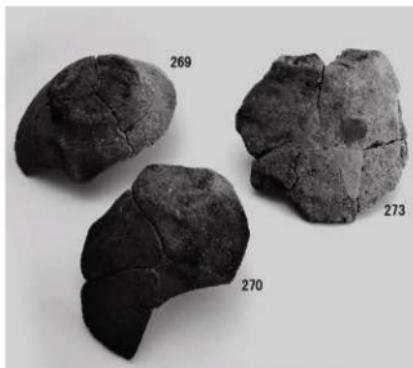


出土遺物21

圖版36

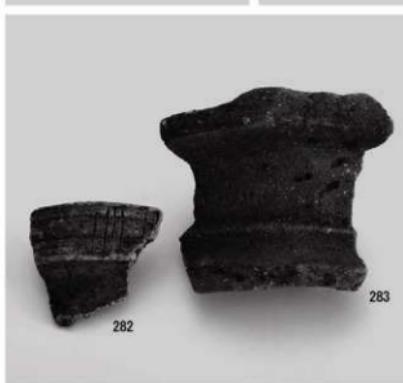


出土遺物22

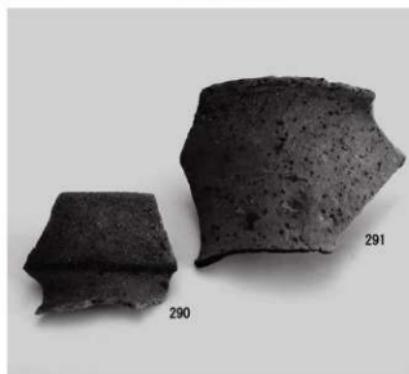


出土遺物23

图版38

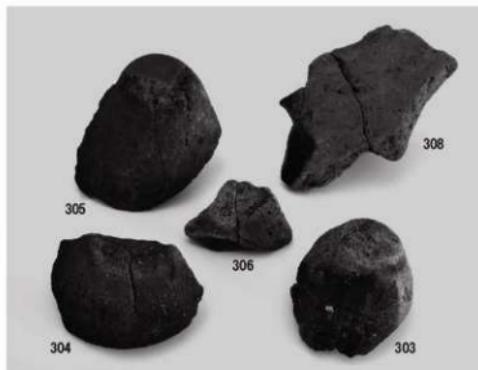
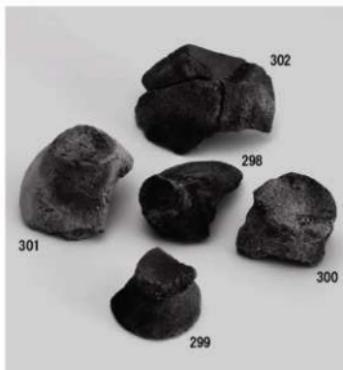


出土遗物24



出土遺物25

图版40



出土遗物26



314



314内面



315



315内面



316



317

出土遺物27

图版42



出土遗物28

報 告 書 抄 錄

東広島市教育委員会文化財調査報告書 第60集
杵原6号遺跡発掘調査報告書

—高屋町杵原住宅開発事業に係る発掘調査—

発行日 2019（平成31）年3月29日

編集 東広島市教育委員会
(東広島市出土文化財管理センター)
〒739-8601広島県東広島市西条栄町8番29号

発行 東広島市教育委員会
〒739-8601広島県東広島市西条栄町8番29号

印刷 有限会社アルティック
〒739-0036広島県東広島市西条町田口189番地230